

年報

平成13事業年度
資料編

年 報

資料編

目 次

1. 業務日誌	1
2. 評議員会	3
3. 委員会等	4
4. 予算・決算表	23
5. 役員・主要職員名	29
6. 研究発表等	30
7. ワークショップ・シンポジウム	84
8. 特許・実用新案	85
9. センター刊行物	89
10. 外国出張等	91
11. 施設・設備等の整備状況	95
(1) 主要機器の整備状況	95
(2) 共用施設・設備の利用状況	95
12. 安全対策に係る委員会等	98
13. 来訪者	99

1. 業務日誌

- 4月・固体地球統合フロンティア研究システム、極限環境生物フロンティア研究システムの発足。(1日)
・横浜研究所施設竣工式(20日)
・横須賀新港において支援母船「なつしま」とアメリカ海洋大気庁(NOAA)所属「Ronald H.Brown」の一般公開。(22日)
・「地球深部探査船」の起工式(25日)
- 5月・「大気汚染ガスの地球温暖化影響評価手法を開発」を公表(2日)
・横須賀本部の施設一般公開(12日)
- 6月・統合国際深海掘削計画(IODP)に係る暫定科学アドバイス組織支援事務所(iSAS : interm Science Advisory Structure) iSASオフィスの発足(1日)
・モントレー湾水族館研究所(MBARI)との研究協力(MOU)締結(5日)
・「しんかい12000」及び「なつしま」を沖縄県名護市において一般公開(10日)
・第3回全国児童「ハガキにかこう海洋の夢絵画コンテスト」上位入賞者「なつしま」体験乗船(16-17日)
・「地球深部探査船」の船名が「ちきゅう」に決定。(25日)
- 7月・各国在京大使館科学技術担当アタッシェのセンター訪問(5日)
・むつ研究所施設一般公開(20日)
・「しんかい16500」及び「よこすか」を大洗港で一般公開(21日)
・第1回海洋科学技術学校を開催(22-25日)
・「マリンサイエンス・スクール」(高校生23-25日,25-27日)横須賀本部で開催)
・「しんかい12000」及び「なつしま」を青森県むつ小川原港で一般公開(28-29日)
・東海沖から中部日本の海陸域で大規模な深部構造探査を実施(7月27日-9月6日)
- 8月・深海巡航探査機「うらしま」が自律無人潜水機の世界最深記録達成(3日)
・「サイエンスキャンプ2001」(高校生)を横須賀本部で開催(6-8日)
・「マリンサイエンス・スクール」(高校教諭)を横須賀本部で開催(8-10日)
・ニホンウナギの産卵生態の調査を実施。(12日-28日)
・ロポフェスタ神奈川2001横須賀会場にて「よこすか」「うらしま」を一般公開、「しんかい16500の実物大模型」の展示協力。(8月25日-9月2日)
- 9月・むつ研究所にて海洋科学技術学校を開催(16日-19日)
・横浜研究所プレス向け施設見学会を実施。(20日)
- 10月・極限環境生物フロンティア研究システム地殻内微生物研究領域の発足(1日)
・「横浜研究所」発足(1日)
・ハワイ沖でのえひめ丸引き揚げ作業に「かいれい」「かいこう」が参加。(7日~20日)
・国際科学技術ジャーナリスト会議センター見学(23日)
・「しんかい12000」及び「なつしま」を焼津港にて一般公開(27日,28日)
- 11月・「大陸間をわたるオゾン汚染・東アジアの大気汚染物質放出が地球温暖化促進を説明」を公表(8日)
・アジア・西太平洋海洋研究ネットワーク研修開催(5日-30日)
・国際新技術フェア2001に展示協力(13日-15日)
・「しんかい16500」「ハイパードルフィン」ジョイントダイブを実施(13日)
・テクノオーシャン・ユース開催(17日)
・「国際海洋環境情報センター」開所式(24日)

- 12月 ・小泉首相へ「えひめ丸」引き揚げ作業関連調査について報告(19日)
 ・ブルーアースシンポジウム開催(20.21日)
 ・「太平洋・大西洋・インド洋で新種の深海巨大イカ発見」を発表(20日)
- 1月 ・地球深部探査船「ちきゅう」の命名・進水式(18日)
 ・固体地球統合フロンティア研究システム発足シンポジウム開催(23日)
 ・「名護さくら祭り」に展示協力(25 - 27日)
- 2月 ・「梅雨前線上の豪雨の源となる降水システムの高精度観測実施」を発表(6日)
 ・平成13年度研究報告会「JAMSTEC2002」開催(13日)
- 3月 ・世界の化学天気予報モデルシステムが完成(4日)
 ・「通信衛星を利用した海洋科学教室」の公開実験実施(10日)
 ・地球フロンティア研究システム・地球観測フロンティア研究システム合同研究成果発表シンポジウム2002開催(19 - 20日)
 ・地球シュミレータ完成披露式(15日)
 ・第4回全国児童「ハガキにかこう海洋の夢絵画コンテスト」表彰式を開催(27日)

2. 評議員会

当センターは、その運営に関する重要事項を審議するために、評議員会を置いている。評議員会は、海洋開発について専門的な知識を有する者の内から、文部科学大臣の認可を受けて会長が任命した20名以内の評議員で構成されている。本年度の評議員は、以下の20名である。

評議員(五十音順、敬称略)

浅井 富雄(東京大学名誉教授)
石川 賢廣((財)海洋生物環境研究所理事長)
内田 勇夫((財)日本宇宙フォーラム理事長)
岡野 利道((社)日本造船工業会会長)
小川 健兒((財)日本海事協会副会長)
小池 勲夫(東京大学海洋研究所長)
小山 健夫(東京大学名誉教授)
千速 晃((社)日本鉄鋼連盟会長)
豊田 恵聖(東海大学海洋学部長)
鳥井 弘之(日本経済新聞社論説委員)
西室 泰三((社)日本電機工業会会長)
濱田 隆士(放送大学教授、(財)日本科学協会理事長)
平島 治((社)日本建設業団体連合会会長)
堀 由紀子((株)江ノ島水族館代表取締役社長・館長)
前田 久明(日本大学理工学部海洋建築工学科教授)
松原 謙一(大阪大学名誉教授、(財)国際高等研究所副所長)
丸野 豊子((財)大阪市教育振興公社キッズプラザ大阪館長)

南 直哉(電気事業連合会会長)
若杉 和夫(石油鉱業連盟会長)
和田 龍幸((社)経済団体連合会事務総長)

(平成14年3月31日現在)

また、本年度開催された評議員会の概要は以下のとおりである。

(1)平成13年第2回評議員会

日時 平成13年6月28日(木) 11:00~13:00
場所 経団連会館 9階 室町の間(901号室)
主な審議事項

- 1)平成12事業年度決算について
- 2)監事監査報告について
- 3)平成14年度予算概算要求の基本方針について

(2)平成14年第1回評議員会

日時 平成14年1月25日(金) 15:00~16:00
場所 海洋科学技術センター 東京連絡所
主な審議事項

- ・役員人事について

(3)平成14年第2回評議員会

日時 平成14年3月18日(月) 15:00~17:00
場所 海洋科学技術センター 東京連絡所
主な審議事項

- 1)平成14事業年度予算、事業計画、資金計画について
- 2)海洋科学技術センター定款変更(資本金増加)について

3. 委員会等

(1) 総務部関係

組換えDNA実験安全委員会

氏名	職名	氏名	職名
委員長 安藤 忠彦	科学技術会議専門委員 理化学研究所名誉教授	毛利 元彦	海洋科学技術センター 海洋生態・環境研究部長
委員 青野 力三	東京工業大学生命理工学部教授	加藤 千明	深海環境フロンティア 深海微生物研究グループ代謝・適応 機能研究チームリーダー 組換えDNA実験責任者
喜多河 康二	海洋科学技術センター 総務部総務課長	辻井 薫	深海環境フロンティア 深海微生物研究グループ ゲノム解析研究チームリーダー
坂倉 勝海	海洋科学技術センター 安全管理室長	三輪 哲也	深海環境フロンティア 深海微生物研究グループ 深海応答研究チーム研究員
堀田 平	海洋科学技術センター 企画部企画課長		
西村 一	海洋科学技術センターフロンティア 研究推進室研究事業課長		

(2) 企画部関係

沿岸環境・利用研究開発検討委員会

氏名	職名	氏名	職名
委員長 酒匂 敏次	東海大学海洋学部長	前田 久明	東京大学大学院工学系研究科教授
委員 大森 信	東京水産大学水産学部教授	井関 和夫	水産庁中央水産研究所 海洋環境研究官
荻野 静也	水産庁水産工学研究所長	大橋 孝治	社団法人全国沿岸漁業振興開発協会 専務理事
田村 正秀	財団法人土木研究センター専務理事		

研究課題評価委員会

氏名	職名	氏名	職名
委員長 浅井 富雄	東京大学名誉教授	小池 勲夫	東京大学海洋研究所教授
委員 浅井 恒雄	日本科学技術ジャーナリスト会議事務局長	玉木 賢策	東京大学海洋研究所教授
谷口 旭	東北大学大学院農学研究科教授	新田 義孝	財団法人電力中央研究所企画部長
		前田 久明	東京大学大学院工学系研究科教授

研究課題評価委員会海洋固体地球科学研究部会

氏名	職名	氏名	職名
主査 玉木 賢策	東京大学海洋研究所教授	野津 憲治	東京大学大学院理学系研究科 附属地殻化学実験施設教授
委員 塩原 肇	東京大学地震研究所助教授	湯浅 真人	独立行政法人産業技術総合研究所 地質調査情報部地質調査推進室長

研究課題評価委員会海洋観測研究部会

氏名	職名	氏名	職名
主査 今脇 資郎	九州大学応用力学研究所教授	北村 佳照	気象庁気象研究所海洋研究部 第1研究室長
委員 蒲生 俊敬	北海道大学大学院理学研究科教授	若土 正暁	北海道大学低温科学研究所長

研究課題評価委員会海洋生物・生態研究部会

氏名	職名	氏名	職名
主査 谷口 旭	東北大学大学院農学研究科教授	太田 秀	東京大学海洋研究所教授
委員 大森 信	阿嘉島臨海研究所長	田口 哲	創価大学工学部生物工学科教授
白木 啓三	産業医科大学生理学第2講座教授	日高 道雄	琉球大学理学部教授

研究課題評価委員会海洋技術開発部会

氏名	職名	氏名	職名
主査 菊池 年晃	防衛大学校地球海洋学科教授	清水 久二	横浜国立大学工学院教授
委員 井上 清	日本造船工業会技術委員会設計部会 海洋分野ワーキンググループ長	本多 中二	電気通信大学IT理工学科教授

機関評価委員会

氏名	職名	氏名	職名
茅 陽一	科学技術振興事業団茅研究事務所 環境関連研究統括	加藤 正進	財団法人電力中央研究所我孫子研究所長
今脇 資郎	九州大学応用力学研究所教授	深尾 良夫	東京大学地震研究所教授
濱田 隆士	財団法人日本科学協会理事長 放送大学教授	堀 由紀子	株式会社江ノ島水族館代表取締役館長
中村 雅美	日本経済新聞社編集局科学技術部 編集委員	松原 謙一	奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科教授
		吉田 宏一郎	東海大学海洋学部教授

(3) 深海地球ドリリング計画推進室関係

「IODP」国内連絡委員会

氏名	職名	氏名	職名
委員長 久城 育夫	東京大学名誉教授	長沼 毅	広島大学生物生産学部助教授
副委員長 岡田 尚武	北海道大学大学院理学研究科教授	浦辺 徹郎	東京大学大学院理学系研究科教授
平 朝彦	東京大学海洋研究所教授	大塚 俊道	石油公団地質調査部長
玉木 賢策	東京大学海洋研究所教授	木村 学	東京大学大学院理学系研究科教授
蒲生 俊敬	北海道大学大学院理学研究科教授	加藤 茂	海上保安庁水路部大陸棚調査室長
巽 好幸	京都大学理学部附属地熱研究施設教授	末廣 潔	海洋科学技術センター 深海研究部長
宮入 誠	石油資源開発株式会社技術研究所 企画グループ長	東 垣	海洋科学技術センター深海研究部 第1研究グループ研究主幹
西村 昭	独立行政法人産業技術総合研究所 地質調査所海洋地質部長	高川 真一	海洋科学技術センター深海地球 ドリリング計画推進室技術開発 研究グループ研究主幹

海洋地球科学技術懇談会

氏名	職名	氏名	職名
荒牧 重雄	日本大学文理学部教授	田中 彰一	東京大学名誉教授
金森 博雄	カリフォルニア工科大学教授	戸野 聡	帝国石油株式会社常務取締役
斉藤 常正	東北大学名誉教授	鳥羽 良明	東北大学名誉教授
高橋 真理子	朝日新聞論説委員室論説委員	吉田 宏一郎	東海大学海洋学部教授

地球深部探査船建造技術委員会

氏名	職名	氏名	職名
委員長 田中 彰一	東京大学名誉教授	坂本 優	財団法人日本海事協会室長
委員 大松 重雄	独立行政法人海上技術安全研究所 海洋開発工学部長	寶田 直之助	前横浜国立大学教授
金原 勲	東京大学大学院教授	栃川 哲朗	石油公団技術部開発技術課長
小泉 格	北海道大学大学院理学研究科教授	森田 信男	早稲田大学教授
小林 和男	東京大学名誉教授	吉田 宏一郎	東海大学海洋学部教授

IODP国内科学掘削推進委員会

氏名	職名	氏名	職名
委員長 木下 肇	海洋科学技術センター理事	栃川 哲朗	石油公団技術部開発技術課長
委員 伊藤 久男	独立行政法人産業技術総合研究所 地球科学情報研究部門主任研究員	中嶋 悟	東京工業大学大学院理工学研究科教授
岡田 尚武	北海道大学地球惑星物質科学教室教授	濱野 洋三	東京大学大学院理学系研究科教授
加藤 憲二	静岡大学理学部 生物地球環境科学科教授	深尾 良夫	東京大学地震研究所教授
川幡 穂高	独立行政法人産業技術総合研究所 海洋資源環境研究部門主任研究員	丸山 茂徳	東京工業大学大学院理工学研究科教授
小泉 格	北海道大学名誉教授	末廣 潔	海洋科学技術センター 深海研究部長
平 朝彦	東京大学海洋研究所教授	辻井 薫	深海環境フロンティア 深海微生物研究グループ ゲノム解析研究チームリーダー
多田 隆治	東京大学大学院理学系研究科教授	巽 好幸	地球フロンティア研究システム 領域長
徳山 英一	東京大学海洋研究所教授		

サイト・サーベイワーキンググループ

氏名	職名	氏名	職名
グループ長 倉本 真一	独立行政法人産業技術総合研究所 海洋資源環境研究部門主任研究員	鶴 哲朗	固体地球統合フロンティア研究 システム上級技術研究員
委員 沖野 郷子	東京大学海洋研究所助手	野木 義史	国立極地研究所助教授
津村 紀子	千葉大学理学部地球科学教室助手	朴 進午	固体地球統合フロンティア 研究システム研究員
		籾 浩明	富山大学理学部助教授

国際陸上科学掘削計画(ICDP)国内実施委員会

氏名	職名	氏名	職名
委員長 齋藤 常正	東北大学名誉教授	宇都 浩三	独立行政法人産業技術総合研究所 地球科学情報研究部門グループ長
副委員長 末廣 潔	海洋科学技術センター 深海研究部長	齋藤 清次	東北大学大学院工学系研究科教授
委員 池田 隆治	独立行政法人防災科学技術研究所 固体地球研究部門統括主任研究員	藤井 直之	名古屋大学大学院理学研究科教授
伊藤 久男	独立行政法人産業技術総合研究所 地球科学情報研究部門グループ長	新妻 信明	静岡大学理学部教授
浦辺 徹郎	東京大学大学院理学系研究科教授	田中 秀実	東京大学大学院 理学系研究科地球惑星科学
		徐 垣	海洋科学技術センター深海研究部 第1研究グループ研究主幹

孔内計測検討ワーキング・グループ

氏名	職名	氏名	職名
グループ長 篠原 雅尚	東京大学地震研究所助教授	小林 照明	海洋科学技術センター 深海地球ドリリング計画推進室主任
委員 日野 亮太	東北大学大学院地震・ 噴火予知研究観測センター助教授	許 正憲	海洋科学技術センター 深海地球ドリリング計画推進室 技術開発グループ副主幹
森田 信男	早稲田大学 理工学部環境資源工学科教授	荒木 英一郎	海洋科学技術センター深海研究部研究員
齋藤 実篤	海洋科学技術センター深海研究部 副主幹	後藤 忠徳	海洋科学技術センター深海研究部研究員
木下 正高	海洋科学技術センター深海研究部 副主幹	手塚 和彦	石油資源開発株式会社技術研究所 主任研究員
黒木 一志	海洋科学技術センター深海地球 ドリリング計画推進室企画調整課 運用計画係長	高橋 亨	応用地質株式会社つくば技術開発 センター探査工学センター所長
三ヶ田 均	海洋科学技術センター深海研究部 副主幹	田所 敬一	名古屋大学大学院理学研究科 地震火山観測研究センター助手
難波 謙二	東京大学大学院 農学生命科学研究科助手	鎌田 正博	シュルンベルジェK.K 淵野辺技術センター プロジェクトマネージャー
角皆 潤	北海道大学大学院理学研究科助教授	西 将利	シュルンベルジェK.K 解析・コンサルティング部門 オペレーションマネージャー

分析・コア・データ検討専門部会

氏名	職名	氏名	職名
委員長 中嶋 悟	東京工業大学大学院理工学研究科教授	辻井 薫	極限環境生物フロンティア 研究システム領域長
委員 相田 吉昭	宇都宮大学農学部助教授	町山 栄章	海洋科学技術センター深海研究部 研究員
阿波根 直一	海洋科学技術センターむつ研究所 研究員	村山 雅史	高知大学海洋コア研究センター 助教授
大隅 多加志	財団法人地球環境産業技術研究機構 主席研究員	山本 正伸	北海道大学大学院地球環境科学研究科 助教授
金松 敏也	海洋科学技術センター深海研究部 研究員		

地球内部変動検討専門部会

氏名	職名	氏名	職名
部会長 巽 好幸	固体地球統合フロンティア 研究システム領域長	高橋 栄一	東京工業大学大学院理工学研究科教授
委員 芦 寿一郎	東京大学海洋研究所助教授	大幡 芳彦	固体地球統合フロンティア 研究システムグループリーダー
海野 進	静岡大学理学部助教授	角皆 潤	北海道大学大学院理学研究科助教授
木村 学	東京大学大学院理学系研究科教授	徳永 朋祥	東京大学大学院工学系研究科
小平 秀一	固体地球統合フロンティア 研究システムグループリーダー	中西 正男	千葉大学大学院自然科学研究科助教授
佐藤 幹夫	独立行政法人産業技術総合研究所 地圏資源環境研究部門主任研究員	藤林 紀枝	新潟大学教育人間科学部地学教室助教授
		山野 誠	東京大学地震研究所助教授

掘削・計測検討専門部会

氏名	職名	氏名	職名
部会長 伊藤 久男	独立行政法人産業技術総合研究所 地球科学情報研究部主任研究員	斎藤 実篤	海洋科学技術センター深海研究部 副主幹
委員 荒戸 裕之	帝国石油株式会社探鉱部主査	篠原 雅尚	東京大学地震研究所助教授
内田 真人	石油資源開発株式会社探鉱技術部長	高橋 成実	海洋科学技術センター深海研究部研究員
金川 久一	千葉大学理学部地球科学教室助教授	日野 亮太	東北大学大学院地震・噴火予知研究 観測センター助教授
木下 正高	海洋科学技術センター深海研究部 副主幹	三ヶ田 均	海洋科学技術センター深海研究部 副主幹
倉本 真一	独立行政法人産業技術総合研究所 海洋資源環境研究部門主任研究員		

地球環境変動検討専門部会

氏名	職名	氏名	職名
部会長 多田 隆治	東京大学大学院理学系研究科教授	西 弘嗣	九州大学大学院比較社会文化研究科 助教授
委員 阿部 彩子	東京大学気候システム研究センター助手	保柳 康一	信州大学理学部助教授
小玉 一人	高知大学海洋コア研究センター教授	松田 博貴	熊本大学理学部助教授
坂本 竜彦	北海道大学大学院理学研究科助手	安田 尚登	高知大学海洋コア研究センター教授
徐 垣	海洋科学技術センター深海研究部主幹	山崎 俊嗣	独立行政法人産業技術総合研究所 海洋資源環境研究部門主任研究員
高橋 孝三	九州大学大学院理学研究科教授	Richard Jordan	山形大学理学部地球環境学科助教授

“運用・技術開発センター”事前評価委員会

氏名	職名	氏名	職名
上田 誠也	理化学研究所地震国際フロンティア 研究グループディレクター	田中 彰一	東京大学名誉教授
大河原 豊重	社団法人日本船長協会専務理事	水上 千之	広島大学法学部教授
斎藤 常正	東北大学名誉教授	吉田 宏一郎	東海大学海洋学部教授

地殻内生物検討専門部会

氏名	職名	氏名	職名
部会長 跡見 晴幸	京都大学大学院工学研究科助教授	高井 研	極限環境生物フロンティア 研究システムサブグループリーダー
大江 俊昭	東海大学工学部応用理学科教授	長沼 毅	広島大学生物生産学部助教授
加藤 憲二	静岡大学理学部教授	難波 謙二	東京大学大学院農学生命科学研究科助手
河崎 行繁	三菱化学生命科学研究所客員研究員	丸山 明彦	独立行政法人産業技術総合研究所 生物遺伝子資源研究部門 グループリーダー
北里 洋	静岡大学理学部教授	山本 啓之	聖マリアンナ医科大助教授
鈴木 徳行	北海道大学大学院理学研究科教授		

(4)フロンティア研究推進室関係

深海環境フロンティア運営委員会

氏名	職名	氏名	職名
委員長 奈須 紀幸	東京大学名誉教授	吉良 爽	理化学研究所副理事長
委員 岡見 吉郎	財団法人微生物化学研究所副所長	小池 勲夫	東京大学海洋研究所教授
門田 元	京都大学名誉教授	松永 是	東京農工大学工学部教授
北川 勲	近畿大学薬学部教授	宮地 重遠	株式会社海洋バイオテクノロジー 研究所特別顧問
		大和田 紘一	東京大学海洋研究所教授

海底下深部構造フロンティア運営委員会

氏名	職名	氏名	職名
委員長 吉井 敏尅	東京大学地震研究所教授	長谷川 昭	東北大学大学院理学研究科教授
委員 島村 英紀	北海道大学理学部教授	齋藤 正徳	横浜市立大学理学部教授

地球フロンティア研究システム運営委員会

氏名	職名	氏名	職名
委員長 浅井 富雄	科学技術振興事業団研究統括	由良 武	気象庁気候・海洋気象部長
副委員長 平 啓介	東京大学海洋研究所長	田中 正之	東北工業大学教授
委員 片山 恒雄	独立行政法人防災科学技術研究所長	鳥羽 良明	東北大学名誉教授
吉良 爽	理化学研究所副理事長	中山 嵩	気象庁気象研究所長
久保 良雄	海上保安庁水路部長	廣居 忠量	林野庁森林総合研究所長
合志 陽一	国立環境研究所副所長	藤井 理行	国立極地研究所 北極圏環境研究センター長
坂田 俊文	地球科学技術推進機構長	三好 甫	地球シミュレーション研究開発センター長
住 明正	東京大学気候システム研究センター長	浮 永久	水産庁増殖推進部参事官
		和田 英太郎	京都大学生態学研究センター教授

地球観測フロンティア研究システム運営委員会

氏名	職名	氏名	職名
委員長 浅井 富雄	科学技術振興事業団研究統括	由良 武	気象庁気候・海洋気象部長
副委員長 平 啓介	東京大学海洋研究所長	田中 正之	東北工業大学教授
委員 片山 恒雄	独立行政法人防災科学技術研究所長	鳥羽 良明	東北大学名誉教授
吉良 爽	理化学研究所副理事長	中山 嵩	気象庁気象研究所長
久保 良雄	海上保安庁水路部長	廣居 忠量	林野庁森林総合研究所長
合志 陽一	国立環境研究所副所長	藤井 理行	国立極地研究所 北極圏環境研究センター長
坂田 俊文	地球科学技術推進機構長	三好 甫	地球シミュレーション研究開発センター長
住 明正	東京大学気候システム研究センター長	安永 義暢	水産庁資源生産推進部参事官
		和田 英太郎	京都大学生態学研究センター教授

地球フロンティア研究システム中間評価委員会

氏名	職名	氏名	職名
委員長 新田 尚	株式会社ハレックス相談役	Berrien Moore	Professor Office of the Director Morse Hall Institute for the Study of Earth, Oceans, and Space University of New Hampshire
委員 西岡 秀三	慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科教授	Guy Brasseur	Director and Scientific member of the Max-Planck-Institute for Meteorology, Department for Atmospheric Chemistry and Climate Dynamics and Scientific Director of the Deutsches Klimarechenzentrum
光易 恒 Akio Arakawa	九州大学名誉教授 Prof. Emeritus Dept. Of Atmospheric Sciences, University of California	Gray Meyers	Oceans and Climate Program Leader CSIRO Marine Research
Soroosh Sorooshian	Regents Professor and Director of NSF-STC Sustainability of Semi-Arid Hydrology and Riparian Areas		

極限環境生物フロンティア研究システム中間評価委員会

氏名	職名	氏名	職名
委員長 Alan T. Bull	Professor Department of Bioscience, University of Kent	Roy H. Doi	Professor of Molecular & Cellular Biology University of California
委員 Garabed Antranikian	Professor Technical University of Hamburg-Hamburg, Center for Biotechnology of Extremophiles	大島 泰郎	東京薬科大学生命科学部教授
Alexander Malahoff	Professor, Department of Oceanography Director, Hawaii Undersea Research Laboratory		

IARC改善委員会

氏名	職名	氏名	職名
委員長 松野 太郎	地球フロンティア研究システム システム長	瀧澤 隆俊	海洋科学技術センター 海洋観測研究部長
委員 田中 浩	名古屋大学大学院環境学研究科教授	大築 二三夫	宇宙開発事業団地球観測利用センター長
山内 恭	南極圏環境モニタリング 研究センター教授	漆原 英二	海洋科学技術センター企画部長
遠藤 昌宏	気象研究所海洋研究部第2研究室長	井上 直樹	海洋科学技術センター フロンティア研究推進室長

日本沿海予測実験に係る係留系検討委員会

氏名	職名	氏名	職名
委員長 釣谷 康	海洋科学技術センター海洋技術研究部長	畠山 清	海洋科学技術センター 海洋観測研究部第3研究グループ副主幹
委員 深沢 理郎	海洋科学技術センター海洋観測研究部 第2研究グループ主幹	市川 洋	日本沿海予測実験グループリーダー
網谷 泰孝	海洋科学技術センター海洋技術研究部 第1研究グループ副主幹	門馬 大和	日本海洋事業株式会社 海洋科学部長
鷲尾 幸久	海洋科学技術センター海洋技術研究部 第3研究グループ副主幹	高尾 宏一	株式会社マリン・ワーク・ジャパン 海洋科学部海洋調査室長

(5) 深海研究部関係

「リアルタイム海底変動観測システム」計画検討委員会

氏名	職名	氏名	職名
委員長 金沢 敏彦	東京大学地震研究所教授	島村 英紀	北海道大学地震火山研究観測 センター長、教授
委員 片尾 浩	京都大学防災研究所助手	都司 嘉宣	東京大学地震研究所助教授
浦 環	東京大学生産技術研究所教授	日野 亮太	東北大学大学院理学研究科助教授
卜部 卓	東京大学地震研究所助教授	長尾 年恭	東海大学地震予知研究センター長 ・助教授
岡村 眞	高知大学理学部教授	白崎 勇一	国際海洋エンジニアリング(株) 代表取締役社長
笠原 順三	東京大学地震研究所教授	保立 和夫	東京大学大学院新領域創成研究科教授
川崎 一郎	富山大学理学部教授	末廣 潔	海洋科学技術センター 深海研究部長
西田 英男	海上保安庁水路部企画課長	網谷 泰孝	海洋科学技術センター海洋技術研究部 第1研究グループ研究副主幹
小宮 學	気象庁地震火山部管理課長		
小牧 和雄	国土地理院測地部長		

海底長期観測検討委員会

氏名	職名	氏名	職名
委員長 深尾 良夫	東京大学地震研究所 海半球観測研究センター長	力石 園男	弘前大学理工学部教授
委員 笠原 順三	東京大学地震研究所教授	歌田 久司	東京大学地震研究所教授
島村 英紀	北海道大学理学部教授	都司 嘉宣	東京大学地震研究所助教授
藤本 博巳	東北大学大学院理学研究科教授	濱田 信生	気象庁地震火山部予知情報課長
安藤 雅孝	名古屋大学大学院理学研究科教授	矢吹 哲一朗	海上保安庁水路部研究員
濱野 洋三	東京大学大学院理学系研究科教授	佐竹 健治	独立行政法人産業技術総合研究所 地質調査所地震地質部研究員
伊勢崎 修弘	千葉大学理学部教授	末廣 潔	海洋科学技術センター 深海研究部長

(6) 海洋技術研究部関係

波力利用システム研究会

氏名	職名	氏名	職名
委員長 本間 琢也	筑波大学名誉教授 燃料電池開発情報センター常任理事	角湯 正剛	財団法人電力中央研究所我孫子研究所 副所長
委員 荒川 忠一	東京大学大学院情報学環教授	高木 儀昌	水産庁水産総合研究センター水産工学 研究所水産土木工学部漁場施設研究室長
大川 豊	独立行政法人海上技術安全研究所 海洋開発工学部運動性研究室長	高橋 重雄	独立行政法人港湾空港技術研究所 海洋水工部長
木下 健	東京大学生産技術研究所教授	前田 久明	日本大学総合科学研究所教授

AUV技術評価委員会

氏名	職名	氏名	職名
委員長 三浦 宏文	工学院大学教授	加藤 直三	東海大学海洋学部教授
委員 浦 環	東京大学生産技術研究所教授	高木 道雄	財団法人日本海事協会主管
梶川 武信	湘南工科大学工学部長	山本 澈誠	高圧ガス保安協会調査役
瀧澤 隆俊	海洋科学技術センター海洋観測研究部 第3研究グループ研究主幹	渡辺 巖	独立行政法人海上技術安全研究所部長
		松本 剛	海洋科学技術センター深海研究部 第2研究グループ研究副主幹

タービン・圧縮機専門部会

氏名	職名	氏名	職名
委員長 荒川 忠一	東京大学大学院情報学環教授	瀬戸口 俊明	佐賀大学理工学部教授
委員 鈴木 正己	東京大学大学院工学系研究科助手	水谷 八郎	独立行政法人産業技術総合研究所 機械システム研究部門主任研究員
		増田 光一	日本大学理工学部教授

係留システム専門部会

氏名	職名	氏名	職名
委員長 小寺山 亘	九州大学応用力学研究所教授	白石 悟	独立行政法人港湾空港技術研究所 地盤・構造部海洋構造研究室長
委員 井上 義行	横浜国立大学大学院環境情報研究院 環境システム学専攻教授	高木 儀昌	水産庁水産総合研究センター水産工学 研究所水産土木工学部漁場施設研究室長
増田 光一	日本大学理工学部教授	加藤 俊司	独立行政法人海上技術安全研究所 海洋開発研究領域グループリーダー

深海係留パイ検討委員会

氏名	職名	氏名	職名
委員長 前田 久明	東京大学大学院工学系研究科教授	大山 準一	気象庁気候・海洋気象部海洋気象課長
委員 川辺 正樹	東京大学海洋研究所助教授	竹内 謙介	北海道大学低温科学研究所教授
小寺山 亘	九州大学応用力学研究所教授	渡辺 喜保	独立行政法人海上技術安全研究所 海洋開発工学部浮体係留研究室長

海洋物質循環観測プラットフォーム委員会

氏名	職名	氏名	職名
委員長 小寺山 亘	九州大学応用力学研究所教授	吉岡 洋	京都大学防災研究所助手
委員 中山 英一郎	滋賀県立大学環境科学部教授	塚本 修	岡山大学理学部教授
石丸 隆	東京水産大学海洋環境学科教授	上井 哲也	気象庁気候・海洋気象部海洋課 海洋気象パイロボット班長
山本 晋	独立行政法人産業技術総合研究所 資源環境技術総合研究所首席研究官	鳥羽 良明	海洋科学技術センター研究顧問
小森 悟	京都大学大学院工学研究科教授	遠藤 昌宏	海洋科学技術センター 海洋観測研究部長
大川 豊	独立行政法人海上技術安全研究所 開発工学部運動性研究室長	藤田 俊助	海洋科学技術センター 海洋技術研究部長

(7)海洋観測研究部関係

大気 - 海洋相互作用研究委員会

氏名	職名	氏名	職名
委員長 住 明正	東京大学気候システム研究センター教授	上田 博	北海道大学大学院理学研究科教授
委員 石田 廣史	神戸商船大学商船学部教授	竹内 謙介	北海道大学低温科学研究所教授
岩波 越	独立行政法人防災科学技術研究所気圏・水圏地球科学技術研究部主任研究員	塚本 修	岡山大学理学部教授
佐伯 理郎	気象庁気候・海洋気象部気象課長	中澤 哲夫	気象庁気象研究所台風研究部第2研究室主任研究官
		中村 健治	名古屋大学大気水圏科学研究所教授

音響トモグラフィ観測研究専門部会

氏名	職名	氏名	職名
部会長 池田 元美	北海道大学大学院地球環境科学研究科教授	蜂屋 弘之	千葉大学情報画像工学科教授
専門委員 関根 義彦	三重大学生物資源学部教授	尹 宗煥	九州大学応用力学研究所教授
金子 新	広島大学工学部教授	遠藤 信行	神奈川大学工学部電機工学科

海洋物質循環委員会

氏名	職名	氏名	職名
委員長 半田 暢彦	愛知県立大学教授	加藤 義久	東海大学海洋学部教授
委員 角皆 静男	北海道大学大学院地球環境科学研究科教授	植松 光夫	東京大学海洋研究所助教授
小池 勲夫	東京大学海洋研究所教授	川幡 穂高	独立行政法人産業技術総合研究所地質調査所海洋地質部主任研究官
才野 敏郎	名古屋大学大気水圏科学研究所教授	原田 晃	独立行政法人産業技術総合研究所資源環境技術総合研究所環境影響予測研究部海洋環境予測研究室長
吉川 久幸	気象庁気象研究所地球化学研究部室長	陶 正史	海上保安庁水路部海洋調査課長
		井関 和夫	水産庁瀬戸内海区水産研究所瀬戸内海海洋環境部長

海洋基礎生産力観測研究会

氏名	職名	氏名	職名
委員長 石丸 隆	東京水産大学教授	安田 嘉純	千葉大学工学部教授
委員 谷口 旭	東北大学農学研究科教授	千賀 康弘	東海大学海洋学部教授
才野 敏郎	名古屋大学大気水圏科学研究所教授	古谷 研	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
		斉藤 誠一	北海道大学水産学部教授

(8)海洋生態・環境研究部関係

潜水実験安全性検討委員会

氏名	職名	氏名	職名
委員長 山林 一	東海大学健康科学部長	谷島 一嘉	日本大学医学部教授
委員 寺田 泰治	前日本海事協会技術研究所長	久米 稔	早稲田大学文学部教授
清水 久二	横浜国立大学工学部教授	稲原 泰平	金沢経済大学助教授
本山 建雄	独立行政法人産業安全研究所 物理工学安全研究グループ主任研究員	有馬 宝主	東洋精機株式会社部長
		毛利 元彦	海洋科学技術センター 海洋生態・環境研究部長

科学潜水研究会

氏名	職名	氏名	職名
委員長 坂本 亘	京都大学大学院農学研究科教授	林 育夫	水産庁日本海区水産研究所 海区産業研究部海区産業室長
委員 杉本 隆成	東京大学海洋研究所教授	有元 貴文	東京水産大学水産学部海洋生物学科教授
平石 智徳	北海道大学水産学部助教授	金本 自由生	愛媛大学沿岸環境科学研究センター助手
西平 守孝	東北大学大学院理学研究科教授	山岡 耕作	高知大学農学部教授
青木 優和	筑波大学生物科学系下田臨海実験 センター講師	中園 明信	九州大学農学部教授
渡部 俊広	水産庁水産工学研究所漁業生産工学部 漁法研究室長	野島 哲	九州大学大学院理学研究科附属 天草臨海実験所助教授
小松 輝久	東京大学海洋研究所助教授	四宮 明彦	鹿児島大学水産学部助教授
前川 行幸	三重大学生物資源学部教授	吉野 哲夫	琉球大学理学部助教授

高圧生理学研究会

氏名	職名	氏名	職名
委員長 松岡 成明	産業医科大学名誉教授	清水 強	福島県立医科大学医学部教授
委員 鹿島 勇	神奈川歯科大学教授	白木 啓三	産業医科大学教授
川島 真人	川島整形外科病院長	鈴木 久喜	東北文化学園大学科学技術学部教授
北野 元生	鹿児島大学歯学部教授	湯川 眞嘉	日本大学生物資源科学部助教授
今田 育秀	産業医科大学教授	富澤 儀一	東京理科大学教授

海洋生態系研究委員会サンゴ礁生態系研究部会

氏名	職名	氏名	職名
部長 平野 哲也	ハワイ大学海洋地球学部教授	友定 彰	水産庁中央水産研究所海洋生産部長
部員 高橋 正征	東京大学大学院総合文化研究科教授	四宮 明彦	鹿児島大学水産学部助教授
谷口 旭	東北大学大学院農学研究科教授	杉本 隆成	東京大学海洋研究所教授
大森 信	東京水産大学資源育成学科教授	田口 哲	創価大学工学部教授
		日高 道雄	琉球大学理学部教授

海洋生態系研究委員会深海生態系研究部会

氏名	職名	氏名	職名
部長 太田 秀	東京大学海洋研究所教授	谷口 旭	東北大学大学院農学研究科教授
部員 高橋 正征	東京大学大学院総合文化研究科教授	山口 壽之	千葉大学海洋バイオシステム研究センター教授
三浦 知之	鹿児島大学大学院連合農学研究科教授	北里 洋	静岡大学理学部教授
		蒲生 俊敬	北海道大学大学院理学研究科教授

UJNR/MRECC潜水技術専門部会

氏名	職名	氏名	職名
川島 真人	川島整形外科病院長	鈴木 久喜	東北文化学園大学科学技術学部教授
後藤 與四之	後藤クリニック院長	眞野 喜洋	東京医科大学教授
白木 啓三	産業医科大学教授	毛利 元彦	海洋科学技術センター 海洋生態・環境研究部長
梨本 一郎	埼玉医科大学名誉教授		

潜水者健康管理委員会

氏名	職名	氏名	職名
委員長 白木 啓三	産業医科大学教授	眞野 喜洋	東京医科歯科大学理学部教授
委員 栃久保 修	横浜市立大学医学部教授	川島 眞人	川島整形外科病院長
池田 知純	防衛医科大学校医研究センター教授	関口 千春	宇宙開発事業団つくば宇宙センター 宇宙医学研究開発室長
今田 育秀	産業医科大学教授	久米 稔	早稲田大学文学部教授
		毛利 元彦	海洋科学技術センター 海洋生態・環境研究部長

駿河湾深層水研究委員会

氏名	職名	氏名	職名
委員長 酒匂 敏次	東海大学海洋学部教授	反町 稔	独立行政法人水産総合研究センター 養殖研究所病理部長
委員 高橋 正征	東京大学大学院総合文化研究科教授	澤田 敏雄	静岡県農林水産部水産振興室長
嵯峨 直恆	東海大学海洋研究所教授	和田 卓	静岡県水産試験場長
		毛利 元彦	海洋科学技術センター 海洋生態・環境研究部長

内湾環境修復研究FS委員会

氏名	職名	氏名	職名
委員長 平山 和次	財団法人長崎県産業技術振興財団	安永 憲一	長崎県新事業振興課長
委員 瀬戸脇 勇	大村湾南部漁業協同組合長浦支部 支部長	鳥井 保良	長崎県鉱業技術センター所長
野田 政利	琴海町経済課長	中田 英昭	長崎大学水産学部教授
松尾 博之	長崎県県民生活課長	小林 雅人	横浜商科大学商学部教授
豊村 敬郎	長崎県衛生公害研究所長	矢持 進	大阪市立大学工学部助教授
轟木 重敏	長崎県総合水産試験場次長	末永 慶寛	香川大学工学部助教授
		藤原 正幸	愛媛大学農学部助教授

深層水水質安全評価委員会

氏名	職名	氏名	職名
委員長 本城 凡夫	九州大学大学院農学研究院生物機能学部門教授	松永 明信	富山県衛生研究所化学部長
委員 嵯峨 直恆	北海道大学大学院水産科学研究科教授	毛利 元彦	海洋科学技術センター 海洋生態・環境研究部長
田尾 博明	独立行政法人産業技術総合研究所 環境管理研究部門計測技術研究グループ長		

生物浄化研究委員会

氏名	職名	氏名	職名
平山 和次	財団法人長崎県産業技術振興財団主幹	早川 康博	独立行政法人水産大学校 水産情報経営学教授
中田 英昭	長崎大学水産学部教授	矢持 進	大阪市立大学大学院工学研究科助教授
石坂 丞二	長崎大学水産学部教授	末永 慶寛	香川大学工学部助教授
小林 雅人	横浜商科大学商学部教授	重松 孝昌	大阪市立大学大学院工学研究科講師

(9)研究業務部関係

「みらい」運用検討委員会

氏名	職名	氏名	職名
委員長 半田 暢彦	愛知県立大学情報科学部 地域情報科学科教授	岩淵 洋	海上保安庁水路部企画課企画補佐官
委員 安田 一郎	東京大学大学院理学研究科 大気海洋科学大講座助教授	加納 裕二	気象庁気候・海洋気象部海洋気象課長
今脇 資郎	九州大学応用力学研究所教授	西村 昭	独立行政法人産業技術総合研究所 海洋資源環境研究部門副部門長
植松 光夫	東京大学海洋研究所助教授	渡辺 正孝	独立行政法人国立環境研究所 水圏環境領域長
石丸 隆	東京水産大学海洋環境学科生物 環境化学講座教授	松浦 知徳	独立行政法人防災科学技術研究所 特定プロジェクトセンター プロジェクトディレクター
藤本 博己	東北大学大学院理学研究科教授	瀧澤 隆俊	海洋科学技術センター 海洋観測研究部長
花輪 公雄	東北大学大学院理学研究科教授		
高柳 和史	水産庁増殖推進部研究企画官		

深海調査研究年次計画検討委員会

氏名	職名	氏名	職名
委員長 蒲生 俊敬	北海道大学大学院理学研究科教授	石塚 英男	高知大学理学部教授
委員 玉木 賢策	東京大学海洋研究所教授	多田 隆治	東京大学大学院理学系研究科 助教授
西田 英男	海上保安庁水路部企画課長	渋谷 秀敏	熊本大学理学部助教授
西村 昭	独立行政法人産業技術総合研究所 地質調査所海洋地質部長	末廣 潔	海洋科学技術センター 深海研究部長
安永 義暢	水産庁資源生産推進部参事官	橋本 惇	海洋科学技術センター海洋生態・ 環境研究部第2研究グループ研究主幹
太田 秀	東京大学海洋研究所教授	加藤 千明	深海環境フロンティア 深海微生物研究グループ代謝・ 適応機能研究チームリーダー
増澤 敏行	名古屋大学大気水圏科学研究所 助教授		
竹内 章	富山大学理学部教授		

深海調査研究中長期計画検討委員会

氏名	職名	氏名	職名
委員長 玉木 賢策	東京大学海洋研究所教授	丸山 茂徳	東京工業大学大学院理工学研究科教授
委員 蒲生 俊敬	北海道大学大学院理学研究科教授	木下 正高	東海大学海洋学部助教授
西田 英男	海上保安庁水路部企画課長	春日 信	気象庁地震火山部管理課長
西村 昭	独立行政法人産業技術総合研究所 地質調査所海洋地質部長	末廣 潔	海洋科学技術センター 深海研究部長
安永 義暢	水産庁資源資産推進部参事官	高木 譲一	海洋科学技術センター企画部長
川口 弘一	東京大学海洋研究所教授	毛利 元彦	海洋科学技術センター 海洋生態・環境研究部長
竹内 章	富山大学理学部教授	加藤 千明	深海環境フロンティア 深海微生物研究グループ代謝・ 適応機能研究チームリーダー
岡田 尚武	北海道大学大学院理学研究科教授		

深海調査研究計画委員会

氏名	職名	氏名	職名
委員長 玉木 賢策	東京大学海洋研究所教授	西澤 あずさ	海上保安庁水路部企画課海洋研究室主任研究官
委員 高橋 栄一	東京工業大学大学院理工学研究科教授	白山 義久	京都大学大学院理学研究科附属瀬戸臨海実験所長・教授
川幡 穂高	独立行政法人産業技術総合研究所海洋資源環境研究部門グループ長	森鼻 英征	東海大学海洋学部教授
小川 勇二郎	筑波大学地球科学系教授	東 垣	海洋科学技術センター深海研究部第1研究グループ研究主幹
加藤 憲二	静岡大学理学部教授	三ヶ田 均	海洋科学技術センター深海研究部第4研究グループ研究副主幹

深海調査研究計画委員会実施計画調整部会

氏名	職名	氏名	職名
部会長 浦辺 徹郎	東京大学大学院理学系研究科教授	仲 二郎	海洋科学技術センター深海研究部第1研究グループ研究副主幹
委員 玉木 賢策	東京大学海洋研究所教授	藤倉 克則	海洋科学技術センター海洋生態・環境研究部第3研究グループ研究員
加藤 憲二	静岡大学理学部教授	網谷 泰孝	海洋科学技術センター海洋技術研究部第1研究グループ研究副主幹
川幡 穂高	独立行政法人産業技術総合研究所海洋地球変動研究グループ長	伊藤 信夫	海洋科学技術センター研究業務部長

(10)情報業務部関係

地球シミュレータ運営委員会

氏名	職名	氏名	職名
浅井 富雄	東京大学名誉教授	谷岡 忠幸	三菱重工業株式会社常務取締役
山崎 孝治	北海道大学大学院地球環境科学研究科教授	三吉 進	トヨタ自動車株式会社取締役副社長
松浦 充宏	東京大学大学院理学系研究科教授	角湯 正剛	財団法人電力中央研究所我孫子研究所副所長
矢川 元基	東京大学大学院工学系研究科教授	古濱 洋治	宇宙開発事業団理事
淡路 敏之	京都大学理学研究科教授	齋藤 伸三	日本原子力研究所副理事長
佐藤 信夫	気象庁予報部数値予報課長	木下 肇	海洋科学技術センター理事
神沢 博	独立行政法人国立環境研究所大気圏環境研究領域大気物理研究室長	松野 太郎	地球フロンティア研究システムシステム長
松本 武彦	独立行政法人物質・材料研究機構主幹研究員	山形 俊男	地球フロンティア研究システム気候変動予測研究領域長

4. 予算・決算表

表1 平成13事業年度収入決算

(単位：円)

区 分	収 入 予 算 額	収 入 決 定 済 額	差 額
[出資金部門]	35,502,650,000	46,494,518,999	10,991,868,999
(款)出 資 金	35,059,433,000	33,293,647,000	1,765,786,000
(項)政府出資金			
(目)政府出資金	34,499,000,000	33,135,282,000	1,363,718,000
(項)民間出資金及び寄付金			
(目)民間出資金及び寄付金	560,433,000	158,365,000	402,068,000
(款)事業収入			
(項)事業収入	236,236,000	62,544,007	173,691,993
(目)共用施設収入	52,500,000	9,025,230	43,474,770
(目)研修収入	23,293,000	14,521,260	8,771,740
(目)情報業務収入	525,000	342,041	182,959
(目)受託業務収入	159,539,000	36,429,000	123,110,000
(目)雑 収 入	379,000	2,226,476	1,847,476
(款)事業外収入	206,110,000	415,329,413	209,219,413
(項)預金利子			
(目)預金利子	6,054,000	8,359,212	2,305,212
(項)雑 収 入			
(目)雑 収 入	200,056,000	406,970,201	206,914,201
(款)繰 越 金			
(項)繰 越 金			
(目)繰 越 金	871,000	12,722,998,579	12,722,127,579
[補助金部門]	3,159,885,000	3,078,476,643	81,408,357
(款)補 助 金	3,140,000,000	3,036,168,000	103,832,000
(項)国庫補助金			
(目)国庫補助金	3,100,000,000	3,026,168,000	73,832,000
(項)民間寄付金			
(目)民間寄付金	40,000,000	10,000,000	30,000,000
(款)事業外収入			
(項)雑収入	19,885,000	42,308,643	22,423,643
(目)住宅貸付料	5,414,000	21,414,302	16,000,302
(目)保険料収入	10,997,000	9,159,067	1,837,933
(目)雑 収 入	3,474,000	11,735,274	8,261,274
合 計	38,662,535,000	49,572,995,642	10,910,460,642

表2 平成13事業年度支出決算(1)

(単位:円)

区 分	支 出 予 算 額	前年度よりの 繰 越 金	弾力条項に よる増額	予 備 費 使 用 額
[出 資 金 部 門]	35,502,650,000	12,721,277,737	0	0
(項) 研究開発費	7,207,404,000	79,000,000	0	0
(目) 海洋調査技術開発費	146,904,000	0	0	0
(目) 深海調査研究開発費	4,555,748,000	45,000,000	0	0
(目) 海洋利用・生態系研究開発費	326,927,000	0	0	0
(目) 海洋観測研究開発費	2,177,825,000	34,000,000	0	0
(項) 深海地球ドリリング計画推進費	7,624,138,000	130,000,000	0	0
(目) 地球深部探査技術開発費	6,624,526,000	0	0	0
(目) 地球深部探査船運用業務費	747,310,000	130,000,000	0	0
(目) 深海地球ドリリング計画推進業務費	252,302,000	0	0	0
(項) フロンティア研究システム費	6,812,279,000	156,833,737	0	0
(目) 地球フロンティア研究費	2,824,451,000	85,000,000	0	0
(目) 地球観測フロンティア研究費	2,096,685,000	71,833,737	0	0
(目) 固体地球統合フロンティア研究費	1,094,682,000	0	0	0
(目) 極限環境生物フロンティア研究費	796,461,000	0	0	0
(項) 地球シミュレータ計画推進費	3,022,802,000	7,875,634,000	0	0
(目) 地球シミュレータシステム開発費	1,224,357,000	7,875,634,000	0	0
(目) 地球シミュレータシステム運用費	730,124,000	0	0	0
(目) 地球シミュレータ利用研究推進費	1,068,321,000	0	0	0
(項) 共通研究費	572,151,000	0	0	0
(目) 一般研究費	265,641,000	0	0	0
(目) 共同研究費	306,510,000	0	0	0
(項) 業務運営費	9,712,791,000	0	0	0
(目) 情報基盤業務費	1,709,672,000	0	0	0
(目) 工業所有権管理費	5,032,000	0	0	0
(目) 海洋科学技術理解増進費	186,948,000	0	0	0
(目) 受託業務費	159,539,000	0	0	0
(目) 船舶運用業務費	6,552,989,000	0	0	0
(目) 研究施設設備整備運営業務費	1,083,694,000	0	0	0
(目) 研究評価業務費	14,917,000	0	0	0
(項) 共通施設等建設費				
(目) 施設等建設費	497,140,000	4,479,810,000	0	0
(項) 用地整備費				
(目) 用地整備費	47,330,000	0	0	0
(項) 施 設 費				
(目) 管理施設費	6,615,000	0	0	0
[補 助 金 部 門]	3,159,885,000	0	0	0
(項) 役職員給与	2,080,666,000	0	0	0
(目) 役員給与	108,857,000	0	0	0
(目) 職員給与	1,971,809,000	0	0	0
(項) 共通経費	404,126,000	0	0	0
(目) 退職金	114,954,000	0	0	0
(目) 福利費	289,172,000	0	0	0
(項) 一般管理費	657,725,000	0	0	0
(目) 厚生費	22,361,000	0	0	0
(目) 管理費	635,364,000	0	0	0
(項) 交 際 費				
(目) 交 際 費	589,000	0	0	0
(項) 予 備 費	16,779,000	0	0	0
合 計	38,662,535,000	12,721,277,737	0	0

表2 平成13事業年度支出決算(2)

(単位:円)

流 増 減 額	支 出 予 算 現 額	支 出 決 定 済 額	翌 年 度 へ の 繰 越 金	不 用 額	
0	48,223,927,737	42,836,658,041	3,401,751,950	1,985,517,746	
0	7,286,404,000	6,796,590,532	23,415,000	466,398,468	
0	146,904,000	135,880,405	0	11,023,595	
0	4,600,748,000	4,289,281,468	23,415,000	288,051,532	
0	326,927,000	306,184,319	0	20,742,681	
0	2,211,825,000	2,065,244,340	0	146,580,660	
0	7,754,138,000	7,374,383,428	358,069,100	21,685,472	
0	6,624,526,000	6,606,020,489	0	18,505,511	
0	877,310,000	516,134,629	358,069,100	3,106,271	
0	252,302,000	252,228,310	0	73,690	
0	6,969,112,737	6,715,937,780	0	253,174,957	
0	2,909,451,000	2,832,555,337	0	76,895,663	
0	2,168,518,737	2,077,191,102	0	91,327,635	
0	1,094,682,000	1,051,645,495	0	43,036,505	
0	796,461,000	754,545,846	0	41,915,154	
0	10,898,436,000	10,447,474,503	194,250,000	256,711,497	
0	9,099,991,000	8,995,611,533	0	104,379,467	
0	730,124,000	651,830,892	0	78,293,108	
0	1,068,321,000	800,032,078	194,250,000	74,038,922	
0	572,151,000	195,741,397	0	376,409,603	
0	265,641,000	142,435,564	0	123,205,436	
0	306,510,000	53,305,833	0	253,204,167	
0	9,712,791,000	9,105,521,431	0	607,269,569	
0	1,709,672,000	1,580,341,771	0	129,330,229	
2,584,231	7,616,231	7,616,231	0	0	工業所有権管理費に 不足を生じたため (目)研究評価業務費 から2,584,231円流用
0	186,948,000	164,382,894	0	22,565,106	
0	159,539,000	36,310,094	0	123,228,906	
0	6,552,989,000	6,288,672,610	0	264,316,390	
0	1,083,694,000	1,022,089,915	0	61,604,085	
2,584,231	12,332,769	6,107,916	0	6,224,853	
0	4,976,950,000	2,150,158,970	2,826,017,850	773,180	
0	47,330,000	44,850,000	0	2,480,000	
0	6,615,000	6,000,000	0	615,000	
0	3,159,885,000	3,078,293,724	0	81,591,276	
0	2,080,666,000	2,044,996,751	0	35,669,249	
0	108,857,000	106,742,756	0	2,114,244	
0	1,971,809,000	1,938,253,995	0	33,555,005	
0	404,126,000	394,382,764	0	9,743,236	退職金に不足を生じ たため(目)福利費 から2,381,000円流用
2,381,000	117,335,000	117,285,700	0	49,300	
2,381,000	286,791,000	277,097,064	0	9,693,936	
0	657,725,000	638,467,314	0	19,257,686	
0	22,361,000	20,184,172	0	2,176,828	
0	635,364,000	618,283,142	0	17,080,858	
0	589,000	446,895	0	142,105	
0	16,779,000	0	0	16,779,000	
0	51,383,812,737	45,914,951,765	3,401,751,950	2,067,109,022	

表3 財務諸表

貸借対照表

平成14年3月31日現在

資 産 の 部			
科 目	金 額		
	円	円	円
流 動 資 産			8,542,753,370
現 金 ・ 預 金		8,143,376,020	
仮 払 金		5,243,200	
前 払 費 用		24,071,110	
未 収 収 益		754,895	
未 収 金		369,308,145	
固 定 資 産			98,070,774,990
有形固定資産		97,862,116,010	
建 物	12,838,147,534		
構 築 物	2,317,503,473		
機 械 ・ 装 置	2,448,130,531		
船 舶	18,137,126,302		
車 両 ・ 運 搬 具	6,206,183		
工 具 ・ 器 具 ・ 備 品	21,475,814,898		
土 地	4,796,510,089		
建 設 仮 勘 定	35,842,677,000		
無形固定資産		94,579,723	
工 業 所 有 権	6,230,495		
工業所有権仮勘定	15,402,779		
その他の無形固定資産	72,946,449		
投資その他の資産		114,079,257	
敷 金	114,079,257		
資 産 合 計			106,613,528,360

負 債 及 び 資 本 の 部			
科 目	金 額		
	円	円	円
流 動 負 債			4,513,373,263
未 払 金		3,898,082,271	
未 払 費 用		570,758,874	
預 り 金		44,532,118	
固 定 負 債			40,713,337
資 産 見 返 補 助 金		772,738	
資 産 見 返 寄 付 金		39,940,599	
(負 債 合 計)			(4,554,086,600)
資 本 金			364,424,473,500
政 府 出 資 金		364,394,473,500	
民 間 出 資 金		30,000,000	
欠 損 金			262,365,031,740
資 本 剰 余 金		3,149,972,348	
欠 損 金		265,515,004,088	
繰 越 欠 損 金	231,199,061,908		
当 期 損 失 金	34,315,942,180		
(資 本 合 計)			(102,059,441,760)
負 債 ・ 資 本 合 計			106,613,528,360

損 益 計 算 書

自 平成13年4月 1日

至 平成14年3月31日

科 目	金 額		
	円	円	円
経常収益			3,769,165,967
事業収入		26,115,007	
受託業務収入		36,310,094	
国庫補助金収入		3,025,985,081	
寄付金収入		167,623,700	
資産見返補助金戻入		585,880	
資産見返寄付金戻入		29,639,238	
事業外収益		482,906,967	
受取利息	8,359,212		
雑益	474,547,755		
経常費用			37,619,395,015
事業費用		24,171,630,040	
研究開発費	6,174,701,451		
深海地球ドリリング計画推進費	1,003,367,664		
フロンティア研究システム費	6,165,112,433		
地球シミュレータ計画推進費	1,975,675,423		
共通研究費	158,312,897		
受託業務費	36,310,094		
運営業務費	8,493,597,305		
施設管理費	164,552,773		
一般管理費		13,437,253,306	
一般管理費	3,077,289,992		
減価償却費	10,359,963,314		
事業外費用		10,511,669	
雑損	10,511,669		
特別損失			465,713,132
前期損益修正損		235,793,200	
固定資産除却損		229,919,932	
当期損失金			34,315,942,180

5. 役員・主要職員名

1) 役員

役 名	氏 名
会 長（非常勤）	武 井 俊 文
理 事 長	平 野 拓 也
理 事 （横浜研究所長）	千々谷 眞 人
理 事	木 下 肇
”	山 本 潤 正
”（非常勤）	本 庄 丕
”（非常勤）	伊 藤 菁 莪
”（非常勤）	溝 口 哲 也
監 事	成 田 英 夫
”（非常勤）	太 田 英 美

2) 幹部職員

役 職 名	氏 名
総 務 部 長	宮 崎 武 晃
経 理 部 長	高 山 進 一
企 画 部 長	袴 着 実
深海地球ドリリング計画推進室長	松 崎 忠 男
深 海 研 究 部 長	末 廣 潔
海 洋 技 術 研 究 部 長	釣 谷 康
海 洋 観 測 研 究 部 長	瀧 澤 隆 俊
海洋生態・環境研究部長	毛 利 元 彦
研 究 業 務 部 長	伊 藤 信 夫
情 報 業 務 部 長	加 藤 美 志 彦
フロンティア研究推進部長	井 上 直 樹
む つ 研 究 所 長	長谷川 康 明

6. 研究発表等

(1) 深海研究部

Publications

- 1)Elsaied, H. (Hiroshima Univ.), T. Naganuma, Phylogenetic diversity of ribulose-1, 5-bisphosphate carboxylase/oxygenase large-subunit genes from deep-sea microorganisms, *Appl. Environ. Microbiol.*, 67,1751-1765, 2001
- 2)Fujiwara, T., T. Yamazaki (GSJ), Masato Joshima (GSJ), Bathymetry and magnetic anomalies in the Havre Trough and southern Lau Basin: From rifting to spreading in back-arc basins, *Earth Planet. Sci. Lett.*, 185 (3-4), 253-264, 2001
- 3)Kawaguchi, K., K. Hirata, H. Mikada, An Expandable Deep Seafloor Monitoring System for Earthquake and Tsunami Observation Network, *SeaTechnology*, 42, 10, 49-54, 2001
- 4)Monma, H., T. Aoki, K. Kawaguchi, Recent Progress of the Deep Ocean Technology in JAMSTEC, *Eleventh (2001) International Offshore and Polar Engineering Conference, The Second International Deep-Ocean Technology Symposium*, 660-663p., 2001
- 5)川口勝義, 深海調査機器運用における音響機器活用, *超音波テクノ*, 13, 11, 46-50, 2001
- 6)川口勝義, 門馬大和, 岩瀬良一, 平田賢治, 海宝由佳, 三ヶ田均, Scientific Submarine Cable Systems in JAMSTEC, *Proc. The 4th International Convention on Undersea Communications, SubOptic 2001 International Convention*, p184-18, 2001
- 7)川口勝義, 三ヶ田均, 末廣潔, 深海底リアルタイム長期観測ネットワーク, 第16回海洋工学シンポジウム, 要旨集 pp139-145, 2001
- 8)川口勝義, 西田孝人, 尾花進一, A Thin Fiber Cable Laying System for Mobile Deep Seafloor Observation, *OCEANS 2001, Conference Proc.* 1,667-671, 2001
- 9)武内里香(東京大学), 町山栄章, 松本良(東京大学), メタンハイドレートの分解に起因する炭酸塩岩類形成 - 黒島海丘における冷湧水炭酸塩岩類を例として -, *堆積学研究*, 53,77-80, 2001
- 10)町山栄章, 山田努(東北大)・兼子尚知(産総研)・井龍康文(東北大)・小田原啓(東北大)・浅海竜司(東北大)・松田博貴(熊本大)・馬渡駿輔(北海道大)・Y. Bone (Univ. Adelaide)・N. P. James (Queen's Univ.), コケムシ骨格の同位体比は環境指標として使えるか? - ODP Leg182: グレートオーストラリア湾の測定結果予報 -, *堆積学研究*, 53, 117-120, 2001
- 11)三ヶ田均, 物理探査における地震波散乱問題 - 地下構造と物性の観点から -, *地震*, 54,203-213, 2001
- 12)三ヶ田均, 地震が伝える地下情報, *日本音響学会誌*, 57,6,417-422, 2001

Talks and Presentations

- 13)Casey, J. F. (Univ. Houston), T. Fujiwara, Definition of an abrupt transition between regions of abundant and extremely low magma supplies along the Mid-Atlantic between 14 and 16N, AGU Fall meeting (poster session), 2001
- 14)Fujiwara,T., J. Lin (WHOI), T. Matsumoto, P. B. Kelemen (WHOI), J. F. Casey (Univ. Houston), B. E. Tucholke (WHOI), Crustal Structure and Evolution in the last 5 Ma of the Mid-Atlantic Ridge near the Fifteen-Twenty Fracture, AGU Fall meeting (poster session), 2001
- 15)Fujiwara,T., T. Matsumoto, P. B. Kelemen (WHOI), J. F. Casey (Univ. Houston), M. Joshima (GSJ), A. Takeuchi (Toyama Univ.), M. G. Braun (WHOI), G. M. Ceuleneer (CNRS), Evolution of the Mid-Atlantic Ridge between 14N and 16N in the last 5 Ma, EGS 2001: XXVI General Assembly (poster session), 2001

- 16) Geist, E. (USGS), M. Kikuchi (ERI), K. Hirata, S. Yoshioka (Kyushu Univ.), S. Bilek (UC Santa Cruz), Modeling June 23, 2001 Peru local tsunami using results from a quick seismic inversion of the earthquake, International Tsunami Symposium, 2001
- 17) Geist, L. E. (USGS), T. Parsons (USGS), K. Hirata, Triggered tsunamigenic aftershocks from large strike-slip earthquakes: An example from the November 16, 2000 Mw=8.0 New Ireland earthquake, AGU Fall Meeting, 2001
- 18) Hirata, K., E. L. Geist (USGS), K. Satake (AIST), Y. Tanioka (MRI), Re-examination of faulting process and tsunami generation of the 1952 Tokachi-Oki earthquake (M 8.2) along the Kurile trench, AGU Fall Meeting (poster session), 2001
- 19) Iwase, R., K. Mitsuzawa, H. Mikada, K. Hirata, K. Kawaguchi, Y. Kaiho, Deep Seafloor Observatory off Hatsushima Island in Sagami Bay, SubOptic 2001
- 20) Machiyama, H., N. Kaneko (GSJ/AIST), T. Yamada (Tohoku Univ.), Y. Iryu (Tohoku Univ.), K. Odawara (Tohoku Univ.), R. Asami (Tohoku Univ.), H. Matsuda (Kumamoto Univ.), S. F. Mawatari (Hokkaido Univ.), Y. Bone (Univ. Adelaide), and N. P. James, Carbon and Oxygen Isotopes of Cool-water Bryozoan Skeletons from the Great Australian Bight, and their Paleoenvironmental Significance, 21st IAS Meeting of Sedimentology (poster session), 2001
- 21) Machiyama, H., N. Kaneko (AIST), T. Yamada (Tohoku Univ.), K. Odawara (Tohoku Univ.), R. Asami (Tohoku Univ.), Y. Iryu (Tohoku Univ.), H. Matsuda (Kumamoto Univ.), S. F. Mawatari (Hokkaido Univ.), Y. Bone (Univ. of Adelaide), N. P. James (Queen's Univ, Can Bryozoan Isotopes be Used as a Paleoceanographic proxy?, 7th International Conference on Paleoceanography (poster session), 2001
- 22) Otsuka, R. (MWJ), K. Hirata, H. Sugioka, G. Fujie, S. Morita, H. Mikada, Seismicity detection off Kushiro-Tokachi using JAMSTEC real-time cabled seafloor earthquake observation system, AGU Fall Meeting (poster session), 2001
- 23) 岩瀬良一, 深海圧力計による長期連続観測 - 2001年6月ペルー津波の検出と相模湾初島沖海底地殻変動検出の可能性 - , 日本地震学会秋季大会 , 2001
- 24) 久保雄介, 徐垣・町山栄章・徳山英一(東京大学海洋研究所)・池俊宏(東京大学海洋研究所)・海野進(静岡大学)・山本富士夫(海洋先端技術研究所)・加藤幸弘(海上保安庁水路部), 伊豆海嶺を越える黒潮によるベッドフォーム, 堆積学研究会春季研究集会(ポスターセッション), 2001
- 25) 久保雄介, 徐垣・町山栄章・徳山英一(東京大学海洋研究所)・池俊宏(東京大学海洋研究所)・海野進(静岡大学)・山本富士夫(海洋先端技術研究所)・加藤幸弘(海上保安庁水路部), 伊豆海嶺を越える黒潮がつくるベッドフォーム: 神津島・三宅島周辺海域でのサイドスキャンソナーによる海底地形調査, 地球惑星科学合同大会, 2001
- 26) 久保雄介, 重力流による堆積作用のモデリング, 堆積学研究会ショートコース, 重力流堆積物とその構造・堆積構造入門シリーズ(2), 堆積学研究会, 2001
- 27) 熊谷英憲, H. J.B. DICK (WHOI), 兼岡一郎(東大地震研), 木下肇, 海洋地殻下部物質の希ガス同位体測定を試み: インド洋アトランティス海台を例として, 地球惑星科学関連学会合同大会, 2001
- 28) 武内里香(東大), 町山栄章, 松本良(東大), 黒島海丘におけるメタン湧水性ドロマイトチムニーの酸素・炭素同位体異常, 日本地質学会第108年年会, 2001
- 29) 戸丸仁(東大), 松本良(東大), 町山栄章, 岩瀬良一, 武内里香(東大), 黒島海丘における冷湧水および間隙水の地球化学, 日本地質学会第108年年会, 2001
- 30) 新井田清信(北海道大), 湯浅真人(地調), 西村昭(地調), 富士原敏也, 渡辺暉夫(北海道大), 伊豆 - 小笠

原弧の基盤リソスフェアの性質とその起源：大町海山の蛇紋岩，地球惑星関連学会合同学会，2001

- 31) 松本良(東大)，町山栄章・岩瀬良一・戸丸仁(東大)・武内里香(東大)，石垣島沖，黒島海丘に見られるメタン湧水起源の炭酸塩クラスト，チムニーと化学合成生物群：生成発達プロセスに関する一考察，日本地質学会第108年年会，2001
- 32) 町山栄章，山田努(東北大)・兼子尚知(産総研)・井龍康文(東北大)・小田原啓(東北大)・浅海竜司(東北大)・松田博貴(熊本大)・馬渡駿輔(北海道大)・B. Yvonne(Univ. Adelaide)・J. Noel P.(Queen's Univ)，環境指標としてのコケムシ骨格同位体比の有効性 - ODP Leg 182：グレートオーストラリア湾を例に - ，日本地質学会第108年年会，2001

(2) 海洋技術研究部，深海地球ドリリング計画推進室技術開発グループ

Publications

- 1) Aoki, T., T. Hyakudome, T. Nakamura, K. Tamura, H. Ochi, T. Murashima, T. Satoshi, H. Nakajoh, T. Ida, K. Akazawa, K. Hashimoto, Deep and Long Range AUV URASHIMA, *The Eleventh (2001) International offshore and Polar Engineering Conference (ISOPE-2001)*, Stavanger, Norway, 2, 314-320, 2001
- 2) Aoki, T., H. Nakajoh, T. Nakamura, H. Ochi, K. Tamura, T. Murashima, S. Tsukioka, T. Hyakudome, T. Ida, K. Akazawa, K. Hashimoto, Deep and Long Cruising AUV Hybrid-powered with Li-ion Battery and Fuel Cell, *UnderWater Intervention*, 2001
- 3) Kyo, M., E. Miyazaki, Y. Amitani, K. Wada, Y. Yano, Y. Abe, T. Yamazaki (NIRE), and H. Suzuki (Tokyo Univ.), Fundamental experiments on motion analysis of deep-water risers for OD21 drilling vessel, *OCEANS 2001*, 4, 1934-1940
- 4) Maeda, H. (Tokyo Univ.), C.-K. Rheem (Tokyo Univ.), Y. Washio, H. Osawa, Y. Ngata, T. Ikoma (Tokyo Univ.), N. Fujita (Tokyo Univ.), M. Arita (Nihon Univ.), Reduction Effects of Hydrolastic Responses on very Large Floating Structure with Wave Energy Absorption Devices using OWC System, *Proc. OMAE'01 20th International conference on Offshore Mechanics and Arctic Engineering*, 2001
- 5) Murashima, T., T. Aoki, T. Nakamura, K. Tamura, H. Ochi, S. Tsukioka, H. Nakajoh, T. Hyakudome, T. Ida, Sea Trial of AUV "URASHIMA" with Lithium-ion Rechargeable Battery, *OCEANS 2001*, 1, 462-467, 2001
- 6) Shimura, T., T. Nakamura, H. Ochi, T. Aoki, Y. Amitani, K. Tamura, S. Tsukioka, T. Murashima, H. Nakajoh, T. Sawa, T. Hyakudome, Acoustic Systems of the AUV "URASHIMA", *The Eleventh (2001) International Offshore and Polar Engineering Conference (ISOPE-2001)*, Stavanger, Norway, 4, 674-678, 2001
- 7) Yano, Y., S. Takagawa, New Scientific Riser Drilling Vessel, *Marine Technology Society Journal*, 35, 3, 64-70, 2001
- 8) Yano, Y., S. Takagawa, M. Kyo, Y. Tsuritani, Development of Scientific Riser Drilling Vessel, *24th U.S.-Japan Cooperative Program in Natural Resources (UJNR)*, 2001
- 9) 大澤弘敬，鷲尾幸久，田中伸和(電力中央研究所)，山本亮介(電力中央研究所)，石井健一(古河電気工業)，矢木橋清智(古河電気工業)，浮体式波力装置を利用した底層海水汲み上げ実験，第16回海洋工学シンポジウム日本造船学会，p581-586, 2001
- 10) 緒方輝久，波力発電の現状と将来，*エネルギー・資源*，23, 2, 132, 50-54, 2002
- 11) 河野行伸(川崎重工)，和田一育，大西周一，浜松正典(川崎重工)，池田浩(川崎重工)，LMIを用いた船舶自動位置制御システムの開発，計測自動制御学会 第1回制御部門大会資料，2001
- 12) 月岡哲，門馬大和，竹内俱佳，上田聡，ハイブリッド減揺装置の北太平洋における運用結果，日本造船学会論文集，190, 633-639, 2001

- 13) 月岡哲, 竹内倶佳, ハイブリッド減揺装置の電力と動揺抑制力, 日本造船学会, 190, 641-647, 2001
- 14) 永田良典, 鷲尾幸久, 大澤弘敬, 藤井文則, 日根野元裕(三井造船), 中川寛之(三井造船), 沖合浮体式波力装置「マイティーホエール」の運動計測, 第16回海洋工学シンポジウム 日本造船学会, p563-568, 2001
- 15) 百留忠洋, 青木太郎, 前田俊夫, 村島崇, 月岡哲, 広川潔, 井田匡彦, 中條秀彦, 自律型無人潜水機に対するセンサ技術, 西部造船会, 秋季造船三学会連合講演会, 103, 35-42, 2001
- 16) 前田久明(日本大学), 林昌奎(東京大学生産研究所), 居駒知樹(日本大学), 鷲尾幸久, 大澤弘敬, 永田良典(石川島播磨重工業), 藤田尚毅(三菱総合研究所), 有田守(日本大学), 空気室付浮体の流体力特性と弾性応答低減に関する研究, 第16回海洋工学シンポジウム 日本造船学会, p527-534, 2001
- 17) 前田久明(日本大学), 林昌奎(東京大学生産研究所), 居駒智樹(日本大学), 鷲尾幸久, 大澤弘敬, 増田光一(日本大学), OWC付き浮体の三次元流体力解析について, 日本建築学会大会学術講演梗概集 p333-334, 2001
- 18) 増田光一(日本大学), 大澤弘敬, 市村哲夫(日本大学), 沖合浮体式波力装置による静穏海域造成システムに関する研究, 第16回海洋工学シンポジウム日本造船学会 p557-562, 2001
- 19) 矢野裕亮, 高川真一, 新装置・設備紹介 地球深部探査船「ちきゅう」, 日本作業船協会誌, 257, 8-13, 2001
- 20) 鷲尾幸久, 大澤弘敬, 緒方輝久, The Open Sea Tests of The Offshore Floating Type Wave Power Device "Mighty Whale" - Characteristics of Wave Energy Absorption and Power Generation -, *Oceans 2001*, 1, 579 - 585, 2001
- 21) 鷲尾幸久, 大澤弘敬, 緒方輝久, 中川寛之(三井造船昭島研究所), 岡山修三(富士電気(株)), 永田良典(IHI), 沖合浮体式波力装置「マイティーホエール」の発電出力, 秋季造船三学会連合大会, 2001
- 22) 鷲尾幸久, 大澤弘敬, 永田良典(IHI), 山下誠也(IHI), 緒方輝久, 沖合浮体式波力装置「マイティーホエール」設置海域の自然環境条件の検討, 秋季造船三学会連合大会, 2001
- 23) 鷲尾幸久, 海洋における再生エネルギー (財)日本学術協力財団「学術の動向」, 4月号 p21, 2001
- 24) 鷲尾幸久, 沖合浮体式波力装置「マイティーホエール」, 日本冷凍空調学会誌「冷凍」, 76, 889, 17-23, 2001
- 25) 和田一育, 乗り物の空調機器 ~ 潜水船 ~, 日本冷凍空調学会誌「冷凍」, 76, 885, 25-31, 2001

Talks and Presentations

- 26) Kyo, M., Development of OD21 Riser Drilling Vessel, International ODP Symposium in Taipei-New Results and Future of ODP in the Western Pacific-, 2001
- 27) 青木太郎, 深海巡航探査機「うらしま」の研究開発について, 海洋未来技術研究会, 2001
- 28) 市川祐一郎, 高川真一, 和田一育, 山田次郎(JDC), 野村剛(JDC), 川崎正行(JDC), 小山輝之(JDC), OD21「特殊試料採取システムの開発」の成果概要, 石油技術協会春季講演会, 2001
- 29) 市村哲夫, 増田光一, 大澤弘敬, 沖合浮体式波力装置による静穏海域造成システムに関する研究, 日本建築学会大会, 2001
- 30) 月岡哲, 青木太郎, 中村敏明, 村島崇, 中條秀彦, 百留忠洋, 水中減速機 ノイズ低減の一手法, 日本音響学会秋季研究発表会, 2001
- 31) 月岡哲, 青木太郎, 中村敏明, 村島崇, 中條秀彦, 百留忠洋, 井田匡彦, 広川潔(MHI), 海法宇治(OKI), 水中減速機 ノイズ低減対策と実海域音響通信試験, 海洋理工学会平成秋季大会, 2001
- 32) 月岡哲, 自律型無人潜水機のためのMarine IT, 海洋理工学会, 2001
- 33) 中村敏明, 澤隆雄, 越智寛, 青木太郎, 野田博昭(三菱重工), M系列信号を用いたAUV「うらしま」の内部反射調査, 日本音響学会, 2001
- 34) 中村敏明, 合成開口ソナー開発の現状, 海洋音響学会第1回シンポジウム, 2001

- 35)百留忠洋,深海巡航探査機「うらしま」,ロボフェスタ神奈川2001(横須賀),2001
- 36)山田次郎,高川真一,和田一育,市川祐一郎(JDC),中村寿男(NKK),OD21「特殊試料採取システムの開発 高強度ドリルパイプの開発」の成果,石油技術協会春季講演会,2001

(3)海洋観測研究部

Publications

- 1)Andreev, A., H. Makio, Y. Kumamoto, M. Kusakabe, A. Murata, Excess CO₂ and pH excess in the Intermediate Water Layer of the Northwestern Pacific, *J. Oceanogr.*, 57,2,177-188, 2001
- 2)Andreev, A., M. Kusakabe, Interdecadal variability in dissolved oxygen in the intermediate water layer of the Western Subarctic Gyre and Kuril Basin (Okhotsk Sea), *Geophys. Res. Lett.*, 28,12, 2453-2456, 2001
- 3)Hatakeyama, K., T. Monk, Development & Deployment of a Compact Arctic Drifting Platform., *Sea Technology*, 42,7,39-47, 2001
- 4)Kashino, Y., E. Firing, P. Hacker (Univ. of Hawaii), A. Sulaiman, Lukiyanto (BPPT), Currents in the Celebes and Maluku Seas, February 1999, *Geoph. Res. Lett.*, 28,7, 1263-1266, 2001
- 5)Qu, T., S. Xie, H. Mitsudera, A. Ishida, Subduction of the North Pacific Mode Waters in a Global High-Resolution GCM, *J. Phys. Oceanogr.*, 32, 3, 746-763, 2002
- 6)Shinke, T. (Oki Electric Industry Co.), Y. Yoshikawa, T. Kamoshida (Oki Electric Industry Co.), H. Mitsudera, Analysis Method for Ocean Acoustic Tomography Data Using Kalman Filter - Evaluation by Identical Twin Experiment, *Jpn. J. Appl. Phys.*, 5B,40,3835-3841, 2001
- 7)Sugimoto, N. (NIES), I. Matsui (NIES), Z. Liu (NIES), A. Shimizu (NIES), K. Asai (Tohoku Institute of Technology), K. Yoneyama, M. Katsumata, Latitudinal distribution of aerosols and clouds in the western Pacific observed with a lidar on board the research vessel Mirai, *Geophys. Res. Lett.*, 28,22,4187-4190, 2001
- 8)Toba, Y., J. Kimura, H. Murakami (EORC/NASDA), M. Kim, Y. Yoshikawa, K. Shimada, Unusual Behavior of the Kuroshio Current System from Winter 1996 to Summer 1997 Revealed by ADEOS-OCTS and Other Data (Continued): A Study from Broad External Conditions with Bottom Topography, *J. Oceanogr.*, 57,2,141-154, 2001
- 9)Turk, D. (Dalhousie Univ.), M.Lewis (DAL), G.Harrison (BIO), K. Kawano, I. Asanuma, Geographical distribution of new Production in the Western/centralequatorial Pacific during El Niño and non - El Niño conditions, *J. Geophys. Res. (Oceans)*, 106, C3, 4501-4515, 2001
- 10)井上久幸,石井雅男(気象研),松枝秀和(気象研),斉藤秀(気象研),青山道夫(気象研),時枝隆之(気象研),緑川貴(気象庁),根元和宏(気象庁),河野健,浅沼市男,安藤健太郎,矢野俊彦,村田昌彦, Distributions and variations in the partial pressure of CO₂ in surface waters (pCO_{2w}) of the central and western equatorial Pacific during the 1997/1998 El Niño event, *Marine Chemistry*, 76,59-75, 2001
- 11)柏野祐二,石田明生,海洋観測研究とモデル研究 - 海洋観測研究におけるモデルの活用,月刊海洋, 33,9,649-655, 2001
- 12)河野健,高槻靖,今井淳(MWJ),青山道夫(気象研),最近の標準海水の比較及びボトル型標準海水の品質について,海洋調査技術,13,2,11-18, 2001
- 13)熊本雄一郎,炭素14を用いた海洋学研究,月刊海洋,25,50-57, 2001
- 14)黒田芳史,トライトンブイ:熱帯域海洋気象観測係留ブイシステム,測候時報 海洋気象特集 ブイフロートシステムと沿岸観測器,69 (S33-S45), 2002
- 15)黒田芳史,網谷泰孝,トライトン: ENSO現象解明を目指す新しい海洋 - 気象観測ブイネットワーク,日本海洋

学会誌 海の研究 ,10, 2, 157-172, 2001

- 16)高槻靖 ,小林大洋 ,市川泰子 ,須賀利雄 ,安藤健太郎 ,水野恵介 ,竹内謙介 ,Argo計画におけるデータ管理 ,月刊海洋 ,33, 5, 322-327, 2001
- 17)滝沢隆俊 ,ACSYSからClicへ - WCRP極域気候変動研究の動向 - ,天気 ,48,5,55-57, 2001
- 18)中埜岩男 ,地球環境と水中音波 ,超音波テク(日本工業出版株式会社) ,2001
- 19)畠山清 ,細野益男 ,氷海観測用小型漂流ブイ(J-CAD)の開発 ,海洋調査技術 ,13,1,55-68, 2001
- 20)平譚享(極地研究所) ,鈴木光次(名古屋大学) ,岸野元彰(理化学研究所) ,古谷研(東京大学) ,田口哲(創価大学) ,齊藤誠一(北海道大学) ,才野敏郎(名古屋大学) ,松本和彦 ,播本孝史(関西総合環境センター) ,佐々木宏明(北海道大学) ,藤木徹一(創価大学) ,古原慎一(創価大学) ,柏 ,QFT法及び現場型水中分光吸光度計による植物プランクトンの光吸収スペクトル測定プロトコル ,海の研究 ,10,(6),471-484, 2001
- 21)本多牧生 ,セジメントトラップ実験と炭素14による西部北太平洋における炭素循環の研究 ,北海道大学大学院地球環境科学研究科学学位論文 ,193p, 2001
- 22)本多牧生 ,今井圭理(科学技術振興事業団) ,野尻幸宏(国立環境研究所) ,セジメントトラップ実験から推定する北西部北太平洋の生物ポンプ能力 ,月刊海洋 ,25,108-113, 2001

Talks and Presentations

- 23)Ando, K., T. Nagahama (MWJ), T. Matsumoto (MWJ), Y. Kuroda, Y. Takatsuki, M. Kawahara, Error estimation of meteorological sensors used on TRITON, Tropical Buoy Review Workshop, 2001
- 24)Ando, K., T. Matsumoto (MWJ), T. Nagahama (MWJ), I. Ueki, Y. Kuroda and Y. Takatsuki, Time drift of temperature and conductivity sensors of TRITON and the correction of conductivity data, Tropical Buoy Review Workshop, 2001
- 25)Ascani, F., E. Firing, A. Ishida, H. Mitsudera, Deep Equatorial Current Structure in the JAMSTEC Model Compared to Observations, Ocean Sciences Meeting, 2002
- 26)Firing, E. (Univ. of Hawaii), Y. Kashino, Energetic Deep Currents Observed East of Mindanao, Ocean Sciences Meeting, 2002
- 27)Harada, N., T. Nakatani (MWJ), M. Uchida, M. Honda, T. Nakamura (Nagoya Univ.), T. Sugawara (MWJ), M. Kusakabe (MWJ), Comparison of efficiency of biological pump between Holocene and glacial periods in the northwestern North Pacific., 7th International Conference on Paleoceanography (poster session), 2001
- 28)Harada, N., K. H. Shin (IARC), A. Murata, M. Uchida, T. Nakatani (MWJ), N. Ahagon, K. Kimoto, Characteristics of alkenone synthesized at the *Emiliania huxleyi* bloom in the Bering Sea., Ocean Sciences Meeting (Poster session), 2002
- 29)Hase, H., Y. Masumoto, K. Mizuno, Structure of the eastern Indian Ocean during the R/V Mirai cruise in November 2000, International Conference on Forecasting Monsoons, 2001
- 30)Hase, H., Y. Masumoto, K. Mizuno, K. Takeuchi, Structure of the eastern Indian Ocean during the R/V Mirai cruises in 2000-2001, The Symposium on the Ocean-Atmosphere Coupled Dynamics in the Indian Ocean, 2001
- 31)Ishida, A., Y. Kashino, H. Mitsudera, T. Kadokura, The Subsurface Countercurrents and recirculations in the equatorial Pacific Ocean simulated in a GCM, AGU 2001 Fall Meeting, 2001
- 32)Ishida, A., Y. Kashino, H. Mitsudera, T. Kadokura, A numerical study of the interannual variability of the equatorial Pacific Ocean circulation, Ocean Sciences Meeting, 2002
- 33)Kashino, Y., Moored observation of the Mindanao Current, Ocean Sciences Meeting, 2002

- 34) Katsumata, M., K. Yoneyama, ITCZ precipitating systems observed by shipborne Doppler radar, 30th International Conference on Radar Meteorology, 2001
- 35) Kawano, T., Y. Takatsuki, M. Aoyama (MRI), M. Fukasawa, The offset table of IAPSO Standard Seawater and its application to the observational results., Ocean Sciences Meeting (Poster Session), 2002
- 36) Kikuchi, T., K. Hatakeyama, K. Shimada, T. Takizawa, J. Morison (Univ. of Washington), Oceanographic observation under the multi-year ice of the Arctic Ocean using J-CAD (JAMSTEC Compact Arctic Drifter), THE 17th INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON OKHOTSK SEA & SEA ICE, 2002
- 37) Kuroda, Y., Y. Kashino, TRITON: New ocean and atmosphere observing buoy network for monitoring ENSO, International Workshop on Autonomous Measurements of Biogeochemical Parameters in the Ocean, 2001
- 38) Matoba, Y (Akita Univ.), T. Shiogama, T. Oba, H. Yamamoto, Deep water fluctuation in the northwest Pacific since the last glacial maximum: benthic foraminiferal evidence from a piston core off Choshi, central Japan, 7th international conference on Paleoceanography, 2001
- 39) Nakano, I., H. Fujimori, T. Hatayama, T. Kanaizumi, T. Nakamura and B. Howe (Univ. of Washington), Meridional Circulation and Equatorial Instability Waves in the Central Equatorial Pacific Ocean, The Institute of Acoustics, 2001
- 40) Nishino, S., Flow field and water mass modification of the Pacific and Atlantic waters in the Beaufort Sea, Oceanographic Society of Japan/Spring meeting Symposium: Arctic Environmental Change, 2001
- 41) Nishino, S., C. Kobayashi, T. Kikuchi, K. Shimada, T. Takizawa, Variability of Water Properties along the Barrow Canyon and the Shelf-Break of the Beaufort Sea Observed from the R/V MIRAI MR99-K05 and MR00-K06 Cruises, Second Wadati Conference on Global Change and Polar Climate (poster session), 2001
- 42) Nishino, S., C. Kobayashi, T. Kikuchi, K. Shimada, T. Takizawa, Variability of Water Properties along the Barrow Canyon and the Shelf-Break of the Beaufort Sea Observed from the R/V MIRAI MR99-K05 and MR00-K06 Cruises, Global Change Open Science Conference, 2001
- 43) Nishino, S., K. Simada, T. Kikuchi, C. Kobayashi, T. Takizawa, J. P. Christensen (Bigelow Laboratory for Ocean Sciences), P. A. Wheeler (Oregon State Univ.), Shelf-Basin Interaction of Pacific-Origin and Atlantic-Origin Waters on the Shelf-Break of the Chukchi Sea: An Approach Using the NO/PO Ratio., AGU Ocean Science Meeting (Poster session), 2002
- 44) Nishino, S., T. Kikuchi, C. Kobayashi, K. Shimada, T. Takizawa, Shelf-basin interaction of nutrient maximum water in the Barrow Canyon observed in summer 1999 and 2000 by R.V. Mirai, IARC Workshop, Yokohama, 2002
- 45) Shimada, K., F. McLaughlin (Institute of Ocean Sciences), E. Carmack (Institute of Ocean Sciences), R. Macdonald (Institute of Ocean Sciences), S. Nishino, T. Takizawa, Circulation of Atlantic and Halocline Waters in the Western Arctic Ocean, OAI ALL HANDS MEETING, 2001
- 46) Takizawa, T., T. Kikuchi, K. Shimada, K. Hatakeyama, J. Morison, A temperature/salinity structure near the North Pole to Fram Strait in 2000 observed by a JAMSTEC's new drifting buoy (J-CAD), Global Change Open Science Conference (Poster session), 2001
- 47) Yamauchi, M (Konan Boy's High school), H. Yamamoto, T. Oba, Comparison of water temperature in the Last Glacial Maximum and the interaction of the Kuroshio current and the Oyashio current, 7th international conference on Paleoceanography, 2001
- 48) 青野辰雄(放医研), 山田正俊(放医研), 河野健, 太平洋赤道域におけるTh-234から推定するPOCエクスポートフラックスについて, 地球惑星科学関連学会2001年合同大会, 2001

- 49)浅沼市男(宇宙開発事業団),松本和彦,河野健,時間及び深度解析型基礎生産力モデルについて,日本海洋学会春季大会,2001
- 50)浅沼市男(宇宙開発事業団),松本和彦,河野健,ケース2海域における基礎生産力モデルについて,日本海洋学会春季大会,2002
- 51)安藤健太郎,松本健寛(MWJ),長濱徹哉(MWJ),植木巖,高槻靖,黒田芳文,トライトンブイの水温・塩分データの評価と補正,日本海洋学会秋季大会(ポスターセッション),2001
- 52)伊澤堅志,宮崎基,井上亜沙子(MWJ),安藤健太郎,水野恵介,プロファイリングフロートの浮力調整,日本海洋学会,2001
- 53)井上(吉川)久幸(気象研),石井雅男(気象研),松杖秀和(気象研),斉藤秀(気象研),時枝隆之(気象研),河野健,浅沼市男(宇宙開発事業団),村田昌彦,中部及び西部熱帯太平洋の二酸化炭素分圧の年々変動について(),日本海洋学会春季大会,2001
- 54)植木巖,安藤健太郎,黒田芳史,轡田邦夫(東海大・海洋),熱帯太平洋暖水プールにおける力学高度に対する表層低塩分水の効果,日本海洋学会春季大会,2001
- 55)植木巖,黒田芳史,ニューギニア北方沖における流速場の季節・経年変動,日本海洋学会秋季大会,2001
- 56)植木巖,黒田芳史,ニューギニア北方沖における流速場と海盆スケールの海上風場の関係,日本海洋学会春季大会(ポスターセッション),2002
- 57)柏野祐二,ミダナオ海流の変動 - 係留観測結果 -, 日本海洋学会春季大会,2001
- 58)柏野祐二,黒田芳史,A. Purwandani,ニューギニア北方海域における水塊変動 - トライトンブイ観測結果より -, 日本海洋学会春季大会,2002
- 59)勝俣昌己,米山邦夫,「みらい」MR00-K04航海で観測されたITCZ降水システムの内部構造について,日本気象学会春季大会,2001
- 60)勝俣昌己,「みらい」ドップラーレーダーによる熱帯降水システムの観測,大槌シンポジウム「降水システムと降水変動」,2001
- 61)勝俣昌己,米山邦夫,「みらい」MR01-K05航海で観測された降水システムについて,海洋気象学会第2回例会/日本気象学会関西支部第4回例会(合同例会),2002
- 62)勝俣昌己,米山邦夫,「みらい」MR00-K04航海で観測されたITCZ降水システムのマルチスケール構造,海洋気象学会第2回例会/日本気象学会関西支部/第4回例会(合同例会),2001
- 63)勝俣昌己,米山邦夫,「みらい」MR01-K05航海で観測された降水システムについて,海洋気象学会第2回例会,2001
- 64)河野健,高槻靖,青山道夫(気象研),標準海水のoffset tableの妥当性について,日本海洋学会秋季大会,2001
- 65)菊地隆,島田浩二・西野茂人・小林智加志・畠山清・滝沢隆俊,ポーフォート海陸棚斜面上での冷たい塩分躍層の水塊変質,日本海洋学会春季大会,2001
- 66)菊地隆,島田浩二,畠山清,瀧澤隆俊,J-CAD(氷海観測用小型漂流ブイ)による北極海多年氷下の海流観測,日本海洋学会春季大会(ポスターセッション),2002
- 67)熊本雄一郎,村田昌彦,本多牧生,日下部正志,柴田康行(国立環境研究所),米田穰(国立環境研究所),太平洋における核実験起源炭素14の分布,第3回AMSシンポジウム - 我が国におけるAMS研究(ポスターセッション),2001
- 68)熊本雄一郎,村田昌彦,本多牧生,遠藤昌宏,日下部正志,太平洋における放射性炭素の研究: WOCEの成果をふまえて,日本海洋学会春季大会,2001
- 69)熊本雄一郎,本多牧生,溶存無機炭酸のC-14・セジメントトラップのC-14の研究,東京大学海洋研究所共同

利用シンポジウム,2001

- 70)高槻靖,市川泰子,水野恵介,竹内謙介,四竈信行,プロファイリングフロートによる黒潮続流南方中層における流速分布,日本海洋学会秋季大会,2001
- 71)高槻靖,宮崎基,井上亜沙子(MWJ),安藤健太郎,伊澤堅志,水野恵介,竹内謙介,プロファイリングフロート用CTDセンサーの精度評価(Ⅱ),日本海洋学会春季大会,2002
- 72)高槻靖,市川泰子,中島宏幸(MWJ),水野恵介,竹内謙介,四竈信行,ARGOデータの管理と公開,日本海洋学会春季大会(ポスターセッション),2002
- 73)滝沢隆俊,菊地隆・島田浩二・畠山清,氷海用小型漂流ブイによる2000年夏季の北極点付近の海洋構造,日本海洋学会春季大会,2001
- 74)滝沢隆俊,変わりつつある北極海,日本深海技術協会講演会,2001
- 75)中埜岩男,藤森英俊,畑山隆紀,金泉智之,中村敏明,中部熱帯太平洋トモグラフィー観測 - ラ・ニーニャに伴う海洋変動 -, 日本海洋学会,2001
- 76)中埜岩男,藤森英俊・金泉智之・中村敏明,海洋音響トモグラフィーによる流速・渦度観測,海洋音響学会,2001
- 77)中埜岩男,海洋音響トモグラフィーシステムとMarine IT,海洋理工学会,2001
- 78)中村敏明,藤森英俊,音響トモグラフィーによる海洋観測の現状と将来 - その1: 外洋,海洋工学パネル,2002
- 79)西野茂人,菊地隆,小林智加志,島田浩二,刈谷賀明(広島大),滝沢隆俊,ポーフォート海陸棚斜面域における沿岸湧昇と太平洋水/大西洋水の混合,日本海洋学会春季大会,2001
- 80)西野茂人,小林智加志,菊地隆,島田浩二,滝沢隆俊,西部北極海陸棚水の海盆域への輸送過程,日本海洋学会春季大会,2002
- 81)長谷英昭,升本順夫,水野恵介,東部インド洋における海洋構造の観測MR00-K07「みらい」航海速報,日本海洋学会春季大会,2001
- 82)長谷英昭,升本順夫,水野恵介,竹内謙介,松浦浩,東部インド洋における赤道ジェットの季節内変動,日本海洋学会春季大会,2002
- 83)島田浩二,西野茂人,F. McLaughlin (ISO), E. Carmack (IOS), R. Macdonald, 滝沢隆俊, Circulation of Atlantic and Halocline Waters in the Arctic Ocean, Ocean Sciences Meeting, Honolulu, Hawaii, 2002
- 84)原田尚美,中谷朋子(MWJ),村田昌彦,内田昌男,K. H. 成田尚史(北大),ココリスブルーム時に合成されるアルケノンについて - 2000年ベーリング海で発生したE.huxleyiブルームの観測から -, 日本地球化学会第48回年会,2001
- 85)松本和彦,河野健,太平洋赤道域におけるピコ植物プランクトン分布と現存量,一次生産について,日本海洋学会秋季大会,2001
- 86)安田愛(MWJ),河野健,松本和彦,岡野博文(水路部),大濱妙子(MWJ),園山裕一(MWJ),渡木恵介(MWJ),築地由貴(東海大),北太平洋における光合成パラメータの分布,日本海洋学会秋季大会(ポスターセッション),2001
- 87)山本浩文,山内守明(甲南高校),大場忠道(北大),最終氷期以降の黒潮親潮の変遷,日本海洋学会春季大会,2001
- 88)山本浩文,山内守明,完新世から最終氷期にかけての黒潮・親潮変動,日本海洋学会春季大会,2002
- 89)米山邦夫,勝俣昌己,ITCZにおける大気対流活動の特徴について,海洋気象学会 - 日本気象学会関西支部 - 合同例会,2001
- 90)米山邦夫,勝俣昌己,西部熱帯太平洋海域の大気変動に見られる共通的な特徴,海洋気象学会 - 日本気象学会関西支部合同例会,2002

(4) 海洋生態・環境研究部

Publications

- 1) Fujikura, K., Y. Fujiwara, S. Kojima, T. Okutani, Micro-scale distribution of mollusks occurring in deep-sea chemosynthesis-based communities in the Japan Trench, *Venus*, 60,4,225-236, 2002
- 2) Fujiwara, Y., C. Kato, N. Masui, K. Fujikura, S. Kojima (ORI, Tokyo Univ.), Dual symbiosis in the cold-seep thyasirid clam *Maorithyas hadalis* from the hadal zone in the Japan Trench, Western Pacific, *Mar. Ecol. Prog. Ser.*, 214,151-159, 2001
- 3) Furushima, Y., T. Komatsu (ORI, Tokyo Univ.), M. Okamoto, Simple measurements of small scale water motion in coral reefs, *Oceans 2001 MTS/IEEE Proc.*, 2, 1014-1019, 2001
- 4) Gamo, T., H. Chiba, T. Yamanaka, T. Okudaira, J. Hashimoto, S. Tsuchida, J. Ishibashi, S. Kataoka, U. Tsunogai, K. Okamura, Y. Sano, R. Shinjo, Chemical characteristics of newly discovered black smoker fluids and associated hydrothermal plumes at the Rodriguez Triple Junction, Central Indian Ridge, *Earth Planet. Sci. Lett.*, 2001
- 5) Hashimoto, J., S. Ohta, T. Gamo, H. Chiba, T. Yamaguchi, S. Tsuchida, T. Okudaira, H. Watabe, T. Yamanaka and M. Kitazawa, First hydrothermal vent communities from the Indian Ocean discovered, *Zoolog. Sci.*, 18,5,717-721, 2001
- 6) Hashimoto, J., A New Species of *Bathymodiolus* (Bivalvia: Mytilidae) from Hydrothermal Vent Communities in the Indian Ocean, *VENUS*, 60,3,141-149, 2001
- 7) Hashimoto, J., S. Ohta (ORI, Tokyo Univ.), T. Gamo (Univ. Hokkaido), H. Chiba (Univ. Okayama), T. Yamaguchi, S. Tsuchida, T. Okudaira (Univ. Osaka City), H. Watabe, T. Yamanaka (Univ. Tsukuba), M. Kitazawa (ORI, Tokyo Univ.), Hydrothermal vents and associated biological communities in the Indian Ocean, *InterRidge News*, 10,1,21-22, 2001
- 8) Kojima, S. (ORI, Tokyo Univ.), S. Ohta (ORI, Tokyo Univ.), T. Yamamoto (Kagoshima Univ.), T. Miura (Kagoshima Univ.), Y. Fujiwara, J. Hashimoto, Molecular taxonomy of vestimentiferans of the western Pacific and their phylogenetic relationship to species of the eastern Pacific. I. Family Lamellibrachiidae, *Mar. Biol.*, 139,211-219, 2001
- 9) Kojima, S. (ORI, Tokyo Univ.), R. Segawa (Tokyo Metropolitan Univ.), Y. Fujiwara, K. Fujikura, S. Ohta (ORI, Tokyo Univ.), J. Hashimoto, Phylogeny of Hydrothermal -Vent- Endemic Gastropods *Alviniconcha* spp. from the Western Pacific Revealed by Mitochondrial DNA Sequences, *Biological Bulletin*, 200,298-304, 2001
- 10) Lindsay, D.J., J.C. Hunt, and K. Hayashi (National Fisheries Univ.), Associations in the midwater zone: the penaeid shrimp *Funchalia sagamiensis* Fujino 1975 and pelagic tunicates (Order: Pyrosomatida), *Mar. Fresh. Behav. Physiol.*, 34 (3),157-170, 2001
- 11) Lindsay, D. J., J. C. Hunt, H. Miyake, & J. Hashimoto, 潜水調査船による中・深層生物の多様性研究, 月刊海洋号外 No.27, 総特集「動物プランクトン」, 47-52, 2001
- 12) Miyake, H., M. Terazaki (ORI, Tokyo Univ.), Y. Kakinuma (Kagoshima Univ.), On the polyps of the common jellyfish *Aurelia aurita* in Kagoshima Bay, *J. Oceanogr.*, 58, 3,451-459, 2002
- 13) Miyake, H., D. J. Lindsay, J. C. Hunt, Y. Hamatsu, *Scyphomedusa Aurelia limbata* (Brandt, 1838) found in deep waters off Kushiro, Hokkaido, Northern Japan, *Plankton Biol. Ecol.*, 49,1, 44-46, 2002
- 14) Okutani, T., K. Fujikura, Abyssal Gastropods and Bivalves Collected by Shinkai 6500 on the Slope of the Japan Trench, *Venus*, 60,4,211-224, 2002

- 15) Takai, K., Y. Fujiwara, Biodiversity in the deep-sea hydrothermal vents, *Encyclopedia of environmental microbiology*, 1604-1617, 2002
- 16) Vecchione, M. (National Museum of Natural History, Washington), Young, R. E., A. Guerra, D. J. Lindsay, D. A. Clague, J. M. Bernhard, W. W. Sager, A. F. Gonzalez, F. J. Rocha, and M. Segonzac, Worldwide observations of remarkable deep-sea squids, *Science*, 294,2505-2506, 2001
- 17) 黒山順二, 筒井浩之・三森智裕・安川岳志・豊田孝義・中島敏光, 駿河湾深層水の取水海域における流動特性, 海洋深層水利用研究会論文誌「海洋深層水研究」, 2,1,39-47, 2001
- 18) 土田真二, 海底温泉に生きる短尾類 - ユノハナガニ, 月刊海洋号外, 26,140-144, 2001
- 19) 豊田孝義, 湧昇海域の一次生産における溶存有機物の役割に関する研究, 東海大学大学院2001年度博士論文, 108pp, 2002
- 20) 豊田孝義, 中島敏光, 豊田恵聖(東海大学), 海産植物プランクトンによる溶存有機物の放出, 東海大学紀要海洋学部, 52, 69-86 2001, 2001
- 21) 橋本惇, インド洋に熱水噴出孔生物群集を発見 - 無人探査機「かいこう」がとらえた深海の世界 - , ニュートン, 21,9,8-23, 2001
- 22) 古島靖夫, 岡本峰雄(GODI), 石西礁湖(沖縄県石垣島)におけるサンゴ分布と流動との関係, 日本沿岸域学会論文集, 14, 107-113, 2002
- 23) 三宅裕志, D. J. Lindsay, J. C. Hunt, 潜水船を用いたゼラチン質プランクトンの研究, 月刊海洋号外, 27,216-223, 2001

Talks and Presentations

- 24) Fujikura, K., K. Tsukamoto (ORI, Tokyo Univ.), J. Aoyama (ORI, Tokyo Univ.), T. Inagaki (ORI, Tokyo Univ.), J. G. Inoue (ORI, Tokyo Univ.), H. Jige (ORI, Tokyo Univ.), N. Koishi, A. K. Matsumoto, M. J. Miller (ORI, Tokyo Univ.), Search for Spawning Areas of the Japanese Eel *Anguilla japonica* Using a Deep-sea Survey System, International Symposium, Advances in Eel Biology (poster session), 2001
- 25) Fujikura, K., S. Kojima, Y. Fujiwara, T. Okutani, Cold seep communities on the landward slope of the Japan Trench from 5300 m to 7400 m deep, Second International Symposium on Hydrothermal Vent Biology, 2001
- 26) Furushima, Y., M. Okamoto, S. Nojima (Kyushu Univ.), Characteristics of physical environment in coral reef region, 16th UJNR Diving Physiology Panel Meeting, 2001
- 27) Furushima, Y., T. Komatsu (ORI, Tokyo Univ.), M. Okamoto, Simple measurements of small scale water motion in coral reefs, OCEANS 2001 MTS/IEEE, 2001
- 28) Hashimoto, J., Chemosynthetic communities of the western Pacific and future research efforts in other localities, Second International Symposium on Hydrothermal Vent Biology, 2001
- 29) Lindsay, D. J., H. Miyake, Vertical distributions of the dominant midwater species in Sagami Bay: Quantification., Japan Oceanographic Society, Spring Symposium, 2002
- 30) Matsumoto, A., Relationship between annual growth rate and life cycle of Japanese gorgonian, *Melithaea flabellifera*., International conference and workshop; Benthic Dynamics: in-situ surveillance of the sediment-water interface. (poster session), 2002
- 31) Sasaki, T. (Tokyo Univ.), T. Okutani, K. Fujikura, Systematic revision of patelliform gastropods from deep-sea chemosynthetic communities in Japanese waters, World Congress of Malacology, 2001
- 32) Toth, L. G. (Shizuoka Univ.), K. Kato (Shizuoka Univ.), T. Maruyama (Shizuoka Univ.), K. Fujikura,

Extraordinary high bacterioplankton production with strong top-down control of the standing crop concealed in the vicinity of deep-sea hydrothermal vent areas of Dai-Yon Yonaguni- and Hatoma Knolls, Okinawa Trough, Japan, AGU, 2001

- 33) Tsuchida, S., J. Hashimoto, Comparative morphology of bythograeid crabs, *Austinograea* collected from the southern to western Pacific, and the Indian Ocean., *Second international symposium on deep-sea hydrothermal vent biology*, 2001
- 34) Yamamoto, H. (ST, Marianna Univ. of School of Medicine), K. Fujikura, A. Hiraishi(Toyohashi Univ. of Technology), K. Kato (Shinshu Univ.), Y. Maki (Iwate Univ.), 16S *rRNA* Phylogeny and Quinone Profiles of Bacterial Endosymbionts and Animals dwelling Hydrothermal Vent and Cold Seep Area, Ninth International Symposium on Microbial Ecology (poster session), 2001
- 35) 大越健嗣(石巻専修大), 藤倉克則, シンカイヒバリガイの貝殻構造 - 貝殻形成と破壊そして修復, ベントス学会(ポスターセッション), 2001
- 36) 黒山順二, 湾内深部における波と流れの変動, 日本流体力学会, 2001
- 37) 佐々木猛智, 奥谷喬司, 藤倉克則, 日本周辺の化学合成群集に生息する笠型貝類の分類学的再検討, 日本貝類学会, 2001
- 38) 佐々木猛智(東京大学), 奥谷喬司, 藤倉克則, シンカイフネアマガイ類の比較形態: 種分類と高次分類群の再検討, 日本貝類学会, 2002
- 39) 土田真二, 橋本惇, インド洋中央海嶺の熱水域から採集したユノハナガニ科の新種, 日本甲殻類学会第39回大会, 2001
- 40) 中村仁, 環境因子に依存する動物プランクトン鉛直移動のモデル化, 日本海洋学会秋季大会, 2001
- 41) 沼波秀樹(東京家政学院大学), 藤倉克則, 橋本惇, 駿河湾石花海堆から採集されたアケビガイとアケビガイを優占種とする化学合成生物群集存在の可能性, 日本貝類学会, 2002
- 42) 橋本惇, 太田秀(東大), 蒲生俊敬(北大), 山口寿之(千葉大), 土田真二, KR00-05レグ1乗船研究者, インド洋における熱水噴出孔生物群集の発見と生物地理学的特性, 地球惑星関連学会合同大会, 2001
- 43) 半田素子(北里大学), 上野正樹(北里大学), ゴエモンコシオリエビ(*Shinkaia crosnieri*)の鰓と中腸腺の形態, 日本甲殻類学会第39回大会, 2001
- 44) 藤倉克則, 長谷川和範(国立博物館)・奥谷喬司(日大), 日本海溝冷湧水系生物群集の軟体動物相と分布の特徴, 日本貝類学会平成(ポスターセッション), 2001
- 45) 藤倉克則, 深海の不思議な生き物, 海洋教室, 2002
- 46) 三宅裕志, D. J. Lindsay, J. C. Hunt, 濱津友紀, 北海道釧路沖深海で観察されたキタミズクラゲ *Aurelia limbata* (Brandt, 1838), 日本動物学会第72回大会, 2001
- 47) 三宅裕志, 橋本惇・三浦知之(宮崎大・農)・築地新光子(鹿児島水族館), 鹿児島湾湾奥ハオリムシコロニー内で見られた鉢ポリプ2種, 日本海洋学会, 2002
- 48) 三宅裕志, ミズクラゲの生態, 電気化学秋季大会, 2001

(5) 極限環境生物フロンティア研究システム

Publications

- 1) Alargova, R. G., S. Deguchi, K. Tsujii, Dynamic Light Scattering Study of Polystyrene Latexes Suspended in Water at High Temperatures and High Pressures, *Colloid and Surfaces A: Physicochem. and Eng. Aspects*, 183-185, 303-312, 2001

- 2)Alargova, R. G., S. Deguchi, K. Tsujii, Stable Colloidal Dispersions of Fullerenes in Polar Organic Solvents, *J. Am. Chem. Soc.*, 123, 43, 10460-10467, 2001
- 3)Alargova, R. G., D. Shigeru, K. Tsujii, k. Horikoshi, Reaction Behaviors of Glycine under Super- and Subcritical Water Conditions, *Origins of Life and Evolution of the Biosphere*, 32, 1-12, 2002
- 4)Alargova, R. G., S. Deguchi, K. Tsujii, Colloidal Dispersions of Fullerenes in Polar Organic Solvents: Influence of polymer and surfactant additives, *Nannoscience and Nanotechnology (Eds. E.Balabanova, I. Dragieva)*, Heron Press, Sofia, 2001 (Proc. 2nd Workshop Nanoscience and Nanotechnology), p.145, 2001
- 5)Deguchi, S., R. G. Alargova, K. Tsujii, Stable Dispersions of Fullerenes, C60 and C70, in Water. Preparation and Characterization, *Langmuir*, 17,19,6013-6017, 2001
- 6)Deguchi, S., K. Tsujii, K. Horikoshi, Microscopic Observation of Biological Substances in Near- and Supercritical Water, *Trends in High Pressure Bioscience and Biotechnology*, 2001
- 7)Deguchi, S., R. Alargova, K. Tsujii, Stable Dispersions of Nanocrystalline C60 in Water, *Nannoscience and Nanotechnology (eds. E.Balabanova, I. Dragieva)*, Heron Press, Sofia, 2001 (Proc. 2nd Workshop Nanoscience and Nanotechnology), p.148, 2001
- 8)Inagaki, F., K. Takai, T. Komatsu, T. Kanamatsu, K. Fujioka, K. Horikoshi, Archaeology of Archaea: geomicrobiological record of Pleistocene thermal events concealed in a deep-sea seafloor environment, *Extremophiles*, 5,6,385-392, 2001
- 9)Inagaki, F., Y. Sakihama, A. Inoue, C. Kato, K. Horikoshi, Molecular phylogenetic analysis of reverse-transcribed bacterial *rRNA* obtained from deep-sea cold seep sediments., *Environ. Microbiol.*, 4,5,277-286, 2002
- 10)Kato, C., Y. Nogi, Correlation between phylogenetic structure and function: examples from deep-sea *Shewanella*, *FEMS Microbiology Ecology (Elsevier Science B.V.)*, 35, 223-230., 2001
- 11)Kato, C., K. Nakasone, A. Ikegami, H.o Kawano, R. Usami, K. Horikoshi, Molecular mechanisms of pressure-regulation at transcription level in piezophilic bacteria, *Trends in High Pressure Bioscience and Biotechnology (ed. R. Hayashi)*, Progress in Biotechnology 19, 211-218, 2002
- 12)Koyama, S., S. Fujii, M. Aizawa, Post-Transcriptional Regulation of Immunomodulatory Cytokines Production in Human Skin Fibroblasts by Intense Mechanical Stresses, *J. Biosci. Bioeng.*, 5, 409-415, 2001
- 13)Koyama, S., T. Miwa, T. Sato, M. Aizawa, Optical chamber system designed for microscopic observation of living cells under extremely high hydrostatic pressure, *Extremophiles*, 93, 2,234-239, 2001
- 14)Miwa, T., T. Sato, C. Kato , M. Aizawa and K. Horikoshi, Restoration of *Escherichia coli* from high hydrostatic pressure -A study of the FtsZ-ring formation using confocal laser microscopy-, *Trends in High Pressure Bioscience and Biotechnology, Edited by R. Hayashi, 2002 Elsevier Science B.V.227-231*
- 15)Nagahama, T., M. Hamamoto (JCM, RIKEN), T. Nakase (JCM, RIKEN), H. Takami and K. Horikoshi, Distribution and identification of red yeasts in deep-sea environments around the northwest Pacific Ocean., *Antonie van Leeuwenhoek*, 80,2,101-110, 2001
- 16)Nagahama, T., M. Hamomoto (JCM, RIKEN), T. Nakase (JCM, RIKEN), K. Horikoshi, *Rhodotorula lamelli-brachii* sp. nov., a new yeast species from a tubeworm collected at the deep-sea floor in Sagami Bay and its phylogenetic analysis., *Antonie van Leeuwenhoek*, 80,3-4,317-323, 2001
- 17)Nakasone, K., Isolation of the *rpoD* gene encoding the principal sigma factor of deep-sea piezophilic bacterium *Shewanella violacea* strain DSS12 and its overexpression in *Escherichia coli*, *Biosci. Biotechnol. and Biochem.*, 65,190-193, 2001

- 18) Nakasone, K., M. Yamada, M. H. Qureshi, C. Kato, K. Horikoshi, Piezoresponse of the cyo-operon coding for quinol oxidase subunits in a deep-sea piezophilic bacterium, *Shewanella violacea*, *Biosci. Biotechnol. and Biochem.*, 65,3,690-693, 2001
- 19) Sato, T., T. Miwa, A. Ishii, C. Kato, M. Wachi (Tokyo Institute of Technology), K. Nagai (Tokyo Institute of Technology), M. Aizawa and K. Horikoshi, The dynamism of *Escherichia coli* under high hydrostatic pressure - repression of the FtsZ-ring formation and chromosomal DNA condensation, *Trends in High Pressure Bioscience and Biotechnology* (ed. R. Hayashi), p233-238, 2002
- 20) Sohirad, M., T. Miwa, F. Abe and M. Aizawa, Cytoskeletal adaptation of living mammalian cells surviving under extremely high hydrostatic pressure, *Trends in High Pressure Bioscience and Biotechnology, Elsevier Science B.V.*, 259-263, 2002
- 21) Takami, H., J. Lu, Y. Nogi, *Oceanobacillus iheyensis* gen. nov., sp. nov., a deep-sea extremely halotolerant and alkaliphilic species isolated from a depth of 1,050 m on the Iheya Ridge, *FEMS Microbiol. Lett.*, 205, 291-297, 2001
- 22) Takami, H., C.-G. Han (Tokyo Univ.), Y. Takaki, E. Ohtsubo (Tokyo Univ.), Identification and Distribution of New Insertion Sequences in the Whole Genome of Alkaliphilic *Bacillus halodurans* C-125, *J. Bacteriol.*, 183,14,4345-4356, 2001
- 23) Tsujii, K., Donnan equilibria in microbial cell walls -A pH-homeostatic mechanism in alkaliphiles-, *Colloids and Surfaces B: Biointerfaces*, 24, 247-251, 2002
- 24) 小山純弘, 免疫応答を利用した新しいガンの治療法, 化学と工業, 2001
- 25) 小山純弘, 電極反応を利用したDNAの1塩基ミスマッチ検出, 化学と工業 / 日本化学会, 54,7,823, 2001
- 26) 小山純弘, 遺伝子組み換え作物から外来遺伝子を取り除く手法, 化学と工業, 54 (11), 2001
- 27) 三輪哲也, 炭素電極の特性, *Electrochemistry*, 70,2, 147, 2002

Talks and Presentations

- 28) Alargova, R. G., S. Deguchi, K. Tsujii, K. Horikoshi, Influence of Temperature and Pressure on Oligomerization of Glycine and Amino Acid Synthesis in Sub- and Supercritical Water, 6th Conference on Supercritical Fluids and Their Applications, 2001
- 29) Alargova, R. G., S. Deguchi, K. Tsujii, Colloid Stability in Sub- and Supercritical Water Studied by Dynamic Light Scattering, 6th Conference on Supercritical Fluids and Their Applications, 2001
- 30) Alargova, R. G., S. Deguchi, K. Tsujii, Influence of High Temperature and Pressure on the Stability of Colloidal Particles Dispersed in Water, XV Conference European Colloid and Interface Society, ECIS2001
- 31) Alargova, R. G., S. Deguchi, K. Tsujii, K. Horikoshi, Reaction Behaviors of Some Oligopeptides in Sub- and Supercritical Water Simulating Hydrothermal Conditions, Informal Meeting on the Fundamental Aspects of Supercritical Fluids, 2001
- 32) Alargova, R. G., S. Deguchi, K. Tsujii, Dynamic Light Scattering Study in Sub- and Supercritical Water, Informal Meeting on the Fundamental Aspects of Supercritical Fluids, 2001
- 33) Deguchi, S., R. G. Alargova, D. Alargov, K. Tujii, K. Horikoshi, Behavior of Biological Substances in Near- and Supercritical Water, International Symposium on Extremophiles and Genomics *Tokyo*, 2001
- 34) Deguchi, S., K. Tsujii, and K. Horikoshi, Microscopic Observation of Physicochemical Phenomena in Near- and Supercritical Water, European Colloid and Interface Society meeting, 2001
- 35) Deguchi, S., K. Tsujii, K. Horikoshi, Flow Cell for *in situ* Microscopic Observations of Biological Materials in

- Nearcritical and Supercritical Water, Informal Meeting on the Fundamental Aspects of Supercritical Fluids, 2001
- 36)Fujioka, K., K. Mitsuzawa, Tide-related variability of hydrothermal activity at the TAG hydrothermal mound, Mid-Atlantic Ridge and the East Pacific Rise, OHP/ION Joint Symposium, 2001
- 37)Fujioka, K., F. Inagaki, K. Takai, T. Miwa, H. Sato, T. Ishii, Serpentine cupsule and serpentine BIOSPHERE, ICP-7, International Conference of Paleoceanography (Poster), 2001
- 38)Fujioka, K., M. Kido, Volcanic Supply Rate and Evolving of the Izu-Bonin Arc, AGU Fall Meeting, 2001
- 39)Hirayama, H., K. Takai, F. Inagaki, and K. Horikoshi, Deep-subterranean microbial habitats in the Hishikari epithermal gold mine: active thermophilic microbial communities and endolithic ancient microbial relicts, AGU Fall Meeting, 2001
- 40)Inagaki, F., K. Takai, H. Hrayama, K. Horikoshi, Deep-subterranean microbial communities in the Hishikari epithermal gold mine: active thermophilic microbial habitats and endolithic ancient microbial relicts., European Science Foundation Symposium and Forum "The Deep Sub-Seafoor Biosphere"., 2001
- 41)Inagaki, F., H. Okada, K. Horikoshi, Ancient bacterial diversity in mid-Cretaceous black shale: DNA records of oceanic euxinic paleoenvironment, AGU 2001 Fall Meeting, 2001
- 42)Kato, C., A. Ishii, K. Nakasone, T. Sato, M. Wachi, M. Sugai, K. Nagai, Analysis of cell division mechanisms under high-pressure conditions in a piezophilic bacterium, *Shewanella violacea*., Bacterial Cell Cycle, 2001
- 43)Kato, C., The Deep-Sea Extremophiles, Piezophiles -Isolation, Taxonomy, Diversity, and Molecular Mechanisms of Pressure Regulation-, Work Shop on the Marine Microbiology of Extreme Conditions, International Workshop on Marine Extremophiles, 2001
- 44)Kato, C., K. Nakasone, A. Ikegami, H. Kawano, Pressure-sensing mechanisms at transcription level in piezophilic bacteria., Joint Symposium on Bio-Sensing and Bio-Imaging, 2001
- 45)Kobayashi, H., H. Takami, K. Horikoshi, Rule of population density of halophiles in the deep-sea, International conference on system biology. (poster session), 2001
- 46)Lu, J., Y. Nogi, H. Takami, *Oceanobacillus iheyensis* gen. nov. sp. nov., a deep-sea extremely halotolerant and alkaliphilic species isolated from 1050 m depth of Iheya Ridge, Halophiles 2001 (poster session)
- 47)Miwa, T., M. Sohirad, S. Koyama, C. Habu, T. Sato, C. Kato and M. Aizawa, Visualisation of cultured cells surviving under high hidrostatic pressure, Joint Symposium on Bio-Sensing and Bio-Imaging (Poster), 2001
- 48)Nagahama, T., M. Hamamoto (RIKEN), M. Takashima (RIKEN), T. Nakase (RIKEN), and K. Horikoshi, Biodiversity and identification of red yeast isolated from the deep sea, Tenth International Symposium on Yeasts, 2001
- 49)Sato, T., A. Ishii, C. Kato, M. Wachi, K. Nagai and K. Horikoshi, High Hydrostatic Pressure Inhibit the FtsZ-ring Formation and the Chromosomal DNA Condensation in *Escherichia coli*, The 101 General Meeting of American Society for Microbiology (poster session), 2001
- 50)Sato, T., J. Fukuchi (Toyo Univ.), C. Kato, M. Ito (Toyo Univ.) and K. Horikoshi, Imaging of bacteria under environmental pressures using green fluorescent protein, Joint Symposium on Bio-Sensing and Bio-Imaging, 2001
- 51)Sato, T., A. Ishii, T. Miwa, C. Kato, M. Wachi, M. Aizawa, K. Nagai and K. Hoikoshi, The Reversible Elongation of *Escherichia coli* by High Hydrostatic Pressure - The Transient Repression of The FtsZ-ring Formation and Chromosomal DNA Condensation, Bacterial Cell Cycle 2001 (poster session)
- 52)Takai, K., F. Inagaki, T. Komatsu, K. Horikoshi, Genetic diversity and distribution of archaea in terrestrial and oceanic subsurface, *9th International Symposium For Microbial Ecology (poster session)*, 2001
- 53)Takai, K., F. Inagaki, K. Horikoshi, Ubiquity of Unusual Archaeal Components in the Global Subsurface

- Biosphere, European Science Foundation Symposium and Forum "The Deep Sub-Seafloor Biosphere", 2001
- 54) Takami, H., Genome analysis of alkaliphilic *Bacillus halodurans* and its perspective to industrial application, International Symposium on Extremophiles and Genomics Tokyo, 2001
- 55) Takami, H., K. Nakasone, Y. Takaki, G. Maeno, R. Sasaki, N. Masui, F. Fuji, C. Hiramata, Y. Nakamura, N. Ogasawara, S. Kuhara, K. Horikoshi, Complete genome sequence of the alkaliphilic bacterium *Bacillus halodurans* and genomic-sequence comparison with *Bacillus subtilis*, Rikkyo International Workshop: Functional Genomics of *Bacillus subtilis*, 2001
- 56) Takami, H., Complete genome sequence of alkaliphilic *Bacillus halodurans* and genomic sequence comparison with other *Bacillus* strains., Korea Genome Organization Meeting, 2001
- 57) 稲垣史生, 高井研, 掘越弘毅, 浅熱水性鉍脈型金鉍床における地下深部生物圏と地球化学的ダイナミズムとの関連, 日本農芸化学会大会, 2001
- 58) 稲垣史生, 稲垣史生, 崎濱由梨, 井上明, 加藤千明, 掘越弘毅, 日本海溝冷水湧出域のRT-PCRによる鉛直微生物群集構造解析, 第5回マリンバイオテクノロジー学会大会, 2001
- 59) 稲垣史生, 高井研, 地下微生物圏に対する地球微生物学的アプローチ, 地球惑星科学関連学会合同大会, 2001
- 60) 稲垣史生, 小松徹史, 岡田尚武, 掘越弘毅, 白亜紀(約1億年前)に海成した黒色頁岩中の古微生物群集構造の解析, 日本微生物生態学会第17回大会, 2001
- 61) 稲垣史生, 岡田尚武, 掘越弘毅, 約1億年前に形成した黒色頁岩中の古微生物群集構造解析, 第2回極限環境微生物学会年会, 2001
- 62) 加藤千明, 能木裕一, 深海環境における微生物学的多様性と好圧菌, 日本農芸化学会大会, 2001
- 63) 加藤千明, 佐藤孝子, 仲宗根薫(近畿大学), 石井秋宏, 福地順子, 高圧応答細胞の構築, 日本分子生物学会第24回年会, 2001
- 64) 加藤千明, 荒川康(東洋大), 能木裕一, 宇佐美諭(東洋大), 掘越弘毅, 日本海深度3,100mの海底に見い出された巨大バクテリアマットにおける高圧下の微生物学的多様性の解析, 日本農芸化学会, 2002
- 65) 小山純弘, ヒト皮膚繊維芽細胞の加圧刺激によるサイトカイン産生の転写後調節, 日本化学会春季年会, 2001
- 66) 小山純弘, 高圧環境への生物の適応機構 - 深海生物の地上での飼育・研究法の開発 -, 日本化学会, 2001
- 67) 佐藤孝子, 石井秋宏, 加藤千明, 和地正明, 永井和夫, 掘越弘毅, 加圧による大腸菌FtsZリング形成と染色体凝集の阻害について, 日本農芸化学会大会, 2001
- 68) 佐藤孝子, 福地順子, 石井秋宏, 加藤千明, 伊藤政博(東洋大学), 掘越弘毅, 深海由来の好圧菌による高圧下物質生産のための形質転換系の確立, 第12回生物関連高圧研究会シンポジウム, 2001
- 69) 佐藤孝子, 石井秋宏, R. G. Alargova, 仲宗根薫, 加藤千明, 掘越弘毅, 深海由来の好圧性微生物 *Shewanella violacea* DSS12の分裂環形成蛋白FtsZの試験管内重合について, 第2回極限環境微生物学会年会(ポスターセッション), 2001
- 70) 佐藤孝子, 石井秋宏, R. G. Alargova, 仲宗根薫(近畿大学), 加藤千明, 掘越弘毅, 好圧性微生物 *Shewanella violacea* DSS12由来FtsZ蛋白の試験管内重合における圧力と温度の影響, 第24回日本分子生物学会年会(ポスターセッション), 2001
- 71) 佐藤孝子, 福地順子, 仲宗根薫(近畿大学), 加藤千明, 伊藤政博(東洋大学), 掘越弘毅, 深海から分離された好圧性微生物 *Shewanella violacea* DSS12株及び *Moritella japonica* DSK-1株の遺伝子導入系の確立, 第24回日本分子生物学会年会(ポスターセッション), 2001
- 72) 佐藤孝子, A. Ishii, R. G. Alargova, K. Nakasone, C. Kato, K. Horikoshi, 深海底泥由来好圧性微生物 *Shewanella violacea* DSS12の分裂必須蛋白質FtsZによる *in vitro* polymerizationについて, 日本農芸化学会大会, 2002

- 73)高井研,稲垣史生,小松徹史,掘越弘毅,深部地下および海底における好熱菌ワールド,日本農芸化学会大会,2001
- 74)高井研,井上明,掘越弘毅,300℃を超える深海底熱水噴出孔熱水に生存する微生物,日本農芸化学会大会,2001
- 75)高井研,掘越弘毅,深海底熱水孔環境から分離された水素依存好熱菌について,第5回マリンバイオテクノロジー学会大会,2001
- 76)高井研,稲垣史生,深海底熱水孔微生物群集と熱水孔下微生物圏及びHyperSLiME,地球惑星科学関連学会合同大会,2001
- 77)高井研,儀丹隆志(東洋大学),稲垣史生,平山仙子,中川聡(京都大学),掘越弘毅,地殻内微生物圏において優占する好熱菌の分布・伝播についての時空間的解析,第17回日本微生物生態学会,2001
- 78)高木善弘,佐々木るみゑ,高見英人,掘越弘毅,*Bacillus halodurans* C-125株の転移性遺伝因子の種内多様性,日本農芸化学会,2001
- 79)高木善弘,佐々木るみゑ,松木明子,高見英人,*Bacillus halodurans* C-125株に見られたISの種内多様性について,日本分子生物学会年会(ポスターセッション),2001
- 80)高木善弘,高見英人,極限環境に生育する*Bacillus*属細菌のゲノム比較からの共通性と多様性,日本農芸化学会2002年度大会,2002
- 81)高見英人,海洋科学技術センターにおける微生物ゲノム解析の現状と展望,微生物ゲノム研究のフロンティア,2001
- 82)高見英人,高木善弘,仲宗根薫,佐々木るみゑ,呂傑,笈田花子,津留美紀子,内山秀美,掘越弘毅,深海1,050mから分離した高度耐塩性*Bacillus* sp. HTE831株のゲノム解析,日本農芸化学会,2001
- 83)高見英人,Y. Takaki, J. Lu, M. Tsudome, H. Oida (Kinki Univ.), 極限環境生物から見えるもの,日本生物工学会,2001
- 84)高見英人,ここまで来たゲノム解析から見えるもの,日本化学会高分子懇談会,2001
- 85)辻井薫,R. G. Alargova, 出口茂,超臨界水中におけるコロイドの安定性,コロイドおよび界面化学討論会,2001
- 86)辻井薫,ゲル内部の界面 - ゲル中の二分子膜とミセル -, 日本化学会第80秋季年会,2001
- 87)辻井薫,掘越弘毅,微生物細胞壁内におけるドナン平衡 - 好アルカリ菌のpH恒常機構の - 考察 -, 第2回極限環境微生物学会年会,2001
- 88)出口茂,亜臨界および超臨界水中における生体由来物質の挙動,第57回高分子若手研究会[関西],2001
- 89)能木裕一,加藤千明,日本海深度3300mから分離した新規微生物,日本農芸化学会大会,2002
- 90)能木裕一,深海微生物の探査とその多様性,日本生物工学会東日本支部「生物学フォーラム」,2001
- 91)土生知恵美,三輪哲也,小山純弘,矢尾板仁(帝京科学大学理工学部),相澤益男,マアナゴ(*Conger myriaster*)の初代組織培養の検討,日本化学会第79春季年会,2001
- 92)平山仙子,高井研,稲垣史生,掘越弘毅,菱刈金山における地殻内微生物群集の全解析,日本微生物生態学会第17回大会,2001
- 93)平山仙子,高井研,稲垣史生,掘越弘毅,菱刈金鉱山地殻内における微生物群集の全解析,極限環境微生物学会年会,2001
- 94)平山仙子,高井研,稲垣史生,掘越弘毅,菱刈金山地殻内における微生物群集の分布,日本農芸化学会大会,2002
- 95)藤岡換太郎,木戸元之,伊豆・小笠原弧の火山岩の量と島弧の成長,日本火山学会秋季大会,2001
- 96)藤岡換太郎,海底から地殻へと広がる微生物の世界,微生物生態学会第17回大会,2001
- 97)藤岡換太郎,木戸元之,伊豆・小笠原弧の構造区分と火山岩量,日本第四紀学会,2001

- 98)藤岡換太郎,竹内章(富山大学),渋谷秀敏(熊本大学),千葉仁(岡山大学)およびKR01-09乗船研究者一同,沖縄トラフ中部の熱水系の地形とテクトニクス,日本地質学会第108年総会,2001
- 99)堀井雅恵,三輪哲也,相澤益男,佐藤昭(湘南工科大学),中林誠一郎(埼玉大学),局所的高勾配磁場中における大腸菌の挙動,第5回新磁気科学シンポジウム,2001
- 100)三輪哲也,高圧下における培養細胞のその場観察,日本農芸化学会大会シンポジウム「ライフサイエンスにおける新しい高圧力の方法論」,2001
- 101)三輪哲也,小山純弘,M. Sohirad,相澤益男,高静水圧下の培養細胞のリアルタイム観察,日本化学会第79春季年会,2001
- 102)三輪哲也,小山純弘,相澤益男,顕微鏡システムを用いた高圧環境のリアルタイム観察,第12回生物関連高圧研究会シンポジウム,2001
- 103)三輪哲也,堀井雅恵・佐藤昭(湘南工大)・中林誠一郎(埼玉大理工),局所的強勾配磁場中における大腸菌の挙動,電気化学秋季大会,2001
- 104)三輪哲也,M. Sohirad,小山純弘,相澤益男(東京工業大学),高圧力におけるGFP-CPラベルした培養細胞PtK1の応答特性,第5回バイオテクノロジー部会シンポジウム,2001
- 105)三輪哲也,培養細胞の高圧力に対する応答特性,日本化学会第81春季年会,2002
- 106)呂傑,高見英人,仲宗根薫,掘越弘毅,深海から分離された高度耐塩性好アルカリ性*Bacillus* sp. HTE 831の菌学特性の検討,日本農芸化学会,2001

(6)固体地球統合フロンティア研究システム

Publications

- 1)Aizawa, Y., K. Ito, and Y. Tatsumi, Experimental determination of compressional wave velocities of olivine aggregate up to 1000 °C at 1 GPa, *Tectonophysics*, 339, 473-478, 2001.
- 2)Baba, T., T. Hori, S. Hirano, P. R. Cummins, J.-O. Park, M. Kameyama, and Y. Kaneda, Deformation of a seamount subducting beneath an accretionary prism: constraints from numerical simulation, *Geophys. Res. Lett.*, 28, 1827-1830, 2001.
- 3)Cummins, P. R., T. Hori, and Y. Kaneda, Splay fault and megathrust earthquake slip in the Nankai Trough, *Earth Planet Space*, 53, 243-248, 2001.
- 4)Fukao, Y., S. Widiyantoro, and M. Obayashi, Stagnant slabs in the upper and lower mantle transition zone, *Rev. Geophys.*, 39, 291-323, 2001.
- 5)Gooday, A. J., H. Kitazato, S. Hori, and T. Toyofuku, Monothalamous soft-shelled foraminifera at an abyssal site in the North Pacific: a preliminary report, *J. Oceanogr.*, 57, 377-384, 2001.
- 6)Gorvatov, A., Y. Fukao, and S. Widiyantoro, Application of a three-dimensional ray-tracing technique to global P, PP and Pdiff travel time tomography, *Geophys. J. Int.*, 146, 583-593, 2001.
- 7)Gorvatov, A., Y. Fukao, S. Widiyantoro, and E. Gordeev, Seismic evidence for a mantle plume oceanward of the Kamchatka-Aleutian trench junction, *Geophys. J. Int.*, 146, 282-288, 2001.
- 8)Heinz, P., H. Kitazato, G. Schmiedl, and Ch. Hemleben, Response of deep-sea benthic foraminifera from the Mediterranean Sea to simulated phytoplankton pulses under laboratory conditions, *J. Foram. Res.*, 31, 210-227, 2001.
- 9)Hirano, S., Y. Ogawa, and K. Kawamura, Deformation of unlithified Sediments in an early stage of the compaction process deduced from microtextures and magnetic fabrics: ODP Leg 174B, Hole 1074A, in K. Becker, and M.J. Malone, eds., *Proc. ODP, Sci. Results, 174B*, 1-13: College Station, TX, (Ocean Drilling Program).

- 10)Hori, T., T. Baba, P. R. Cummins, and Y. Kaneda, Effects of subducted seamounts on the source process of the 1946 Nankai Earthquake, SW Japan, *2nd ACES Workshop Proc.*, 271-274, 2001.
- 11)Hori, T., and Y. Kaneda, Stress accumulation and stress change in the critically stressed crust with a weak fault, *Proc. Intern. Symp. on slip and flow processes in and below the seismogenic region*, 387-388, 2001.
- 12)Hori, T., and Y. Kaneda, A simple explanation for the occurrence of the 1911 Morgan Hill earthquake in the stress shadow of the 1906 San Francisco earthquake, *Geophys. Res. Lett.*, 28, 2261-2264, 2001.
- 13)Hurukawa, N., N. Seto, H. Inoue, K. Nishigami, I. Marzouk, A. Megahed, E. M. Ibrahim, H. Murakami, N. Nakamura, T. Haneda, S. Sugiyama, T. Ohkura, Y. Fujii, H. M. Hussein, A. S. Megahed, H. F. Mohammed, R. A. Fattah, M. Mizoue, S. Hashimoto, M. Kobayashi, and D. Suetsugu, Seismological observations in and around the Southern part of the Gulf of Suez, Egypt, *Bull. Seismol. Soc. Am.*, 91, 708-717, 2001.
- 14)Ichiki, M., M. Uyeshima, H. Utada, G. Zhao, J. Tang, and M. Ma, Upper mantle conductivity structure of the back-arc region beneath northeastern China, *Geophys. Res. Lett.*, 28, 3773-3776, 2001.
- 15)Itou, M., T. Ono, T. Oba, and S. Noriki, Isotopic composition and morphology of living *Globorotalia scitula*: a new proxy of sub-intermediate ocean carbonate chemistry?, *Mar. Micropaleontol.*, 42, 189-210, 2001.
- 16)Kameyama, M., T. Hori, P. R. Cummins, S. Hirano, T. Baba, K. Uhira, and Y. Kaneda, An optimistic interpretation of friction law from thermal-mechanical coupling in shear deformation of viscoelastic material, *2nd ACES Workshop Proc.*, 91-95, 2001.
- 17)Kido, Y., Geophysical properties of the Northern South China Sea, the continental margin - an example of utilization of Jamstec Frontier Database System, *Geoinformatics*, 11, 223-233, 2001.
- 18)Kido, Y., K. Suyehiro, and H. Kinoshita, Rifting and spreading of the continental margin of the South China Sea -as a case of Frontier Database study, *Marine Geophys. Res.*, 22, 1-15, 2001.
- 19)Kido, Y., T. Tsuru, J. -O. Park, T. Higashikata, Y. Kaneda, Y. Kono, Three dimensional overview of the Japan trench -an example of utilization of the Frontier Database System, *Computers & Geosciences*, 27, 43-57, 2001.
- 20)Kobayashi, K., S. Hirano, T. Arai, R. Ikeda, K. Omura, H. Sano, T. Sawaguchi, H. Tanaka, T. Tomita, N. Tomida, T. Matsuda, and A. Yamazaki, Distribution of fault rocks in the fracture zone of the Nojima Fault at a depth of 1140 m : observations from the Hirabayashi NIED drill core, *The Island Arc*, 10, 411-421, 2001.
- 21)Kodaira, S., E. Kurashimo, J. -O. Park, N. Takahashi, A. Nakanishi, S. Miura, T. Iwasaki, N. Hirata, K. Ito, and Y. Kaneda, Rupture process of the 1946 Nankaido earthquake deduced from results of wide-angle seismic survey, *Proc. First China-Japan Workshop on Earthquake Disaster Mitigation*, 18-21, 2001.
- 22)Kodaira, S., E. Kurashimo, J. -O. Park, N. Takahashi, A. Nakanishi, S. Miura, T. Iwasaki, N. Hirata, K. Ito, and Y. Kaneda, Structural factors controlling the rupture process of a megathrust earthquake at the Nankai trough seismogenic zone, *Geophys. J. Int.*, 2001.
- 23)Kushiro, I., Partial melting experiments on peridotite and origin of mid-ocean ridge basalt, *Annu. Rev. Earth Planet. Sci.*, 29, 71-107, 2001.
- 24)Matsuoka, J., A. Kano, T. Oba, T. Watanabe, S. Sakai, and K. Seto, Seasonal variation of stable isotopic compositions recorded in a laminated tufa, SW-Japan, *Earth Planet. Sci. Lett.*, 192, 31-44, 2001.
- 25)Moe, K. T., H. Tokuyama, M. Murayama, and KH 00-5 scientific party, HINDOO cruise deep-sea channel survey in the Bay of Bengal, *Bull. Geol. Soc. Japan*, 107, 2001.
- 26)Obana, K., S. Kodaira, K. Mochizuki, and M. Shinohara, Micro-seismicity around the seaward updip limit of the 1946 Nankaido earthquake dislocation area, *Geophys. Res. Lett.*, 82, 2333-2336, 2001.

- 27) Omura, K., R. Ikeda, T. Matsuda, T. Arai, K. Kobayashi, K. Shimada, H. Tanaka, T. Tomita, and S. Hirano, Photographs of NIED Nojima Fault drilling cores at Hirabayashi borehole, *Tech. Note NIED*, 229, 2001.
- 28) Ono, S., E. Ito, and T. Katsura, Mineral chemistry of subducted basaltic crust (MORB) from 25 to 37 GPa, and chemical heterogeneity of the lower mantle, *Earth Planet. Sci. Lett.*, 190, 57-63, 2001.
- 29) Sakai, S., and A. Kano, Original oxygen isotopic composition of planktic foraminifers preserved in diagenetically altered Pleistocene shallow-marine carbonates, *Marine Geol.*, 172, 197-201, 2001.
- 30) Sato, K., R. Arai, Y. Tatsumi, T. Sano, T. Tagami, and V. S. Prikhodko, Cenozoic volcanism in northern Sikhotealin, Far East Russia and its implication for the opening of the Japan Sea, *Annu. Rep. FY2000, Institute for Geothermal Science, Graduate School of Science, Kyoto Univ.*, 15, 2001.
- 31) Suetsugu, D., A low Q_{scs} anomaly near the South Pacific Superswell, *Geophys. Res. Lett.*, 28, 391-394, 2001.
- 32) Sugioka, H., Y. Fukao, T. Okamoto, and K. Kanjo, Detection of shallowest submarine seismicity by acoustic-coupled-shear waves, *J. Geophys. Res.*, 106, 13485-13499, 2001.
- 33) Suzuki, K., and Y. Tatsumi, Osmium concentrations and ¹⁸⁷Os/¹⁸⁸Os ratios of GSJ reference samples, JB-1a, JA-2 and JP-1, *Geochem. J.*, 35, 207-210, 2001.
- 34) Tamura, Y., Y. Tatsumi, D. Zhao, Y. Kido, and H. Shukuno, Distribution of Quaternary volcanoes in the Northeast Japan arc: geologic and geophysical evidence of hot fingers in the mantle wedge, *Proc. Japan Acad.*, 77, 135-139, 2001.
- 35) Tanaka, H., T. Matsuda, K. Omura, R. Ikeda, K. Kobayashi, K. Shimada, T. Arai, T. Tomita, and S. Hirano, Complete fault rock distribution analysis along the Hirabayashi NIED Core penetrating the Nojima Fault at 1140m depth, Awaji Island, Southwest Japan, *Rept. NIED*, 61, 195-221, 2001.
- 36) Tatsumi, Y., Geochemical modeling of partial melting of subducting sediments and subsequent melt-mantle interaction: generation of high-Mg andesites in the Setouchi volcanic belt, southwest Japan, *Geology*, 29, 323-326, 2001.
- 37) Tatsumi, Y., N. Ishikawa, K. Anno, K. Ishizaka, and T. Itaya, Tectonic setting of high-Mg andesite magmatism in SW Japan: K-Ar chronology of the Setouchi volcanic belt, *Geophys. J. Int.*, 144, 625-631, 2001.
- 38) Tsuboi, S., M. Saito, and Y. Ishihara, Verification of horizontal-to-vertical spectral ratio technique for estimation of site response using borehole seismographs, *Bull. Seismol. Soc. Am.*, 91, 499-510, 2001.
- 39) Tsuru, T., J. -O. Park, S. Miura, S. Kodaira, Y. Kido, and T. Hayashi, Along-arc structural variation of the plate boundary at the Japan Trench margin: implication of interplate coupling, *J. Geophys. Res.*, 2001.
- 40) Wei YE, S. Yabuki, S. Kanayama, M. Honda, and Qing Chang, Geochemical characteristics of loess and paleosols in Yili Basin, NW China, *Proc. 10th Intern. Symp. on Water Rock Interaction*, 1593-1596, 2001.
- 41) 大滝寿樹, 斉田智治, 末次大輔, 神定健二, 竹中博士, 太平洋西縁沈み込み帯のマンテル遷移層構造, 月刊地球, 23, 455-458, 2001.
- 42) 小村健太郎, 池田隆司, 新井崇史, 小林健太, 島田耕史, 田中秀美, 富田倫明, 平野聡, 松田達生, 野島断層平林NIEDコア1800m破碎帯部の断層岩分布, 防災科学技術研究所研究報告, 61, 173-182, 2001.
- 43) 小村健太郎, 池田隆司, 飯尾能久, 新井崇史, 小林健太, 島田耕史, 田中秀美, 富田倫明, 平野聡, 松田達生, 野島断層平林NIED井破碎帯部の物理検層からみた特徴, 防災科学技術研究所研究報告, 61, 155-171, 2001.
- 44) 亀山真典, 堀高峰, P. R. Cummins, 平野聡, 馬場俊孝, 金田義行, 摩擦熱を考慮した剪断変型のシュミレーション, 東京大学地震研究所彙報, 127-143, 2001.
- 45) 北里洋, 沈み込み帯における有機物質および碎屑物質の堆積過程 - 相模湾を例として, 月刊地球, 号外32, 74-81, 2001.

- 46)北里洋,土屋正史,Mary McGann,東アジアの内湾生有孔虫Trochammina hadai Uchio. はどのようにして太平洋を渡ったのか?,月刊海洋,33,399-405,2001.
- 47)北里洋,有孔虫類の形が持つ意味:考現古生物学的アプローチ,学術月報,54,46-50,2001.
- 48)北里洋,21世紀の科学と人間「地下の微生物が作った石油!?相良油田の謎」,静岡新聞,1月13日号,2001.
- 49)北里洋,化石を生き物として見る.立花隆編著「立花隆サイエンスレポート なににそれは?」,立花隆,「旧石器発掘ねつ造」事件を追う,朝日新聞社,189-192,2001.
- 50)北里洋「古生物の科学」第三巻「古生物の生態」,池谷仙之,棚部一成編(朝倉書店,東京)に部分執筆,2001.
- 51)Cummins, P. R., 馬場俊孝,堀高峰,金田義行,1946年南海地震震源過程から推定された南海トラフ巨大地震に対するフィリピン海プレート形状の影響,地学雑誌,110,498-509,2001.
- 52)小林健太,新井崇史,池田隆司,小村健太郎,島田耕史,田中秀美,富田倫明,平野聡,松田達生,野島断層1,300m深度の破碎帯における断層岩類の組織:平林NIEDコアの解析,防災科学技術研究所研究報告,61,223-229,2001.
- 53)末次大輔,F. Niu,吉田康宏,南太平洋下のマントル境界層構造,月刊地球,23,451-454,2001.
- 54)平朝彦,Greg F. Moore,平野聡,氏家恒太郎,久光敏夫,村上由紀,Leg 190:南海トラフI,ODPニュースレター(ODP日本事務局),18,12-14,2001.
- 55)巽好幸,南太平洋スーパーブルーームの活動史,月刊地球,23,488-492,2001.
- 56)巽好幸,佐藤佳子,瀬戸内火山帯の西端-大分県に分布する新第三紀火山岩類のK-Ar年代と化学的特徴,大分県温泉調査研究会報,52,15-19,2001.
- 57)田村芳彦,能登金剛-能登半島西海岸の黒崎火山岩類,北陸の自然を訪ねて編集委員会編著,築地書館,126-132,2001.
- 58)鶴哲郎,朴進午,三浦誠一,高橋成実,小平秀一,東方外志彦,木戸ゆかり,金田義行,日本海溝沈み込み帯における地震活動と陸側プレートの下底浸食作用に関する考察,物理探査,54,21-29,2001.
- 59)中西一郎,一瀬建日,南極昭和基地から観た地球内核の異方性と回転,月刊地球,号外35,20-25,2001.
- 60)仲西理子,金田義行,巨大地震発生域の構造と地震活動-これまでの成果と今後の計画,月刊地球,23,685-696,2001.
- 61)朴進午,鶴哲郎,金田義行,四国沖南海トラフ付加体の地殻構造-地震発生帯の上限域で発見されたDSR-,月刊地球,特集号「プレート沈み込み帯における炭素循環」,160-167,2001.
- 62)朴進午,鶴哲郎,濱嶋多加志,金田義行,平朝彦,倉本真一,EW9907/08航海乗船研究者,南海トラフ反射法地震探査データのAVO解析,地学雑誌,110,510-520,2001.
- 63)馬場俊孝,谷岡勇市郎,構造探査結果から推定したフィリピン海プレートの形状と1946年南海地震のすべり量分布,月刊地球,23,697-702,2001.
- 64)久光敏夫,金松敏也,プレート沈み込み帯における堆積物の初期変形,月刊地球,号外32,191-199,2001.
- 65)久光敏夫,氏家恒太郎,帯磁率異方性から見た付加堆積物の初期変形,月刊地球,24,200-207,2001.
- 66)松岡数充,北里洋,野村律夫,生態系の改変と地質学,古生物学「Application of Micro- and Meioorganisms to Environmental Problems; EM 3」とは,月刊海洋,33,379-381,2001.
- 67)松田達生,新井崇史,池田隆司,小村健太郎,小林健太,島田耕史,田中秀美,富田倫明,平野聡,野島断層平林NIEDコア破碎帯部(1,140m,1,300m,1,800m)の物質解析,防災科学技術研究所研究報告,61,183-193,2001.
- 68)吉田康宏,神定健二,原田智史,藤原健治,大滝寿樹,田中明子,金嶋聡,末次大輔,神谷眞一郎,石原靖,竹中博士,斉田智治,藤井勇士郎,広帯域地震計設置のための埋設法の比較観測,地震,54,9-16,2001.

Talks and Presentations

- 69)Baba, T., P. R. Cummins, Y. Tanioka, and K. Uhira, The slip distribution of the 1946 Nankai earthquake estimated from tsunami inversion using new plate model, AGU Fall meeting, 2001
- 70)Chang, Q., H. Shimizu, Y. Takahashi, and S. Yabuki, Isotopic and geochemical features of the moraines from Kunlun Mts. and Tianshan Mts., NW China: implication to the source material of Taklimakan Desert and Chinese loess, 48th Annual Meeting of the Geochemical Society of Japan, October 2001
- 71)Hashimoto, Y., M. Enjoji, A. Sakaguchi, and G. Kimura, In-situ pressure - temperature condition of tectonic melange: constraints from fluid inclusion analysis of syn-melange veins-, AGU Fall meeting, 2001
- 72)Hirano, S., Y. Kido, J.-O. Park, T. Higashikata, K. Uhira, and Y. Kaneda, Fault systems off Shikoku Nankai trough accretionary prism deduced from JAMSTEC and JNOC MCS Data, AGU Fall meeting, 2001
- 73)Hisamitsu, T., K. Ujiie, and A. Taira, Magnetic fabric analysis of proto decollement zone at the toe of the Nankai Accretionary Prism, AGU Fall meeting, 2001
- 74)Hisamitsu, T., M. Murayama, O. Tadai, and H. Yasuda, Effect of paleoenvironmental changes on physical properties of sediments, 7th International Conference on Paleooceanography, 2001
- 75)Hori, T., and Y. Kaneda, Stress accumulation and stress change in the critically stressed crust with a weak fault, International Symposium on Slip and Flow Processes in and below the Seismogenic Region, 2001
- 76)Ichiki, M., M. Uyeshima, H. Utada, G. Zhao, J. Tang, and M. Ma, Upper mantle conductivity structure of the back-arc region beneath northeastern China, IAGA-IASPEI Joint scientific assembly 2001 (poster session), August 27, 2001
- 77)Itou, M., S. Noriki, T. Oba, and Y. Kato, Examination of planktonic foraminifera as a proxy for mixed layer depth : results from sediment trap experiment, International Conference on Paleooceanography, Sapporo, September 16-22, 2001
- 78)Kameyama, M., T. Hori, P. R. Cummins, S. Hirano, T. Bata, K. Uhira, and Y. Kaneda, An optimistic interpretation of friction law from thermal-mechanical coupling in shear deformation of viscoelastic material, 2nd ACES Workshop, 2001
- 79)Kameyama, M., and Y. Kaneda, Thermal-mechanical coupling in shear deformation of viscoelastic material as a model of frictional constitutive relations, Exploration Geodynamics Chapman Conference, August 21, 2001
- 80)Kameyama, M., and Y. Kaneda, Thermal-mechanical coupling of viscoelastic material as a model of frictional constitutive relations, International Symposium on Slip and Flow Processes in and below the Seismogenic Region, November 7, 2001
- 81)Kameyama, M., and Y. Kaneda, Numerical modeling of thermal structure in an accretionary prism at Nankai Trough subduction zone, AGU Fall meeting (poster session), December 13, 2001
- 82)Kanamatsu, T., J. Naka, Y. Kubo, D. Champion, M. Coombs, J. G. Moore, K. Sugiyama, H. Muraki, and M. Ishimori, A distal record of large submarine landslides ; the lithology of sediments obtained from the deep-sea floor adjacent to the Hawaiian islands, KR01-K12 cruises, AGU Fall meeting, 2001
- 83)Kido, Y., and FRPSD (Frontier Research Program for Subduction Dynamics), Three-dimensional overview of the Nankai Trough -an example of using the Frontier Database System-, OHP/ION Joint Symposium (poster session), January 25, 2001
- 84)Kido, Y., and T. Fujiwara, Magnetic anomalies over the Shikoku Basin through Nankai Trough, AGU Fall meeting, 2001

- 85)Kido, Y., and K. Fujioka, Magnetic and gravity anomalies along Izu-Bonin-Mariana (IBM) forearc serpentine seamounts, Seismological Society of Japan 2001 Fall meeting, October 26, 2001
- 86)Kimura, G., E. Ikesawa, A. Sakaguchi, Y. Hashimoto, and K. Ujiie, Res Grp Shimanto Accretionary Complex Exposed fossil seismogenic faults within the accretionary complex -Analogue to the Nankai Seismogenic zone-, AGU Fall meeting, 2001
- 87)Kitazato, H., A. Yamaoka, and H. Nomaki, Foraminiferal segregation in relation to the dynamics of sediment-water interface: results from long-term observations at Sagami Bay, Japan, XI International Congress of Protozoology, Salzburg, Austria, July 2001
- 88)Kitazato, H., and Sagami Bay Research Group (T. Nakatsuka, J. Kanda, M. Shimanaga, Y. Kato, Y. Okada, H. Nomaki, T. Masuzawa, K. Suzuki, and Y. Shirayama.), Dynamic features of the sediment-water interface through long-term observations at Sagami Bay, Japan, 7th International Congress on Paleoceanography, September 2001
- 89)Kitazato, H., Dynamic sedimentary process at sediment-water interface and their relation to benthic foraminiferal associations: observations and experiments, Special seminar at University of Tuebingen, July 20, 2001
- 90)Kodaira, S., E. Kurashimo, J. -O. Park, N. Takahashi, A. Nakanishi, S. Miura, T. Iwasaki, N. Hirata, K. Ito, and Y. Kaneda, Rupture process of the 1946 Nankaido earthquake deduced from results of wide-angle seismic survey, The First China-Japan Workshop on Earthquake Disaster Mitigation, Beijing, China, 2001
- 91)Kodaira, S., E. Kurashimo, M. Tokunaga, N. Takahashi, A. Nakanishi, S. Miura, J. -O. Park, T. Iwasaki, N. Hirata, K. Ito, and Y. Kaneda, What control a rupture process of the 1946 Nankaido Earthquake: results from 1999 onshore - offshore seismic survey, International workshop on Central American Subduction Processes, Costa Rica, July 9-13, 2001
- 92)Kodaira, S., K. Obana, A. Nakanishi, J.-O. Park, and Y. Kaneda, Seismological characterization of the Nankai Trough seismogenic zone from active/passive seismic studies, AGU Fall meeting, 2001
- 93)Koide, S., M. Koshio and H. Kitazato, Morphological variation in pores of the benthic foraminifera *Ammonia beccarii* (Linne) : A proxy for paleodissolved oxygen concentration, 7th International Congress on Paleoceanography, Sapporo, Japan, September 2001
- 94)Kushiro, I., Experimental forward approach to the genesis of mid-ocean ridge basalts (Goldschmidt Medal Lecture), 11th Annual V. M. Goldschmidt Conference at Hot Spring, Virginia, May 20-24, 2001
- 95)Miura, S., A. Nakanishi, N. Takahashi, S. Kodaira, T. Tsuru, A. Ito, R. Hino, and Y. Kaneda, Seismic velocity structure of Japan Trench off Miyagi fore arc region, Northeastern Japan using airgun-OBS data, AGU Fall meeting (poster session), 2001
- 96)Moe, K. T., and S. Saito, Silica diagenetic process in the Japan Sea and Japan Trench : a comparative study from the core-log-seismic data integration, Japan Earth and Planetary Science Annual Meeting, 2001
- 97)Moe, K. T., H. Tokuyama, K. Mochizuki, T. Ike, and KH 00-5 scientific party, Characterization of the lower Bengal Fan submarine channels, Japan Earth and Planetary Science Annual Meeting, 2001
- 98)Nakanishi, A., E. Kurashimo, S. Miura, K. Obana, S. Kodaira, T. Tsuru, J.-O. Park, N. Takahashi, Y. Kaneda, N. Hirata, and T. Iwasaki, Crustal transect of the Kuril arc-trench system - results from the onshore-offshore wide-angle seismic study-, AGU Fall meeting (poster session), 2001
- 99)Niu, Fenglin., S. C. Solomon, D. Suetsugu, and H. Inoue, Mantle transition zone structure beneath the South Pacific Superswell and evidence for a mantle plume underlying the Society hotspot, AGU Fall meeting, 2001

- 100)Nomaki, H., and H. Kitazato, Deep-sea benthic foraminiferal reactions and utilizations of freshly sedimented organic matter: Laboratory experiments, 7th International Congress on Paleoceanography, Sapporo, Japan, September 2001
- 101)Obana, K., S. Kodaira, Y. Kaneda, K. Suyehiro, M. Shinohara, K. Mochizuki, and T. Kanazawa, Micro-seismicity off Cape Muroto along the Nankai trough seismogenic zone detected by a series of OBS observations, AGU Fall meeting, 2001
- 102)Ohtaki, T., D. Suetsugu, K. Kanjo, and I. Purwana, Evidence of thick mantle transition zone beneath the Philippine Sea as inferred multiple ScS waves recorded by new broadband network JISNET, AGU Fall meeting, 2001
- 103)Ono, S., Phase boundary between rutile-type and CaCl₂-type in SiO₂ and GeO₂ determined by in situ X-ray observations, AGU Fall meeting, 2001
- 104)Ono, S., and E. Ito, Mineralogy of subducted basaltic crust (MORB) in the lower mantle, Transport of Materials in the Dynamics Earth Symposium, 2001
- 105)Park, J. -O., T. Tsuru, A. Ito, A. Nakanishi, S. Kodaira, and Y. Kaneda, Out-of-sequence thrust and normal faults in the rupture zone of the 1944 Tonankai Earthquake, AGU Fall meeting, 2001
- 106)Saita, T., D. Suetsugu, H. Takenaka, and F. Niu, Transition zone thickness beneath the South Pacific Superswell as inferred from the ScS reverberation and Ps converted waves, AGU Fall meeting, 2001
- 107)Sakai, S., Mid Quaternary northwestern Pacific paleoceanography inferred from oxygen and carbon isotopes of shallow-marine carbonates, The 7th International Conference on Paleoceanography (poster session), September 22, 2001
- 108)Sato, K., Y. Tatsumi, T. Tagami, and V. Prikhodko, Transition from arc to intraplate magmatism in northern Sikhote Alin area associated with the opening of the Japan Sea, 2001 Japan Earth and Planetary Science Joint Meeting, June, 2001
- 109)Shinotsuka, K., and M. Ebihara, Detailed abundances of rare earth element among carbonaceous chondrites, 32nd Lunar and Planetary Science Conference, March 14, 2001
- 110)Shinotsuka, K., H. Yamanishi, Y. Sakuma, M. Tanaka, N. Kosaka, N. Tuji, and T. Uda, Development of atmospheric tritium monitoring system at Toki site, 6th International Conference on Tritium Science and Technology, November 12, 2001
- 111)Suetsugu, D., and S. Tanaka, Preliminary evidence for low S-velocity in the D" under the South Pacific Superswell, AGU Fall meeting, 2001
- 112)Sugioka, H., K. Kawaguchi, H. Mikada, and K. Suyehiro, Mobile/real-time seafloor seismic observation system, AGU Fall meeting, 2001
- 113)Tamura, Y., and Y. Tatsumi, The origin of rhyolite in oceanic island arc crust: evidence from the Izu-Bonin volcanic arc, EUG XI, April 9, 2001
- 114)Tamura, Y., Y. Tatsumi, D. Zhao, Y. Kido, and H. Shukuno, Leading head of volcanic front of the subduction zone : pattern of lobes and clefts shown in the Northeast Japan arc, Intra-Oceanic Subduction Systems : Tectonic and Magnetic processes, A joint meeting of the Marine Studies Group, Tectonic Studies Group, and Volcanic and Magmatic Studies Group of the Geological Society, September 14, 2001
- 115)Tamura, Y., Y. Tatsumi, D. Zhao, Y. Kido, and H. Shukuno, Hot fingers in the mantle wedge : new insights into magma genesis in subduction zone, AGU Fall meeting, 2001
- 116)Tatsumi, Y., Role of subduction factory in the evolution of the solid Earth, Intra-Oceanic Subduction Systems meeting, September 14, 2001

- 117) Tatsumi, Y., T. Nakashima, and Y. Tamura, The petrology and geochemistry of calc-alkaline andesites on Shodo-Shima Island, SW Japan and their bearing on the origin of continental crust, Intra-Oceanic Subduction Systems meeting, AGU Fall meeting, 2001
- 118) Tatsumi, Y., and Y. Tamura, Genetic linkage between calc-alkalic andesites and continental crusts : ontributions from NE Japan, AGU Annual Meeting, December 10, 2001
- 119) Tatsumi, Y., Role of subduction factory in the evolution of the solid Earth, EUG meeting, April 8, 2001
- 120) Tazume, M., M. Tsuchiya, and H. Kitazato, Phylogenetic Relationships among the species of genus *Bulimina* (FORAMINIFERA) inferred from rDNA sequences: comparison between molecular and morphological data, XI International Congress of Protozoology, July 2001
- 121) Toyofuku, T., H. Kitazato, A. Suzuki, and H. Kawahata, Evaluation of benthic foraminiferal chemical and oxygen isotopic composition as paleotemperature and salinity proxies : Comparison of experimental results and measurements in nature, 7th International Congress on Paleooceanography, September 2001
- 122) Tsuboi, S., and M. Saito, Calculation of normal modes for Earth model with slight rigidity in the liquid outer core, AGU Fall meeting, 2001
- 123) Tsuchiya, M., H. Kitazato, and J. Pawlowski, Phylogenetic analysis of *Planolabratella* (FORAMINIFERA) based on the internal transcribed spacers of ribosomal DNA, XI International Congress of Protozoology, July 2001
- 124) Tsuchiya, M., M. Suzuki, and H. Kitazato, Mozaic distribution of genetically variant populations within a species of foraminifera: Paleooceanographic interpretations, 7th International Congress on Paleooceanography, September 2001
- 125) Tsuru, T., J.-O. Park, S. Miura, S. Kodaira, T. Hayashi, Y. Kido, and Y. Kaneda, Structural heterogeneity at the Japan Trench Convergent Margin observed from seismic reflection characteristics, AGU Fall meeting, 2001
- 126) Ujiie, K., T. Hisamitsu, and A. Taira, Origin and evolution of the decollement zone in the Nankai Trough accretionary prism, AGU Fall meeting, 2001
- 127) Yanagisawa, T., and K. Kurita, Self-adaptivity of the layered convecting system, Ocean Hemisphere network Project Symposium at Hotel Mt. Fuji, 2001
- 128) Wei, YE., S. Yabuki, S. Kaneyama, M. Honda, and Q. Chang, Geochemical characteristics of loess and paleosols in Yili Basin, NW China, 10th international symposium on Water Rock Interaction, June 10, 2001
- 129) Ye, W., S. Yabuki, S. Kanayama, M. Honda, and Q. Chang, Geochemical characteristics of loess and paleosols in Yili Basin, NW China, International Workshop on Water Rock Interaction, 2001
- 130) 飯高隆, 杉岡裕子, 深尾良夫, PKP_dの周波数依存性からみた内核の構造, 地球惑星科学会合同大会, 2001年
- 131) 市來雅啓, 歌田久司, 小山崇夫, 浅利晴紀, 清水久芳, 日本列島付近のS_qの位相のずれについて, 第110回地球電磁気地球惑星圏学会, 2001年11月25日
- 132) 市來雅啓, 歌田久司, 小山崇夫, 日本列島付近のS_qの位相のずれについて, 2001年地球惑星科学関連学会合同大会, 2001年6月6日
- 133) 市來雅啓, 上嶋誠, 九州地方の海洋によるinduction arrowの見積もり, 2001年Conductivity Anomaly研究会
- 134) 伊藤亜妃, 日野亮太, 三浦誠一, 小平秀一, 藤本博巳, エアガン人工地震探査による東北日本前弧域の地殻深部構造, 地球惑星科学関連2001年合同大会
- 135) 上嶋誠, 市來雅啓, 橋本武志, 網田和宏, 田中良和, 神田径, 笹井洋一, 九州におけるネットワークMT観測 (第4報), 地球惑星科学関連学会2001年合同大会, 2001年6月6日
- 136) 氏家恒太郎, 久光敏夫, 平朝彦, 山本由弦, 南海トラフ付加体の変形プロセス - ODP Leg 190 Site 1178掘削成果, 日本地質学会第108年学術大会, 2001年

- 137)宇平幸一,小平秀一,鶴哲郎,杉岡裕子,藤江剛,三ヶ田均,金田義行,末廣潔,三宅島・神津島付近の深部構造探査,地球惑星科学会 合同大会,2001年
- 138)宇平幸一,馬場俊孝,森傳一,瀧山弘明,濱田信生,Double-Difference法を用いて再決定した2000年6月26日の三宅島の地震活動,日本火山学会秋期大会,2001年
- 139)大滝寿樹,末次大輔,神定健二,シナ海 - フィリピン海下のマントル遷移層厚,2001年地球惑星科学合同大会
- 140)大林政行,深尾良夫,自動ブロック分割による全マントルトモグラフィー,日本地震学会2001年秋季大会
- 141)小川佳子,山岸保子,栗田敬,マグマ起源による火星の凍土融解と浸透流過程 - 洪水イベントへのImplication,2001年日本惑星科学会秋季講演会 岡山理科大学十学舎,2001年10月
- 142)小野重明,GeO₂相の高温高压相転移のX線その場観察,日本鉱物学会2001年度年会,2001年9月29日
- 143)小野重明,広瀬敬,X線その場観察によるGeO₂高压相の相転移境界の決定,地球惑星科学関連学会2001年度合同大会(ポスターセッション),2001年6月7日
- 144)尾鼻浩一郎,望月公廣,篠原雅尚,小平秀一,末広潔,金田義行,室戸岬沖南海トラフの地震活動:海底地震計による繰返し観測の成果,地球惑星科学関連学会合同大会,S2-044,国立オリンピック記念青少年総合センター,2001年6月
- 145)小村健太郎,池田隆司,飯尾能久,新井崇史,小林健太,島田耕史,田中秀美,富田倫明,平野聡,松田達生,野島断層破碎対の物理特性 - 平林NIED井における孔内検層,地球惑星関連学会2001年合同大会,2001年6月4日
- 146)神谷眞一郎,末次大輔,深尾良夫,一瀬建日,大林政行,東野陽子,全seismic phase計画,日本地震学会2001年度秋季大会
- 147)亀山真典,金田義行,数値モデリングによる付加体内部温度構造の推定 - 南海トラフの例,日本地震学会2001年秋季大会,2001年10月25日
- 148)亀山真典,金田義行,摩擦熱と変形の相互作用モデルによる構成則モデル化の試み,地球惑星科学関連学会2001年合同大会(ポスターセッション),2001年6月4日
- 149)北里洋,微生物と生物進化,日本古生物学会ミレニアムシンポジウム「21世紀の古生物学」,2001年
- 150)北里洋,有孔虫進化における微生物の役割 - 趣旨説明に代えて,日本古生物学会ミレニアムシンポジウム「21世紀の古生物学」,2001年
- 151)北里洋,生物の大量絶滅が更新した多様性,微生物生態学会シンポジウム,2001年
- 152)木戸ゆかり,磁力計の基本原理解,計測のノウハウと機器取り扱いを含む注意事項 - データ管理,品質管理に望まれること等について,日本海洋事業株式会社 電子観測部勉強会,2001年2月27日
- 153)木戸ゆかり,日本周辺の重力,地磁気異常,海洋調査勉強会,2001年10月9日
- 154)木戸ゆかり,藤岡換太郎,佐藤暢,西南日本外帯の地磁気ダイポール異常について,2001年日本地質学会第108年学術大会,2001年9月21日
- 155)木戸ゆかり,藤岡換太郎,四国黒瀬川構造帯での地磁気ダイポール異常源についてOrigin of magnetic dipole anomaly on the Kurosegawa Tectonic Zone of Shikoku,地球惑星関連学会2001年合同大会(口頭発表),2001年6月7日
- 156)木戸ゆかり,富士原敏也,四国海盆から南海トラフへの磁気異常の振幅の減衰について,地球電磁気・地球惑星圏学会,秋季大会,2001年11月23日
- 157)熊谷一郎,柳澤孝寿,サラダドレッシングが語る地球内部物質の混合と分化のプロセス,2001年地球惑星科学関連学会合同 代々木オリンピック記念青少年総合センター
- 158)Cummins, P. R., 金田義行,馬場俊孝,小平秀一,1946年南海地震の震源過程と南海トラフ巨大地震のセグ

メンテーション,地球惑星科学関連学会合同大会,2001年

- 159)栗田敬,柳澤孝寿,層状対流系の内部構造進化,2001年地球惑星科学関連学会合同 代々木オリンピック記念青少年総合センター
- 160)小平秀一,尾鼻浩一郎,仲西理子,朴進午,金田義行,海域地震探査/地震観測から見た南海トラフ地震発生帯,日本地震学会秋季大会,2001年
- 161)斉田智治,末次大輔,竹中博士,大滝寿樹,神定健二,レーザー関数法を用いたマントル地震学的不連続面の深さ推定,2001年地球惑星科学合同大会
- 162)佐藤佳子,巽好幸,齋藤和男,岩田尚能,大分県中部に分布する新第三紀火山岩類のK-Ar年代測定,質量分析学会同位体比部会,アートランドホテル蓼科,2001年11月
- 163)佐藤奏衣,中塚武,河村公隆,北里洋,相模湾深海底の表層堆積物に含まれる脂肪酸の季節変動,2001年度日本海洋学会秋季大会
- 164)志賀章紀,関根康人,松田康平,柳澤孝寿,深畑幸俊,栗田敬,浜野洋三,キラウエア火山の溶岩チューブ上における磁場観測,2001年地球惑星科学関連学会合同 代々木オリンピック記念青少年総合センター
- 165)島田耕史,新井崇史,平野聡,池田隆司,小林健太,松田達生,小村健太郎,田中秀美,富田倫明,野島断層平林NIEDコアに観察される小規模な花崗岩質マイロナイト帯,日本地質学会第108年年会,2001年9月23日
- 166)篠塚一典,鈴木勝彦,下田弦,本多将俊,巽好幸,標準岩石中の白金族元素の定量,地球惑星科学関連学会2001年合同大会,2001年6月7日
- 167)篠塚一典,鈴木勝彦,下田弦,本多将俊,巽好幸,ICP-質量分析法による標準岩石中の白金族元素の定量,2001年度日本地球化学会年会,2001年10月9日
- 168)末次大輔,Fenglin Niu,南太平洋下マントル遷移層の地震学的構造,2001年地球惑星科学合同大会
- 169)末次大輔,深尾良夫,遠地実体波の波形相関による走時測定のための地殻構造補正,2001年日本地震学会秋季大会
- 170)鈴木勝彦,本多将俊,篠塚一典,下田弦,巽好幸,ハワイ,アイスランドブルーム起源岩のPt-Os, Re-Osシステムティクス:コア・マントル相互作用の検証,地球惑星科学関連学会2001年合同大会,2001年6月7日
- 171)鈴木勝彦,本多将俊,篠塚一典,下田弦,巽好幸,ハワイ,アイスランドブルーム起源岩のPt-Os, Re-Osシステムティクス:コア・マントル相互作用の検証,2001年度日本地球化学会年会,2001年10月19日
- 172)鈴木勝彦,G. Thompson,柴田知之,本多将俊,巽好幸,ポリネシアRarotonga海洋島 玄武岩のRe-Osシステムティクス,2001年度日本地球化学会年会(ポスターセッション),2001年10月19日
- 173)宿野浩司,巽好幸,田村芳彦,韓国,済州島の新生代アルカリ火山岩類の岩石学,日本火山学会秋季大会,2001年10月1日
- 174)多田訓子,島伸和,馬場 聖至,歌田久司,市來雅啓,藤浩明,Magnetotelluric法を用いたフィリピン海プレートの地下構造の推定,地球惑星科学関連学会2001年合同大会,2001年6月4日
- 175)田村芳彦,巽好幸,海洋島弧における安山岩地殻の再溶融:伊豆ボニン弧の例,地球惑星科学関連学会2001年合同大会,2001年6月4日
- 176)鶴哲郎,朴進午,三浦誠一,林努,日本海溝における構造的浸食作用の地域性とプレート境界のカップリング,地球惑星科学関連学会(ポスターセッション),2001年6月8日
- 177)鶴哲郎,朴進午,三浦誠一,林努,小平秀一,木戸ゆかり,金田義行,日本海溝におけるプレートの沈み込み形態と構造的浸食作用の地域性について,秋季物理探査学会,2001年10月25日
- 178)東野陽子,中西一郎,昭和基地で観測されたPKPdf先行波から推定される核-マントル境界近傍の不均質,2001年地球惑星科学合同大会

- 179)中塚武,佐藤奏衣,神田穰太,北里洋,野牧秀隆,嶋永元裕,相模湾深層における沈降・懸濁粒子の動態, 2001年度日本海洋学会秋季大会
- 180)仲西理子,南海トラフの地殻構造(レビュー)と巨大地震発生の関係,地球惑星科学関連学会2001年合同大会,2001年6月5日
- 181)仲西理子,三浦誠一,尾鼻浩一郎,小平秀一,高橋成実,鶴哲郎,朴進午,金田義行,蔵下英司,平田直,岩崎貴哉,1973年・根室半島沖地震破壊域の地殻構造,地球惑星科学関連学会2001年合同大会,2001年6月8日
- 182)仲西理子,三浦誠一,尾鼻浩一郎,小平秀一,鶴哲郎,朴進午,金田義行,蔵下英司,平田直,岩崎貴哉,千島海溝～オホーツク海における海陸境界域の深部構造,日本地震学会秋季大会(ポスターセッション),2001年10月24日
- 183)西山宣正,原田辰彦,小野重明,八木健彦,亀掛川卓美,鉄・アルミニウムを固溶したマグネシウムケイ酸塩ペロブスカイトの状態方程式,日本高圧力学会高圧討論会,2001年11月12日
- 184)西山宣正,原田辰彦,小野重明,八木健彦,亀掛川卓美,アルミナを固溶したMg, Feケイ酸塩ペロブスカイトの状態方程式,地球惑星科学関連学会2001年合同大会(ポスターセッション),2001年6月7日
- 185)西弘嗣,北里洋,松岡篤,地球史における海洋環境研究の最前線,日本古生物学会ミレニアムシンポジウム「21世紀の古生物学」,2001年
- 186)野牧秀隆,北里洋,P. Heinz, Ch. Hemleben, 深海生底生有孔虫類の沈降有機物摂取・消費過程に関する室内実験,日本古生物学会第150回例会,2001年
- 187)朴進午,鶴哲郎,濱嶋多加志,金田義行,平朝彦,倉本真,EW9907/08乗船者一同,南海トラフ反射法地震探査データのAVO解析,2001年地球惑星科学関連学会合同大会,2001年6月5日
- 188)朴進午,鶴哲郎,伊藤亜妃,仲西理子,小平秀一,金田義行,マルチチャンネル反射法データから見た熊野灘沖南海トラフ付加体の地殻構造,日本地質学会第108年学術大会,2001年9月21日
- 189)朴進午,南海トラフにおけるフィリピン海プレートの沈み込み構造 - マルチチャンネル反射法地震探査の結果,京都大学防災研究所研究集会,2001年10月10日
- 190)橋本千尋,松浦充宏,地震発生サイクルと断層構成関係の発展,地球惑星科学関連学会2001年合同大会,2001年6月
- 191)橋本千尋,松浦充宏,地震発生サイクルと断層間相互作用,地球惑星科学関連学会2001年合同大会,2001年6月
- 192)服部雄次,本多将俊,鈴木勝彦,清水洋,Os同位体組成を用いたタクラマカン砂漠周辺での風成堆積物の移動についての研究,2001年度日本地球化学会年会,2001年10月18日
- 193)馬場聖至,歌田久司,島伸和,藤浩明,市來雅啓,多田訓子,フィリピン海におけるSqの位相のずれについて,第110回地球電磁気地球惑星圏学会,2001年11月25日
- 194)馬場俊孝,亀山真典,P. R. Cummins,堀高峰,金田義行,海溝でのプレートベンディングにおける海山の効果:日本海溝の場合,地球惑星科学関連学会2001年合同大会
- 195)馬場俊孝,P. R. Cummins,谷岡勇市郎,宇平幸一,1946年南海地震のすべり量分布とフィリピン海プレートの形状との関係,地震学会秋期大会,2001年
- 196)馬場俊孝,構造探査結果から推定したフィリピン海プレートの形状と1946年南海地震のすべり量分布,京都大学防災研究所研究集会,2001年
- 197)久光敏夫,氏家恒太郎,平朝彦,ODP Leg 190 乗船者一同,帯磁率,帯磁率異方性解析および古環境からみたデコルマの起源について,地球惑星科学関連学会2001年合同大会
- 198)久光敏夫,氏家恒太郎,平朝彦,ODP Leg 190 乗船者一同,南海トラフ付加体における帯磁率異方性解析,日本地質学会大108年学術大会,2001年

- 199)久光敏夫,徐垣,剪断作用を受けた堆積岩の帯磁率異方性(AMS),地球惑星科学関連学会2001年合同大会,2001年6月4日
- 200)平野聡,亀山真典,堀高峰,P. R. Cummins,馬場俊孝,金田義行,砂箱実験ではどれだけ強度コントラストが付けられるか?,地球惑星科学関連学会2001年合同大会,2001年6月8日
- 201)平野聡,仲佐(木戸)ゆかり,朴進午,東方外志彦,宇平幸一,金田義行,反射法地震探査による四国沖南海トラフ付加体内の断層系分布,地球惑星関連学会2001年合同大会,2001年6月5日
- 202)深畑幸俊,柳澤孝寿,栗田敬,浜野洋三,溶岩等火山噴出物上における局所的磁気異常の空間的特徴,2001年地球惑星科学関連学会合同 代々木オリンピック記念青少年総合センター
- 203)堀高峰,P. R. Cummins,馬場俊孝,金田義行,構造によって規定される南海地震の震源過程,日本地震学会2001年度秋季大会(ポスターセッション),2001年10月25日
- 204)堀高峰,金田義行,1906年San Francisco地震と1911年Morgan Hill地震,京都大学防災研究所研究集会(特定)13S-1「地震・火山噴火活動の相関とトリガリング」,2001年
- 205)堀高峰,尾池和夫,南海地震と西南日本内帯の地震活動の関連,京都大学防災研究所研究集会(特定)13S-1「地震・火山噴火活動の相関とトリガリング」,2001年
- 206)堀高峰,馬場俊孝,P. R. Cummins,金田義行,南海地震の複雑な震源過程の原因としての海山の沈み込み,地球惑星科学関連学会合同大会,2001年
- 207)本多将俊,矢吹貞代,清水洋,中国各地の黄土及び砂漠堆積物の地球化学的及びSr・Nd同位体的特徴,2001年度地球惑星科学関連学会
- 208)本多将俊,鈴木勝彦,巽好幸,ポリネシアTubuaiの海洋島玄武岩のRe-Os同位体的特徴,2001年度日本地球化学会年会(ポスターセッション),2001年10月19日
- 209)増澤敏行,李鉄,中塚武,加藤義久,山本みね子,日比由利子,段芸,高田實彌,北里洋,相模湾における沈降粒子の主構成成分および主・微量元素の組成とフラックスの季節変動,2001年度日本海洋学会秋季大会
- 210)三浦誠一,高橋成実,仲西理子,小平秀一,鶴哲郎,金田義行,日本海溝宮城沖前弧域の地殻構造,地球惑星関連学会合同大会(ポスターセッション),2001年6月8日
- 211)三浦誠一,仲西理子,小平秀一,高橋成実,鶴哲郎,金田義行,日本海溝宮城沖前弧域の地震波速度構造(2),日本地震学会2001年秋季大会(ポスターセッション),2001年10月24日
- 212)山岸保子,草薙誠徳,栗田敬,クレータの形状変化のモデル化による地殻内部構造の推定,2001年日本惑星科学会秋季講演会,岡山理科大学十学舎,2001年10月
- 213)山口はるか,中央ネパール低ヒマラヤ帯衝上断層付近のザクロ石,日本地質学会2001年金沢大会
- 214)柳澤孝寿,熊谷一郎,マグマオーシャンとコア形成に関するモデル実験,日本火山学会2001年秋季大会


(7)地球フロンティア研究システム

Publications

- 1)Aoki, S. (Tohoku Univ.), T.Nakazawa (FRSGC/Tohoku Univ.), S.Morimoto (NIPR), F.Matsumoto (Tohoku Univ.), M.Ishizawa, T. Saeki (Tohoku Univ.), Latitudinally different variations of the atmospheric carbon dioxide concentration and its carbon isotopic ration in the western pacific region, *Extended Abstracts for 6th International Carbon Cycle Conference*, 1, 208-211, 2001
- 2)Asanuma, J. (Tsukuba Univ.), T. Hiyama (Nagoya Univ.), M. Strunin (CAO), M.Y. Mezrin (CAO), R. Suzuki, T. Ohata, Spatial scales relevant to the heat and scalar transports over Siberian taiga forest revealed with the aircraft observation, *Proc. The Fifth International Study Conference on GEWEX in Asia and GAME*, 479-479, 2001

- 3)Behera, S. K., T. Yamagata, Subtropical SST dipole in the southern Indian Ocean, *Geoph. Res. Lett.*, 28, 2, 327-330, 2001
- 4)Behera, S. K., T. Yamagata, Subtropical SST dipole events in the southern Indian Ocean, *Geoph. Res. Lett.*, 28, 2, 327-330, 2001
- 5)Chiba, S., T. Ishimaru, G. W. Hosie, M. Fukuchi, Spatio-temporal variability of zooplankton community structure off east Antarctica (90-160E), *Marine Ecology Progress Series*, 216, 95-108, 2001
- 6)Chiba, S., T. Ishimaru (Tokyo Univ.), G. W. Hosie (Australian Antarctic Division), M. Fukuchi (NIPR), Spatio-temporal variability in life cycle strategy of four pelagic Antarctic copepods: *Rhincalanus gigas*, *Calanoides acutus*, *Calanus propinquus* and *Metridia gerlachei*, *Polar Biosci.*, 15, 27-44, 2002
- 7)Cohen, J. (AER, Inc.), K. Saito, D. Entekhabi, The role of the Siberian high in the Northern Hemisphere climate variability, *Geoph. Res. Lett.*, 28, 2, 299-302, 2001
- 8)Dutay, J.-C. (LSCE), J.L. Bullister, S.C. Doney, J.C. Orr, R. Najjar, K. Caldeira, J.-M. Champin, H. Drange, M. Follows, Y. Gao, N. Gruber, M.W. Hecht, A. Ishida, F. Joos, K. Lindsay, G. Madec, E. Maier-Reimer, J.C. Marshall, R.J. Matear, P. Monfray, G.-K. Plattner, J. Sarmiento, Evaluation of ocean model ventilation with CFC-11: comparison of 13 global ocean models, *Ocean Modelling*, 2001
- 9)Emori, S. (NIES), K. Takata, Plan of Regional-Scale modeling for 2000 IOP, *Proc. GAME-Siberia Workshop, GAME Publication*, 30, 105-106, 2001
- 10)Endoh, T., T. Hibiya (Tokyo Univ.), Numerical simulation of the transient response of the Kuroshio leading to the large meander formation south of Japan, *J. Geophys. Res.*, 106,C11, 26833-26850, 2001
- 11)Eslinger, D. L. (Alaska Univ.), R.T. Cooney, C. P. McRoy (Alaska Univ.), A. Ward (Alaska Univ.), T. Kline (Prince William Sound Science Center), E. P. Simpson (Alaska Univ.), J. Wang, J. R. Allen (Prince William Sound Science Center), Plankton dynamics: Observed and modeled response to physical forcing in Prince William Sound, Alaska, *Fish. Oceanogr.*, 10, 1, 81-96, 2002
- 12)Fujita, D. (Tohoku Univ.), T. Saeki (Tohoku Univ.), M. Ishizawa, S. Maksyutov, T. Nakazawa (FRSGC/Tohoku Univ.), Inter-annual variability of the atmospheric carbon dioxide concentrations as simulated with global terrestrial biosphere models and atmospheric transport model, *Extended Abstracts for 6th International Carbon Dioxide Conference*, 2, 827-830, 2001
- 13)Fukutomi, Y., T. Yasunari (FRSGC/Tsukuba Univ.), Tropical-Extratropical Interaction associated with the 10--25-day oscillation over the Western Pacific during the Northern Summer, *J. Meteor. Soc. Japan*, 80, 2, 311-331, 2002
- 14)Furutani, H. (JST), H. Akimoto, Development and characterization of fast measurement system for gas-phase nitric acid with a chemical ionization mass spectrometer in a marine boundary layer, *J. Geophys. Res.*, 107, D2, ACH1-1-13, 2002
- 15)Geng, Q., M. Sugi (Meteorological Research Institute), Variability of the North Atlantic Cyclone Activity in Winter Analyzed from NCEP/NCAR Reanalysis Data, *J. Climate*, 14,18, 3863-3973, 2001
- 16)H. W. Bange (Inst. Marine Research, Germany), M. O. Andreae (MPIC), S. Lal (PRL), C. S. Law (PML), S. W. A. Naqvi (NIO), P. K. Patra, T. Rixen (CTME), R. C. Upstill-Goddard (UN), Nitrous oxide emissions from the Arabian Sea: A synthesis, *Atmos. Chem. Phys. Discuss*, 1,1, 61-71, 2001
- 17)Hara, T. (Hokkaido Univ.), T. Watanabe, M. Yokozawa, S. Emori, K. Takata, A.Sumida, A Multi-layered Integrated Numerical Model of Surface Physics - Growing Plants Interaction, MINoSGI, *Present and Future of Modeling Global Environmental Change: Toward Integrated Modeling*, 173-185, 2001

- 18)Hiyama, T. (Nagoya Univ.), M.Strunin (CAO), J. Asanuma (Univ. Tsukuba), M. Mezrin (CAO), R. Suzuki, T. Ohata, Flux distributions of heat and carbon dioxide in the atmospheric boundary layer over non-homogeneous surface in eastern Siberia, *Proc. The Fifth International Study Conference on GEWEX in Asia and GAME*, 307-314, 2001
- 19)Honda, M., H. Nakamura, J. Ukita, I. Kousaka, K. Takeuchi, Interannual Seesaw between the Aleutian and Icelandic Lows. Part I: Seasonal Dependence and Life Cycle, *J. Climate*, 14, 6, 1029-1042, 2001
- 20)Honda, M., H. Nakamura, J. Ukita, I. Kousaka, K. Takeuchi, Interannual seesaw between the Aleutian and Icelandic lows. Part I: Seasonal dependence and life cycle, *J. Climate*, 14, 6, 1029-1042, 2001
- 21)Honda, M., H. Nakamura, Interannual seesaw between the Aleutian and Icelandic lows. Part II: Its significance in the interannual variability over the wintertime Northern Hemisphere, *J. Climate*, 14, 24, 4512-4529, 2001
- 22)Hukuda, H., A. E. Hay, R. J. Greatbatch, A two-layer model of shelf break jets with application to the Labrador current, *J. Phys. Oceanogr.*, 31,2, 324-335, 2001
- 23)Hukuda, H., A. E. Hay (Dalhousie Univ.), R. J. Greatbatch (Dalhousie Univ.), A two-layer model of shelfbreak jets with application to the Labrador current, *J. Phys. Oceanogr.*, 31, 2, 324-335, 2001
- 24)Ikeda, M. (FRSGC/Hokkaido Univ.), J. Wang, J.-P. Zhao (Second Institute of Oceanography, State Oceanic Administration), Hypersensitive Decadal Oscillations in the Arctic/Subarctic Climate., *Geoph. Res. Lett.*, 28,7, 1275-1278, 2001
- 25)Inoue, J. (Hokkaido Univ.), M. Honda, M. Kawashima, Air mass transformation processes over the southwestern region of the ice-covered sea of Okhotsk during cold air outbreaks, *J. Meteor. Soc. Japan*, 79,2, 657-670, 2001
- 26)Iwamoto, K. (Hokkaido Univ.), K. Domon, M. Honda, Y. Tachibana, K. Takeuchi, Estimation of surface heat flux based on radiosonde observation in the southwestern part of the Sea of Okhotsk under ice-covered condition, *J. Meteor. Soc. Japan*, 79, 2, 687-694, 2001
- 27)Kanaya, Y., J. Matsumoto, S. Kato, and H. Akimoto, Behavior of OH and HO₂ radicals during the Observations at a Remote Island of Okinawa (ORION99) field campaign: 2. Comparison between observations and calculations, *J. Geophys. Res.*, 106, D20, 24209-24223, 2001
- 28)Kanaya, Y., Y. Sadanaga, K. Nakamura, and H. Akimoto, Behavior of OH and HO₂ radicals during the Observations at a Remote Island of Okinawa (ORION99) field campaign: 1. Observation using a laser-induced fluorescence instrument, *J. Geophys. Res.*, 106, D20, 24197-24208, 2001
- 29)Karumuri, A., Z. Guan, T. Yamagata, Impact of the Indian Ocean Dipole on the Relationship between the Indian Monsoon Rainfall and ENSO, *Geoph. Res. Lett.*, 28, 23, 4449-4502, 2001
- 30)Kato, S. (UT, JST), P. Pochanart (UT, JST), J. Hirokawa (UT), Y. Kajii (UT), H. Akimoto, Y. Ozaki (TIT), K. Obi (JWU), T. Katsuno (Nagano Pref), D. G. Streets (Argonne), N. P. Minko (Inst. Solar Physics), The Influence of Siberian Forest Fires on Carbon Monoxide Concentrations at Happo, Japan, *Atmos. Environ.*, 36, 2, 385-390, 2002
- 31)Kato, S. (UT, JST), P. Pochanart, Y. Kajii (UT), Measurements of ozone and nonmethane hydrocarbons at Chichi-jima island, a remote island in the western Pacific: Long-range transport of polluted air from the Pacific rim region, *Atmos. Environ.*, 35, 34, 6021-6029, 2001
- 32)Limsakul, A. (Nagoya Univ.), T. Saino (FRSGC/Nagoya Univ.), T. Midorikawa (Hakodate Marine Observatory), J. I. Goes (Bigelow Laboratory for Ocean Sciences), Temporal variations in lower trophic level biological environments in the northwestern North Pacific Subtropical Gyre from 1950 to 1997, *Prog. Oceanogr.*, 49, 129-149, 2001
- 33)Ma, X., Y. Fukushima, T. Hiyama, T. Hashimoto and T. Ohata, A macro-scale hydrological analysis of the Lena

- River Basin, *Hydrol. Process.*, 14, 639-651, 2001
- 34)Ma, X., Y. Fukushima, T. Ohata, Hydrological modelling of river ice processes in cold regions, *IAHS Red Book*, 270, 327-331, 2001
- 35)Ma, X., Y. Fukushima, T. Ohata, Hydrological simulation of the Lena River Basin, Siberia, *Second Wadati Conference on Global Change and Polar Climate*, 192-194, 2001
- 36)Manabe, S., T. R. Knutson, R. J. Stouffer, T. L. Delworth, Exploring natural and anthropogenic variation of climate, *J. Meteorol. Soc.*, 127, 571, 1-24, 2001
- 37)Minobe, S., T. Manabe (JMA), S. Akiko (JMA), Century-scale changes of Bidecadal Oscillation over the North Pacific., *Proc. 11th conference on interaction of the sea and atmosphere*, 103-106, 2001
- 38)Minobe, S., T. Tokuno (Hokkaido Univ.), A detection of interannual air-sea coupled signal along the subtropical front in the North Pacific, *Proc. 11th conference on interaction of the sea and atmosphere, San Diego, USA.*, 93-96, 2001
- 39)Misa Ishizawa, T. Nakazawa (FRSGC/Tohoku Univ.), K. Higuchi (MSC, Canada), Inter-annual variability of oxygen isotope ration in atmospheric CO₂, *Extended Abstracts for 6th International Carbon Cycle Conference*, 2, 945-948, 2001
- 40)Miyazaki, S. (Tsukuba Univ.), M. Sugita, T. Yasunari, R. Suzuki, H. Ishikawa, K. Tanaka, Yamamoto, Flux measurement in each project, *Kisho Kenkyu Note*, 199, 201-234, 2001
- 41)Miyazaki, S. (Tsukuba Univ.), Y. Kodama (Hokkaido Univ.), T. Ohta (Nagoya Univ.), T. Yasunari (Univ. Tsukuba), M. Sugita (Univ. Tsukuba), R. Suzuki, O. Tsukamoto (Okayama Univ.), I. Kaihotsu (Hiroshima Univ.), K. Tanaka (Kyoto Univ.), M. Toda (Kyoto Univ), K. Tanaka (Kumamoto Univ.), A comparative study of surface conditions and surface heat flux with seasonal march in Eurasian Continent, *Proc. The Fifth International Study Conference on GEWEX in Asia and GAME*, 476-480, 2001
- 42)Motoya, K., T. Yamazaki, N. Yasuda, Evaluating the Spatial and Temporal Distribution of Snow Accumulation, Snowmelts and Discharge in a Multi basin Scale: An Application to the Tohoku Region, Japan, *Hydrol. Process.*, 15, 2101-2129, 2001
- 43)Nair, P. R. (SPL, VSSC), D. Chand (PRL), S. Lal (PRL), K. S. Modh (PRL), M. Naja, K. Parameswaran (SPL), S. Ravindran (SPL), S. Venkataramani (PRL), Temporal variations in surface ozone concentrations at Thumba (8.6oN, 77oE) - a tropical coastal site, *Atmos. Environ.*, 36, 603-610, 2002
- 44)Nakamura, H., K. Takaya, A formulation of a Phase-Independent Wave-Activity Flux for Stationary and Migratory Quasi-Geostrophic Eddies on a Zonally-Varying Basic Flow, *J. Atmos. Sci.*, 58, 6, 608-627, 2001
- 45)Nakamura, H., M. Honda, Aleutian-Icelandic Low seesaw and its relationship to the Arctic Oscillation., *Science Report of Tohoku Univ.*, 36, 2, 177-180, 2001
- 46)Nakazawa, T. (FRSGC/Tohoku Univ.), S. Aoki (Tohoku Univ.), S. Sugawara (Miyagi Univ. of Education), M. Ishizawa, S. Morimoto (NIPR), F. Matsumoto (Tohoku Univ), T. Saeki (Tohoku Univ.), Variations in the concentration and carbon isotopic ratio of tropospheric carbon dioxide over Japan and their implication for the global carbon cycle, *Extended Abstracts for 6th International Carbon Cycle Conference*, 1, 35-38, 2001
- 47)Ninomiya, K., Comments on Analitical and numerical studies of a quasi-stationary precipitation band observed over the Kanto area associated with Typhoon 9426 (Orchid) by Seko et al., *J. Meteorol. Soc. Japan*, 79, 1, 229-231, 2001
- 48)Ninomiya, K., Large -shaped Cloud Zone Formed around July 6, 1991 with Pole-ward Moisture Transport from Intense Rainfall Area in Meiyu-Baiu Front, *J. Meteorol. Soc. Japan*, 79, 3, 805-813, 2001

- 49)Ninomiya, K., T. Nishimura, W. Ohfuchi, T. Suzuki, S. Matsumura, Meiyu-Baiu front simulated in an AGCM (T42L52), *Proc. of the Third International Symposium on Asian Monsoon System.*, 322-327, 2001
- 50)Numaguti, A. (Hokkaido Univ./FORSGC), K. Takata, N. Endo, Atlas of synoptic charts for the atmosphere-land surface interaction intensive observation in Yakutsk, Siberia, April-August, 2000, *Technical Report, FTR-3*, 1-454, 2001
- 51)Ogi, M. (Hokkaido Univ.), Y. Tachibana (FRSGC/Tokai Univ.), F. Nishio (Chiba Univ.), M. A. Danchenkov (Far Eastern Regional Hydrometeorological Research Institute, Russia), Does the Fresh Water Supply from the Amur River Flowing into the Sea of Okhotsk Affect Sea Ice Formation?, *J. Meteor. Soc. Japan*, 79, 1, 123-129, 2001
- 52)Ozawa, H., S. Shimokawa, H. Sakuma, Thermodynamics of fluid turbulence: A unified approach to the maximum transport properties, *Phys. Review E*, 64, 2, 026303-026303, 2001
- 53)Pochanart, P. (JST), J. Kreasuwun (CMU), P. Sukasem, W. Geeratithadaniyom, M. S. Tabucanon (ERTC), J. Hirokawa, Y. Kajii (UT), H. Akimoto, Tropical tropospheric ozone observed in Thailand, *Atmos. Environ.*, 35, 15, 2657-2668, 2001
- 54)Pochanart, P. (JST), H. Akimoto, S. Maksyutov, J. Staehelin (ETH), Surface ozone at the Swiss Alpine site Arosa: The hemispheric background and the influence of large-scale anthropogenic emissions, *Atmos. Environ.*, 35, 32, 5553-5566, 2001
- 55)Pochanart, P. (JST), H. Akimoto, P. Sukasem (ERTC), Y. Kajii (UT), S. Kato (JST), Regional ozone, carbon monoxide in Southeast Asia from observation in Thailand, *Proc. "A Changing Atmosphere" European Symposium on Atmospheric Pollutants*, 2001
- 56)Saito, K., J. Cohen, D. Entekhabi, Evolution of atmospheric response to early-season Eurasian snow cover anomalies, *Monthly Weather Review*, 129, 11, 2746-2760, 2001
- 57)Santhanam, M. S. (IBM India Research Laboratory), P. K. Patra, Statistics of atmospheric correlations, *Phys. Review E*, 64, 016102, 1-7, 2001
- 58)Shimokawa, S. (NIED, Tsukuba), H. Ozawa, On the thermodynamics of the oceanic general circulation: Entropy increase rate of an open dissipative system and its surroundings, *Tellus A*, 53, 2, 266-277, 2001
- 59)Sugimoto, A. (Kyoto Univ.), A. Numaguti, N. Kurita, K. Ichianagi, K. Takata, T. Yamazaki, R. Suzuki, and T. Hiyama, Regional-scale observation on radiation, precipitation, isotopic compositions of precipitation and lake water, and surface soil moisture., *Activity Report of GAME-Siberia, 2000, GAME Publication*, 26, 75-80, 2001
- 60)Sugimoto, A. (Kyoto Univ.), K. Takata, A. Numaguti, K. Ichianagi, N. Kurita, T. Yamazaki, T. Kotake (Tokyo Univ.), J. Kubota, N. Yanagisawa (Kyoto Univ.), R. Argonov, Y. Torgovskin, A. Fedorov (Permafrost Institute, Russian Academy of Science), T. Ohata (FORSGC/Hokkaido Univ.), Spatial and seasonal variations in surface soil moisture around Yakutsk observed in 2000, *Proc. GAME-Siberia Workshop, GAME Publication*, 30, 63-73, 2001
- 61)Sugimoto, A. (Kyoto Univ.), A. Numaguti, N. Kurita, K. Ichianagi, K. Takata, T. Yamazaki, R. Suzuki, T. Hiyama, Regional-scale observation on radiation, precipitation, isotopic compositions of precipitation and lake water, and surface soil moisture, *Activity Report of GAME-Siberia 2000*, 75-80, 2001
- 62)Suzuki, R., T. Nomaki (RESTEC), T. Yasunari, Spatial distribution and its seasonality of satellite-derived vegetation index (NDVI) and climate in Siberia, *Int. J. Climatol.*, 21, 11, 1321-1335, 2001
- 63)Suzuki, R., S. Tanaka (Tsukuba Univ.), T. Nomaki (RESTEC), T. Yasunari, Plant geographical aspects of vegetation as revealed by vegetation index in Siberia, *International Workshop on Global Change: View of Siberian from NOAA Satellite' edited by Jun-ichi Kudoh and Katsuyoshi Yamada, Northeast Asian Study Series 5 (NEASS*

- 5), *Center for Northeast Asian Studies, Tohoku Univ.*, 5, 51-56, 2001
- 64)Suzuki, R., T. Hiyama, M. Strunin, T. Ohata, T. Koike, Airborne observation of land surface by video camera and spectrometers around Yakutsk, *Activity Report of GAME-Siberia 2000*, 61-64, 2001
- 65)Suzuki, R., T. Nomaki, T. Yasunari, Spatial distribution and its seasonality of satellite-derived vegetation index (NDVI) and climate in Siberia, *Activity Report of GAME-Siberia 2000*, 211-216, 2001
- 66)Suzuki, R., K. Yoshikawa, T. C. Maximov, Phenological photographs of Siberian larch forest from 1997 to 2000 at Spasskaya Pad, Republic of Sakha, Russia, http://picard.suiri.tsukuba.ac.jp/_siberia/spaphoto/index/index.htm, 2001
- 67)Suzuki, R., A. Sugimoto (Kyoto Univ.), A. Numaguti (Hokkaido Univ.), K. Ichyanagi, N. Kurita, K. Takata, T. Yamazaki, Plant Area Index Observation at Surface Sites around Yakutsk during IOP2000, *Proc. GAME-Siberia Workshop*, 79-80, 2002
- 68)Suzuki, R., K. Yoshikawa (Okayama Univ.), T. C. Maximov (IBPC, Russia), Phenological Photographs of Siberian Larch Forest from 1997 to 2000 at Spasskaya Pad, Republic of Sakha, Russia, *Proc. GAME-Siberia Workshop*, 119-120, 2002
- 69)Suzuki, R., A Comparison of West-east Phenological Contrasts of Remotely-sensed Vegetation Index (NDVI) in Siberia and North America Boreal Zone, *Proc. GAME-Siberia Workshop*, 111-118, 2002
- 70)Suzuki, R., Land surface around Lena river basin based on 1km resolution vegetation index data, *Proc. International Conference ---The Role of Permafrost Ecosystems in Global Climate Change---* edited by B. Ivanov and T. Maximov, 149-151, 2001
- 71)Suzuki, R., T. Hiyama (Nagoya Univ.), J. Asanuma (Tsukuba Univ.), T. Ohata (FRSGC/Hokkaido Univ.), T. Koike (Tokyo Univ.), Land surface analysis around Yakutsk in eastern Siberia by hedgehopping airborne video camera and spectrometer, *Proc. International Symposium on Remote Sensing 2001*, 611-616, 2001
- 72)Suzuki, R., T. Nomaki (RESTEC), T. Yasunari, West-east phenological contrast of remotely-sensed vegetation index (NDVI) and the climate in northern Asia, *Proc. The Fifth International Study Conference on GEWEX in Asia and GAME*, 784-789, 2001
- 73)Takata, K., Annual budget and seasonal cycle of land surface energy and water exchange in the tundra region -- Model estimation --., *Proc. GAME-Siberia Workshop, GAME Publication*, 30, 103-104, 2001
- 74)Takata, K., H. Yabuki, T.Sato, M. Boelter, S. Emori, Y. Kodama, T. Ohata, Surface energy/water balance in the tundra region estimated by a one-dimensional land surface model ---An examination of transpiration by CO₂ flux---, *Proc. the Fifth International Study conference on GEWEX in Asia and GAME, GAME Publication*, 31, 30-35, 2001
- 75)Takayabu, I. (Meteorological Research Institute), K. Takata, T. Yamazaki, H. Ishikawa, O. Tsukamoto, and J. Kim, On using LSMs to check the surface energy budget at the GAME/Tibet stations, *Proc. the Fifth International Study conference on GEWEX in Asia and GAME, GAME Publication*, 31, 14-17, 2001
- 76)Tanaka, H.L., H. Takinaga (Hokkaido Univ.), Baroclinic Instability in High Latitudes Induced by Polar Vortex: A Connection to the Arctic Oscillation., *J. Atmos. Sci.*, 59, 1, 69-82, 2002
- 77)Tanimoto, H. (NIES), H. Akimoto, A New Peroxycarboxylic Nitric Anhydride Identified in the Atmosphere: CH₂=CHC(O)OONO₂ (APAN), *Geoph. Res. Lett.*, 28, 14, 2831-2834, 2001
- 78)Tomita, H., M. Tsugawa, M. Sato (FRSGC/SIT), K. Goto (NEC), Shallow water model on a modified icosahedral geodesic grid by using spring dynamics, *J. Comput. Phys.*, 174, 579-613, 2001
- 79)Wang, J., M. Ikeda (FRSGC/Hokkaido Univ.), Arctic Sea Ice Oscillation: Regional and Seasonal Perspectives,

Annals of Glaciology, 33, 481-492, 2002

- 80) Wang, J., M. Jin (Alaska Univ.), E. V. Patrick (Maryland Univ.), J. R. Allen, D. L. Eslinger (Alaska Univ.), R. T. Cooney (Alaska Univ.), Numerical simulation of the seasonal ocean circulation patterns and thermohaline structure of Prince William Sound, Alaska using freshwater of a line source., *Fish. Oceanogr.*, 10, suppl.1, 132-148, 2002
- 81) Wang, J., A Nowcast/Forecast System for Coastal Ocean Circulation (NFSCOC) with a Simple Nudging Data Assimilation., *J. Atmos. Oceanic*, 18, 6, 1037-1047, 2001
- 82) Yamagata, T. (FRSGC/Tokyo Univ.), Dynamics of the South China Sea circulation, *Ocean Development News*, 29, 5, 25-30, 2001
- 83) Yamagata, T. (FRSGC/Tokyo Univ.), S. Behera, Symposium investigates the Indian Ocean Dipole, *Eos*, 83, 12, 131-134, 2002
- 84) Yamane, S., S. Yoden (Kyoto Univ.), Finite-time evolution of small perturbations superposed on a chaotic solution: experiment with an idealized barotropic model, *J. Atmos. Sci.*, 58, 9, 1066-1078, 2001
- 85) 金谷有剛, 長光路差分吸収法による対流圏BrOラジカルの測定, 日本分光学会誌「分光研究」, 1, 50, 24-26, 2001
- 86) 佐藤正樹, 富田浩文, 津川元彦, 肖鋒, 地球フロンティアにおける次世代大気大循環モデルの開発, *ながれ*, 20, 37-46, 2001
- 87) 佐藤正樹 (FRSGC / 埼玉工業大学), 非静力全球モデルの開発, *月刊海洋*, 34, 2, 101-106, 2002
- 88) 鈴木力英, 研究の現場から「地球フロンティア研究システム」, 気候影響・利用研究会会報, 20, 47-48, 2001
- 89) 高田久美子, 大気と陸面の結合とは何か～雪を事例として～, 生研フォーラム「宇宙からの地球環境モニタリング」第10回論文集, 10, 47-49, 2001
- 90) 高田久美子, 積雪モデルのアルベドと被覆率が大気に及ぼすインパクトについて, 低温科学研究所研究集会「雪氷圏と気候」, 5-6, 2001
- 91) 田所和明, 杉本隆成 (東京大学), 気候変動が北太平洋の低次生産過程に及ぼす影響, 日本プランクトン学会誌, 48, 1, 34-40, 2001
- 92) 田所和明, 海洋環境の変化と海洋生態系, *海と環境 - 海が変わると地球が変わる -*, 192-202, 2001
- 93) 千葉早苗, プランクトン群集は語る - 環境変動と生態系変動 -, *月刊海洋*, 27, 12-18, 2001
- 94) 別所康太郎 (気象研究所), 那須野智江, 森一正 (気象庁), 吉村純, 筒井純一 (電力中央研究所), 西憲敬 (京都大学), 大内和良 (東京大学), 第24回米国気象学会台風・熱帯気象会議参加報告, *天気* (日本気象学会機関誌), 48, 6, 393-402, 2001
- 95) 本田明治, 中村尚, 北太平洋の変動が北大西洋に与える影響, *月刊海洋*, 24, 123-129, 2001
- 96) 宮澤泰正, 渦解像モデルによる黒潮のシミュレーション, *月刊海洋*, 33, 9, 656-663, 2001
- 97) 本谷研, 斎藤篤思 (気象庁), 馬淵和雄, 青木輝夫 (気象研究所), 山崎剛, 分光反射特性に基づく植生・積雪指標の1998年航空機搭載型分光走査放射計観測データへの適用, *水文・水資源学会誌*, 14, 3, 239-245, 2001
- 98) 山根省三, 予測可能性について, *月刊海洋*, 33, 2, 118-123, 2001
- 99) 山岬正紀, 非静力学モデルとスコールラインのシミュレーション, *月刊 - 海洋*, 34, 2, 118-123, 2002

Talks and Presentations

- 100) Akimoto, H., Y. Kanaya, K. Nakamura, Y. Sadanaga, J. Matsumoto, H. Tanimoto, U. K. Sharma, S. Kato, J. Hirokawa, and Y. Kajii, Nighttime HO₂ observed in the marine boundary layer at three remote islands in Japan, 8th Scientific Assembly of IAMAS, 2001

- 101)Akimoto, H., P. Pochanart, J. Kreasuwun, P. Sukasem, Tropical boundary layer ozone in continental Southeast Asia observed in Thailand, The International Global Atmospheric Chemistry (IGAC) Symposium, 2001
- 102)Anguluri, S. R., V. V. Gopalakrishna (National Institute of Oceanography, India), S. R. Shetye (National Institute of Oceanography, India), T. Yamagata (FRSGC/Tokyo Univ.), On the absence of cool SST anomalies in the Bay of Bengal during the 1997 Dipole Mode Event in the Indian Ocean, An Ocean Odyssey: Joint Assemblies of IAPSO/IABO, 2001
- 103)Anguluri, S. R., S. K. Behera, Y. Masumoto, T. Yamagata (FRSGC/Tokyo Univ.), Role of Subsurface Ocean Dynamics in Evolution of the Indian Ocean Dipole, Symposium on the Ocean-Atmosphere Coupled Dynamics in the Indian Ocean, 2001
- 104)Aoki, S. (Tohoku Univ.), T. Nakazawa (FRSGC/Tohoku Univ.), S. Morimoto (NIPR), F. Matsumoto (Tohoku Univ.), M. Ishizawa, T. Saeki (Tohoku Univ.), Latitudinally different variations of the atmospheric carbon dioxide concentration and its carbon isotopic ratio in the western Pacific region, 6th International Carbon Cycle Conference, 2001
- 105)Baba, K., A generalization of constraint condition for data assimilation by variational method, 50th Symposium on theoretical and applied mechanics, 2001
- 106)Baba, K., T. Awaji, N. Sugiura, S. Masuda, Q. Jiang, Y. Shen, J. Anna, Y. Ishikawa, N. Komori, Data assimilation of general ocean circulation by 4-dimensional variational method, Annual conference of Japan Society of Industrial and Applied Mathematics, 2001
- 107)Baba, K., T. Awaji, N. Sugiura, S. Matsuda, Y. Y. Shen, J. D. Annan, Q. Jiang, Y. Ishikawa (Kyoto Univ.), N. Komori (Kyoto Univ.), T. Hatayama, Data assimilation of climatological general ocean circulation by 4-dimensional variational method, Japan Society of Mechanical Engineering, 11th Symposium on Engineering and System for Design, 2001
- 108)Baba, K., Application of ensemble method to data assimilation, 51st Symposium on theoretical and applied mechanics, 2002
- 109)Behera, S. K., R. Suzuki (Tokyo Univ.), T. Yamagata (FRSGC/Tokyo Univ.), Dipole events in the southern subtropical Indian Ocean, Japanese Oceanographic Society meeting, Tokyo, 2002
- 110)Behera, S. K., T. Yamagata (FRSGC/Tokyo Univ.), The coupled modelling studies pursued in FRSGC using SINTEX coupled model, EU-Japan preparatory meeting, Brussels, Belgium, 2002
- 111)Behera, S. K., T. Yamagata (FRSGC/Tokyo Univ.), Air-sea interactions in the subtropical Indian Ocean, International Conference on Monsoon Forecasting from Days to Years, New Delhi, India, 2001
- 112)Behera, S. K., T. Yamagata (FRSGC/Tokyo Univ.), The Indian Ocean Dipole influence on the Southern Oscillation, Mini-Workshop on climate variability at the Hadley Centre, UK, 2002
- 113)Chiba, S., T. Saino, Interdecadal change in upper water environment altered spring diatom community structure in the Japan Sea, Global Change Open Science Conference, 2001
- 114)Chiba, S., T. Saino, Plankton community study: a better way to understand ecosystem dynamics in the Japan Sea, North Pacific Marine Science Organization 10th Meeting, 2001
- 115)Chiba, S., Spatio-temporal variability of zooplankton community structure off east Antarctica: what goes on in the krill-absent system, Gordon Research Conference on Polar Marine Science, 2001
- 116)Endoh, T., T. Hibiya (Tokyo Univ.), Numerical simulation of the transient response of the Kuroshio leading to the large meander formation south of Japan, Ocean Sciences Meeting, 2002

- 117)Fujita, D. (Tohoku Univ.), T. Saeki (Tohoku Univ.), M.Ishizawa, S. Maksyutov, T. Nakazawa (FRSGC/Tohoku Univ.), Inter-annual variability of the atmospheric carbon dioxide concentrations as simulated with global terrestrial biosphere models and atmospheric transport model, 6th International Carbon Cycle Conference, 2001
- 118)Fukutomi, Y., H. Igarashi, K. Masuda, T. Yasunari, Water Balance of Three Major River Basins over Siberia from the NCEP/DOEAMIP-II Reanalysis: Annual Cycle and Interannual Variability, 4th International Scientific Conference on the Global Energy and Water Cycle Experiment, 2001
- 119)Fukutomi, Y., H. Igarashi, K. Masuda, T. Yasunari, Interannual Variability in the Summertime Water Balance of Three Major River Basins over Northern Eurasia: Evaluation in the NCEP/DOE AMIP-II Reanalysis, The Fifth International Study Conference on GEWEX in Asia and GAME, 2001
- 120)Geng, Q., M. Sugi (Meteorological Research Institute), Possible change of the seasonal variations of East Asian summer rainfall due to enhanced greenhouse gases and sulfate aerosols - study with a high-resolution AGCM, Spring Meeting of Japan Meteorological Society, 2001
- 121)Guan, Z., K. Ashok, T. Yamagata (FRSGC/Tokyo Univ.), Interdecadal Variations in the Relationship between the ENSO and the Indian Ocean Variability, Symposium on the Ocean-Atmosphere Coupled Dynamics in the Indian Ocean, (Tokyo), 2001
- 122)Guan, Z., K. Ashok, T. Yamagata (FRSGC/Tokyo Univ.), Variations in the Tropical Asian Summer Monsoon Associated with the Indian Ocean Dipole, The Third International Symposium on Asian Monsoon System (ISAM3), 2001
- 123)Guo, X., Y. Miyazawa, H. Hukuda and T. Yamagata, Tracer experiments on the origin of the Tsushima Warm Current, Proc. of the Eleventh PAMS/JECSS Workshop, 2001
- 124)Hameed, S. N., T. Yamagata, Dipole Mode - ENSO response or air-sea interaction?, AGU Fall Meeting, 2001
- 125)Hameed, S. N., T. Yamagata, Why bother about climate variability in the Indian Ocean? A few thoughts., Symposium on Global Change Research, 2001
- 126)Hameed, S. N., T. Yamagata, A View of the Indian Ocean climate system from the vantage point of Dipole Mode events, US-Japan workshop on Monsoon systems, 2001
- 127)Hiyama, T. (Nagoya Univ.), M. A. Strunin (CAO, Russia), J. Asanuma (Tsukuba Univ.), M. Y. Mezrin (CAO, Russia), Rikie Suzuki, T. Ohata (FORSGC/Hokkaido Univ.), Spatial and seasonal variations of heat and carbon dioxide fluxes in the atmospheric boundary layer over non homogeneous surface in eastern Siberia derived from aircraft observations, 4th International Scientific Conference on the Global Energy and Water Cycle, 2001
- 128)Honda, M., H. Nakamura, J. Ukita, Seasonality and three-dimensional structure of the interannual seesaw between the Aleutian and Icelandic lows, 8th Scientific Assembly of IAMAS, 2001
- 129)Honda, M., H. Nakamura, Significance of the interannual seesaw between the Aleutian and Icelandic lows in the interannual variability over the wintertime Northern Hemisphere, AGU Fall Meeting, 2001
- 130)Honda, M., H. Nakamura, J. Ukita, Influence of the Aleutian-Icelandic low seesaw on the Arctic Oscillation, AMS 6th Conference on Polar Meteorology and Oceanography, 2001
- 131)Honda, M., H. Nakamura, Dynamic and thermodynamic characteristics of large-scale atmospheric response to anomalous sea-ice extent in the Sea of Okhotsk, AMS 6th Conference on Polar Meteorology and Oceanography, 2001
- 132)Honda, M., H. Nakamura, J. Ukita, Seasonal dependence and life cycle of the interannual seesaw between the Aleutian and Icelandic lows, Second Wadati Conference on Global Change and Polar Climate, 2001
- 133)Inui, T., Seasonal Variability of the Upper Subpolar Pacific Ocean, Ocean Sciences Meeting, 2002

- 134)Ishizawa, M., T. Nakazawa, Kaz Higuchi (MSC, Canada), Inter-annual variability of oxygen isotope ration in atmospheric CO₂, 6th International Carbon Cycle Conference, 2001
- 135)Ishizawa, M., T. Nakazawa (FRSGC/Tohoku Univ.), K.Higuchi (MSC, Canada), Recent inter-annual variability of oxygen isotope ratio in atmospheric CO₂, Symposium of Atmospheric Composition Change, 2001
- 136)Iwasa, Y. (FRSGC), Y. Abe (Tokyo Univ.), H. Tanaka (Nagoya Univ.), Structure of the atmosphere in radiative-convective equilibrium, IAMAS 2001, 2001
- 137)J.-C. Dutay (LSCE), J. L. Bullister, S. C. Doney, J. C. Orr, R. Najjar, K. Caldeira, J.-M. Campin, H. Drange, M. Follows, Y. Gao, N. Gruber, M. W. Hecht, A. Ishida, F. Joos, K. Lindsay, G. Madec, E. Maier-Reimer, J. C. Marshall, R. J. Matear, P. Monfray, A. Mouchet, G.-K. Plattner, Evaluation of ocean model ventilation with CFC-11: comparison of 13 global ocean models., Globl Change Open Science Conference, 2001
- 138)Kajiakwa, Y. (Tsukuba Univ.), T. Yasunari (FRSGC/Tsukuba Univ.), R. KAWAMURA (Toyama Univ.), The Role of the Local Hadley Circulation over the Western Pacific on the Zonally Asymmetric Anomalies over the Indian Ocean, Symposium on the Ocean-Atmosphere Coupled Dynamics in the Indian Ocean, 2001
- 139)Kanaya, Y., Interpretations of OH/HO₂ radical behaviors observed at coastal sites of Japan, 2001 Atmospheric Chemistry Colloquium for Emerging Senior Scientists (ACCESS VI), 2001
- 140)Kanaya, Y., K. Nakamura, Y. Sadanaga, J. Matsumoto, H. Tanimoto, U. K. Sharma, S. Kato, J. Hirokawa, Y. Kajii, H. Akimoto, Daytime HO₂ observed at three remote islands in Japan: Possible explanations for model overprediction at Oki and Rishiri, 8th Scientific Assembly of IAMAS, 2001
- 141)Kanaya, Y., K. Nakamura, H. Tanimoto, J. Matsumoto, S. Kato, and H. Akimoto, Interpretations of OH/HO₂ radical behaviors observed at coastal sites of Japan, Gordon Research Conference (Atmospheric Chemistry), 2001
- 142)Kanaya, Y., K. Nakamura (Tokyo Univ.), J. Matsumoto (Tokyo Univ.), H. Tanimoto (NIES), S. Kato (Tokyo Univ.), T. Inoue (Keio Univ.), Y. Komazaki (Keio Univ.), S. Tanaka (Keio Univ.), H. Akimoto, Observed and calculated diurnal variations of HOx, NO/NO₂ ratio, H₂O₂, and ozone at Rishiri Island in June 2000, Symposium on Atmospheric Composition Change - Toward the Integration of Observation and Modeling -, 2001
- 143)Karumuri, A., Z. Guan, T. Yamagata, Indian Ocean Dipole-Indian Monsoon Rainfall-ENSO: changing relationships, Ocean Sciences 2002
- 144)Karumuri, A., Z. Guan, T. Yamagata (FRSGC/Tokyo Univ.), Impact of the Indian Ocean Dipole on the Asian Climate Variability, Symposium on the Ocean-Atmosphere coupled dynamics in the Indian Ocean, 2001
- 145)Karumuri, A., Z. Guan, T. Yamagata, Weakening of the Indian Monsoon Rainfall and ENSO correlations--- What caused it?, TROPMET 2001, symposium on 'Meteorology for sustainable development by Indian Meteorological Society, at Mumbai, 2001
- 146)Karumuri, A., Z. Guan, T. Yamagata, The complementary influences of the IOD & ENSO on the Indian summer Monsoon rainfall variability, Symposium on global change research, 2001
- 147)Kishi, M. J. (FRSGC/Hokkaido Univ.), T. Okunishi (Hokkaido Univ.), Lower trophic model in the sea of Okhotsk, North Pacific Marine Science Organization Tenth Annual Meeting, 2001
- 148)Kuba, N., K. Nakamura, Effect of cloud condensation nudlei on the precipitation - Hybrid cloud-microphysical model with multi parcels -, 8th Scientific Assembly of IAMAS, 2001
- 149)Kuba, N., Modeling of cloud micriphysical condition, The 2nd Asian Particle Environmental Change Studies (APEX) International Workshop, 2001
- 150)Kurihara, Y., Design of a new scheme of cumulus parameterization, CCSR workshop for the next generation cli-

mate models, 2002

- 151)Lal, S. (Physical Research Lab), P. K. Patra, A comparison of HALOE/UARS derived methane profiles with balloon measurements, AGU- Fall Meeting, 2001
- 152)Maksyutov, S., T. Machida (NIES), T. Nakazawa, G. Inoue (NIES), H. Mukai (NIES), P.K. Patra, Transcom-3 modelers (D. Baker, P. Bousquet, L. Bruhwiler, Y-H. Chen, P. Ciais, A. S. Denning, S. Fan, I. Y. Fung, M. Gloor, K. R. Gurney, M. Heimann, K. Higuchi, J. John, R. M. Law, Asian CO₂ fluxes estimated using recent observations and transport model inversions, Proc. 6th International CO₂ conference, 2001
- 153)Masson, S., P. Delecluse, (LODYC), J-P. Boulanger, (LODYC), C. Menkes, (LODYC), A Model Study of the Seasonal Variability and Formation Mechanisms of the Barrier Layer in the Eastern Equatorial Indian Ocean, Ocean Sciences Meeting Honolulu, Hawaii, 2002
- 154)Matsumura, S., S.-P. Xie, A. Numaguti, K. Yamazaki, Arctic and Antarctic Oscillations in a 20-member ensemble simulation, International Association of Meteorology and Atmospheric Sciences, 2001
- 155)Matsuno, T., Personal Retrospective on the Development of Thoughts on Mechanism of Stratospheric Sudden Warmings, American Meteorological Society 82nd Annual Meeting, Richard Reed Symposium, 2002
- 156)Matsuno, T., Present Status of Climate Model Development at the Frontier Research System for Global Change, CAS-TWAS-WMO Forum First International Symposium on Physico-Mathematical Problems Related to Climate Modeling and Prediction, 2001
- 157)Matsuno, T., The present status of model development at the Frontier Research System for Global Change, PRISM/COACH Meeting, 2001
- 158)Minobe, S., Interannual to interdecadal changes of water temperature, sea-level displacement, and sea-ice concentrations in the Bering Sea and associated atmospheric circulation changes, Ocean Science Meeting, 2002
- 159)Minobe, S., Interannual to multidecadal changes of temperature structure in the Bering Sea, PICES 10th annual meeting, 2001
- 160)Miyazaki, S. (Tsukuba Univ.), Y. Kodama (Hokkaido Univ.), T. Ohta (Nagoya Univ.), T. Yasunari (Tsukuba Univ.), M. Sugita (Tsukuba Univ.), R. Suzuki (FRSGC), O. Tsukamoto (Okayama Univ.), I. Kaihotsu (Hiroshima Univ.), K. Tanaka (Kyoto Univ.), M. Toda, A comparative study of surface conditions and surface heat flux with seasonal march in Eurasian Continent, Fifth International Study Conference on GEWEX in Asia and GAME, 2001
- 161)Miyazawa, Y., A. Musa (NEC), K. Ogochi (ITJ), Nesting Ocean Model for Parallel Vector Processors, Terrain-Following Coordinates Ocean Models Users' Workshop, 2001
- 162)Miyazawa, Y., Prediction of the Kuroshio path variability by assimilating surface data into POM: practical approach and further development, International Workshop on GODAE with Focus on the Pacific, 2001
- 163)Miyazawa, Y., H. Hukuda, X. Guo, T. Yamagata (FRSGC/Tokyo Univ.), Eddy resolving Kuroshio simulation: eddy behavior in the Kuroshio region, the 11th PAMS/JECSS Workshop, 2001
- 164)Monfray, P. (IPSL), J. Orr (IPSL), O. Aumont (IPSL), R.G. Najjar (PSU), F. Louanchi (PSU), X. Jin (PSU), S. Doney (NCAR), K. Lindsay (NCAR), M.-F. Weirig (AWI), R. Schlitzer (AWI), K. Plattner (PIUB), F. Joos (PIUB), A. Yool (SOC), I. Totterdell (SOC), E. Maier-Reimer (MPI), J.M. Campin (UC), Air-Sea Fluxes and North-South Ocean Transport of CO₂ Results from the OCMIP Project, 6th International Carbon Dioxide Conference, 2001
- 165)Monfray, Patrick, Orr, J. Aumont, O. Yool, A. Totterdell, I. Plattner, K. Joos, F. Maier-Reimer, E. Weirig, M.-F.

- Schlitzer, R. Ishida, A. Yamanaka, Y. Doney, S. Lindsay, K. Sarmiento, J. L. Slater, R. D. Najjar, R. Louanchi, F. Jin, Xin, Air-Sea Fluxes and North-South Ocean Transport of CO₂ and O₂: Results from the Ocean Carbon-Cycle Model Intercomparison Project, Global Change Open Science Conference, 2001
- 166)Motoya, K., T. Oki, K. Takata, X. Jianqing, Estimation a global runoff sensitivity to the precipitation gauge correction, Phone-AGG Workshop (International Conference Center the Meteo-France Campus, Toulouse, France), 2001
- 167)Naja, M., H. Akimoto, J. Staehelin (Institute for Atmospheric Science, Zurich, Switzerland), Investigation of tropospheric vertical ozone distribution at Payerne (Switzerland) by trajectory analysis, International Global Atmospheric Chemistry Symposium, Bangkok, Thailand, 2001
- 168)Naja, M., H. Akimoto, J. Staehelin (Institute for Atmospheric Science, Zurich, Switzerland), Study of long-term trend in tropospheric ozone by trajectory analysis at payerne, 8th Scientific Assembly of IAMAS, 2001
- 169)Naja, M., H. Akimoto, J. Staehelin (Institute for Atmospheric Science, Zurich, Switzerland), Variabilities in long-term tropospheric ozone at Hohenpeissenberg and Payerne: A study by trajectory analysis, Formal Laboratory Seminar at Swiss Federal Institute of Technology (ETH), Zurich, 2001
- 170)Nakamura, H., M. Honda, Influence of the formation of the Aleutian-Icelandic Low seesaw upon the leading mode of the interannual variability in the Northern Hemisphere winter, IAMAS 2001, 2001
- 171)Nakamura, M. (Hokkaido Univ.), S. Minobe (FRSGC/Hokkaido Univ.), Interannual to interdecadal variations of upper water temperature in the Japan Sea (East Sea) and Okhotsk Sea, Ocean Science Meeting, 2002
- 172)Nakanowatari, T. (Hokkaido Univ.), S. Minobe (FRSGC/Hokkaido Univ.), Global Structure of Bidecadal Precipitation Variability in Boreal Winter, Ocean Science Meeting, 2002
- 173)Nakazawa, T. (FRSGC/Tohoku Univ.), S. Aoki (Tohoku Univ.), M. Ishizawa, S. Sugawara (Miyagi Univ. of Education), S. Morimoto (NIPR), T. Saeki (Tohoku Univ.), Variations of the tropospheric CO₂ concentration and its δ¹³C over Japan, Symposium on Atmospheric Composition Change, 2001
- 174)Nakazawa, T. (FRSGC/Tohoku Univ.), S. Aoki (Tohoku Univ.), S. Sugawara (Miyagi Univ. of Education), M. Ishizawa, S. Morimoto (NIPR), F. Matsumoto (Tohoku Univ), T. Saeki (Tohoku Univ.), Variations in the concentration and carbon isotopic ratio of tropospheric carbon dioxide over Japan and their implication for the global carbon cycle, 6th International Carbon Cycle Conference, 2001
- 175)Ohara, T., H. Akimoto, J. Kurokawa (Fujitsu FIP), K. Yamaji, D. Streets (Argonne National Laboratory), Development of emissions inventories for anthropogenic sources in East and South Asia, International workshop : Emissions of chemical species and aerosols into the atmosphere, 2001
- 176)Ohata, M., Y. Yamanaka (Hokkaido Univ./FRSGC), A Study of the Marine Sediment Model, 7th International Conference on Paleoceanography, 2001
- 177)Ohfuchi, W., Development and application of AFES (AGCM for Earth Simulator), Anglo-Japanese Mini-Symposium on the Atmosphere and Ocean, 2002
- 178)Ohfuchi, W., Interannual variation of the Madden-Julian Oscillation during boreal early-spring., The Symposium on the Ocean-Atmosphere Coupled Dynamics in the Indian Ocean, 2001
- 179)Okada, N. (Hokkaido Univ.), S. Minobe, Y. Kanemoto, H. Ozawa, M. Ikeda, Plume structures in deep convection of rotating fluid, Oceanographic Society of Japan, 2001
- 180)Orr, J. C. (IPSL), P. Monfray (IPSL), O. Aumont (IPSL), A. Yool (SOC), I. Totterdell (SOC), K. Plattner (Physics Institute, Bern Univ.), F. Joos (Physics Institute, Bern Univ.), E. Maier-Reimer (MPI), M. F. Weirig (AWIPMR), R. Schlizer (AWIPMR), K. Caldeira (LLNL), M. W, Simulations of historical and future anthro-

pogenic CO₂ uptake from 12 global ocean models, 6th International Carbon Dioxide Conference, 2001

- 181)Orr, J. C. (LSCE), Monfray, P. Aumont, O. Yool, A. Totterdell, I. Plattner, K. Joos, F. Maier-Reimer, E. Weirig, M.-F. Schlitzer, R. Caldeira, K. Wickett, M. Matear, R. Follows, M. Gao, Y. Drange, H. Ishida, A. Yamanaka, Y. Doney, S. Lindsay, K. Sarmiento, J. L. Slater, R. D. Key, Simulations of Historical and Future Anthropogenic CO₂ Uptake from 12 Global Ocean Models, Globl Change Open Science Conference, 2001
- 182)Orr, J. C. (LSCE), Monfray, P. Aumont, O. Yool, A. Totterdell, I. Plattner, K. Joos, F. Maier-Reimer, E. Weirig, M.-F. Schlitzer, R. Caldeira, K. Wickett, M. Matear, R. Follows, M. Gao, Y. Drange, H. Ishida, A. Yamanaka, Y. Doney, S. Lindsay, K. Sarmiento, J. L. Slater, R. D. Key, OCMIP evaluation of deep-ocean circulation, Globl Change Open Science Conference, 2001
- 183)Orr, J. C. (LSCE), Monfray, P. Aumont, O. Yool, A. Totterdell, I. Plattner, K. Joos, F. Maier-Reimer, E. Weirig, M.-F. Schlitzer, R. Caldeira, K. Wickett, M. Matear, R. Follows, M. Gao, Y. Drange, H. Ishida, A. Yamanaka, Y. Doney, S. Lindsay, K. Sarmiento, J. L. Slater, R. D. Key, Evaluation of 12 global ocean models based on recent perturbations in oceanic radiocarbon, Globl Change Open Science Conference, 2001
- 184)Orr, J. C. (LSCE), Gruber, N. Najjar, R. G. the OCMIP Group (Y. Yamanaka, A. Ishida), The Ocean Carbon-Cycle Model Intercomparison Project, Globl Change Open Science Conference, 2001
- 185)Orr, James (LSCE, France), P. Monfray (IPSL/LSCE, France), O. Aumont (IPSL/LSCE, France), A. Yool (SOC, UK), I. Totterdell (SOC, UK), K. Plattner (PIUB, Switz), F. Joos (PIUB, Switz), E. Maier-Reimer (MPI, Germany), M.-F. Weirig (AWI, Germany), R. Schlitzer (AWI, Germany), K. Caldeira (LLNL, U, Evaluation of 12 global ocean models based on recent perturbations in oceanic radiocarbon, Globl Change Open Science Conference, 2001
- 186)Orr, James (LSCE, France), R. M. Key, O. Aumont, A. Yool, I. Totterdell, K. Plattner, F. Joos, E. Maier-Reimer, M.-F. Weirig, R. Schlitzer, K. Caldeira, M. Wickett, R. Matear, M. Follows, Y. Gao, H. Drange, A. Ishida, Y. Yamanaka, S. Doney, K. Lindsay, J. L. Sarmiento, R. D. Slater, OCMIP evaluation of deep-ocean circulation, Globl Change Open Science Conference, 2001
- 187)Ozawa, H., S. Shimokawa, S. Minobe, H. Sakuma, Entropy and climate II: A unified approach to the long-term stability of the global climate and fluid turbulence, AGU Spring Meetin, 2001
- 188)Ozawa, H., A. Ohmura (Swiss Federal Institute of Technology), The second law of thermodynamics and the global climate: A review, AGU Spring Meeting, 2001
- 189)Patra, P. K., M. S. Santhanam (IBM-IRL), On the distributions and EOFs of HALOE/UARS Ozone and Methane, AGU Fall Meeting, 2001
- 190)Patra, P. K., S. Maksyutov, CO₂ observation network design from inverse model prospective, Eleventh WMO/IAEA Meeting of Experts on Carbon Dioxide Concentration and Related Tracer Measurement Techniques, 2001
- 191)Patra, P. K., S. Maksyutov, M. S. Santhanam (IBM India Research Laboratory), Derived trends of CH₄ in the lower stratosphere from HALOE measurements, Non-CO₂ Greenhouse Gases (NCGG-3) Scientific understanding, control options and policy aspects, 2002
- 192)Patra, P. K., S. Maksyutov, D. Baker, P. Bousquet, L. Bruhwiler, Y.-H. Chen, P. Ciais, A. S. Denning, S. Fan, I. Y. Fung, E. Gloor, K. R. Gurney, M. Heimann, K. Higuchi, J. John, R. M. Law, T. Maki, K. Masarie, P, Optimal network design for CO₂ observations maximizing the inversion performance, Sixth International Carbon Dioxide Conference, Sendai, 2001

- 193)Patra, P. K., Trends of Methane and Study of Stratospheric Dynamics Using Satellite Data, Symposium on Atmospheric Composition Change: Toward the Integration of Observation and Modeling, 2001
- 194)Pochanart, P., H. Akimoto, P. Sukasem (ERTC), Y. Kajii, S. Kato (JST), Regional ozone, carbon monoxide and NMHCs in Southeast Asia: Ground-based observation in Thailand, 8th European Symposium on the Physico-Chemical Behavior of Atmospheric Pollutants, 2001
- 195)Pochanart, P., H. Akimoto, Y. Kajii, H. Tanimoto (NIES), S. Shungo (JST), Ozone and carbon monoxide in East Asia: the latest results from ground-based observation, 8th Scientific Assembly of IAMAS, 2001
- 196)Pochanart, P., H. Akimoto, Ozone and carbon monoxide behaviors in East/Southeast Asia from observation aspect, Formal Laboratory Seminar at Swiss Federal Institute of Technology (ETH), Zurich, 2001
- 197)Pochanart, P., H. Akimoto, Y. Kajii (UT), V. Potemkin, T. Khodzher (Limnological Institute, Irkutsk), Background CO and ozone in remote Siberia and the impact of European pollution transport, Symposium on Atmospheric Composition Change: Toward the Integration of Observation and Modeling, 2001
- 198)Pochanart, P., H. Akimoto, The risk assessment of ozone critical level and vegetation impact in Japan, The 42nd Annual Meeting of the Japan Society for Atmospheric Environment, 2001
- 199)Pochanart, P., H. Akimoto Y. Kajii (Tokyo Univ.), V. L. Potemkin, T. V. Khodzher (Limnological Institute, Irkutsk), Regional background ozone and carbon monoxide in remote Siberia/East Asia, The seventh discussion meeting on atmospheric chemistr, 2001
- 200)Satoh, M., H. Tomita, M. Tsugawa, F. Xiao, T. Nasuno, Development of a next generation atmospheric general circulation model, Symposium on Globla Change Reserach, 2001
- 201)Shimokawa, S. (NIED, Tsukuba), H. Ozawa, Thermodynamics of the oceanic general circulation: Entropy increase rate of an open dissipative system and its surrounding system, The Oceanographic Society of Japan, 2001
- 202)Shimokawa, S. (NIED, Tsukuba), H. Ozawa, On thermodynamics of the oceanic general circulation: Entropy increase rate of an open dissipative system and its surroundings, Second Wadati Conference, 2001
- 203)Smith, S. L., Y. Yamanaka, M. J. Kishi, Simulating the Cycling of Organic Matter Using a Nitrogen-based Oceanic Ecosystem Model: Carbon-to-Nitrogen Ratios, AGU Spring Meeting, 2001
- 204)Smith, S. L., Y. Yamanaka, M. J. Kishi, Simulating the Cycling of Organic Matter Using a Nitrogen-based Oceanic Ecosystem Model: Carbon-to-Nitrogen Ratios, IGBP Global Change Open Science Conference, 2001
- 205)Smith, S. L., Y. Yamanaka (FRSGC/Tokyo Univ.), M. J. Kishi (FRSGC/Hokkaido Univ.), Simulating the cycling of Organic Matter with a Nitrogen-based oceanic ecosystem model, PICES (North Pacific Marine Science Organization) Annual Meeting, 2001
- 206)Suzuki, R., T. Nomaki (RESTEC), T. Yasunari (Tsukuba Univ.), The west-east contrast of the vegetatoin seasonal cycle as revealed by NDVI over norhtern Asia, 11th Seiken Forum, 2002
- 207)Suzuki, R., T. Hiyama (Nagoya Univ.), J. Asanuma (Tsukuba Univ.), T. Ohata (FORSGC/Hokkaido Univ.), T. Koike (Tokyo Univ.), Airborne video camera and spectrometer observation of land surface around Yakutsk in eastern Siberia, 4th International Scientific Conference on the Global Energy and Water Cycle, 2001
- 208)Suzuki, R., T. Nomaki (RESTEC), T. Yasunari, West-east Phenological Contrast of Remotely-sensed Vegetation Index (NDVI) and the climate in Northern Asia, Fifth International Study Conference on GEWEX in Asia and GAME, 2001
- 209)Suzuki, R., T. Hiyama (FORSGC, Nagoya Univ.), J. Asanuma (Tsukuba Univ.), T. Ohata (FORSGC, Hokkaido Univ.), and T. Koike (Tokyo Univ.), Land surface analysis around Yakutsk in eastern Siberia by hedgehopping

- airborne video camera and spectrometer, International Symposium of Remote Sensing (ISRS), 2001
- 210)Suzuki, R., T. Nomaki (RESTEC), T. Yasunari (FRSGC/Tsukuba Univ.), Some phenological aspects of vegetations over Siberia and North America as revealed by NDVI, Second GAME-MAGS International Workshop, 2001
- 211)Tadokoro, K., Long term variations of plankton biomass in the North Pacific, PICES/CoML/IPRC Workshop, 2001
- 212)Takahashi, J., M. Ikeda (FRSGC/Hokkaido Univ.), J. Wang, Effects of variance of layer depth and bottom friction on dense eddy propagation on slope, AGU fall meeting, 2001
- 213)Takahashi, J., J. Wang, M. Ikeda, On the dense water transportation due to mesoscale eddy, Dynamics of Overflow Mixing and Entrainment Workshop, 2001
- 214)Takahashi, J., Eddy-induced transport mechanisms of the dense water in the Arctic shelf, IARC workshop, 2002
- 215)Takahashi, J., M. Ikeda (FRSGC/Hokkaido Univ.), J. Wang, Dense water transportation due to mesoscale eddy on continental shelf, Ocean Science Meetings, 2002
- 216)Takahashi, J., J. Wang, M. Ikeda, On the effect of eddy transport on the dense shelf water, The Oceanographic Society of Japan 2001 Spring meeting, 2001
- 217)Takata, K., Continental-Scale Impacts of Land Surface Parameters on Atmospheric Circulation, 50th Symposium on theoretical and applied mechanics, 2001
- 218)Takata, K., H. Yabuki, T. Sato (Shinshu Univ.), M. Boelter (Kiel Univ., Germany), S. Emori, Y. Kodama, T. Ohata (FORSGC/Hokkaido Univ.), Surface energy/water balance in the tundra region estimated by a one-dimensional land surface model ---An examination of transpiration by CO₂ flux---, The Fifth International Study Conference on GEWEX in Asia and GAM, 2001
- 219)Takigawa, M., H. Akimoto, M. Takahashi, K. Sudo, Typical weather patterns and tracer transport calculated by CCSR/NIES/FRSGC nudged CTM for 2000/2001 winter, BIBLE and PEACE workshop, 2001
- 220)Takigawa, M., H. Akimoto, M. Takahashi, K. Sudo, Quasi-realtime calculation for the global distributions of ozone and other chemical species by using a photochemical GCM for the troposphere, IAMAS200, 2001
- 221)Takigawa, M., M. Takahashi, INTERACTIVE CCSR/NIES SIMULATION OF PINATUBO AEROSOL, IAMAS2001, 2001
- 222)Tanaka, H.L., H. Tokinaga (Hokkaido Univ.), A study of Arctic Oscillation induced by a positive feedback between the polar vortex and baroclinic instability, AMS Annual Meeting, Albuquerque, 2001
- 223 Tanaka, H. L., K. Yamamoto (Tsukuba Univ.), Numerical simulation of volcanic plume dispersal for Usu Volcano and Miyakejima in Japan, International Workshop on Global Change, 2001
- 224)Tomita, H., M. Sato (FRSGC/SIT), K. Goto (NEC), Development of dynamical core using the spherical homogeneous grid systems, 2001 Meeting of Japan Society of Fluid Mechanics, 2001
- 225)Tomita, H., M. Sato (FRSGC/SIT), K. Goto (NEC), Development of next generation dynamical core using icosahedral grid configuration, 2001 Workshop on the Solution of Partial Differential Equation on the Sphere, 2001
- 226)Tomita, H., M. Sato (FRSGC/SIT), K. Goto (NEC), Global non-hydrostatic model using icosahedral grid, International workshop on the next-generation climate model, 2002
- 227)Tomita, H., M. Sato (FRSGC/SIT), K. Goto (NEC), Development of next generation non-hydrostatic dynamical core using the icosahedral grid, Meeting of Japan Meteorological Society of Japan, Fall 2001
- 228)Tomita, H., M. Tsugawa, M. Satoh, K. Goto, Development of Dynamical Core on a Modified Icosahedral Grid, The 3rd International Workshop on Next Generation Climate Models or Advanced High Performance Computing Facilities, 2001

- 229) Tomita, T., S. Xie, M. Nonaka, Relationship between Decadal Surface and Subsurface Variability in the Midlatitude North Pacific, IAMAS 2001
- 230) Tomita, T., T. Yasunari, Interannual Modulation of the Boreal Summer Intraseasonal Oscillation., The Fifth International Study Conference on GEWEX in Asia and GAME, 2001
- 231) Tomita, T., T. Yoshikane, T. Yasunari, Meridional fluctuation of the Baiu front on interannual timescales and the related large-scale circulation., The Third International Symposium on Asian Monsoon System (ISAM3), 2001
- 232) Wang, J., A 3-D Coupled Physical-Biological Model and Its Application to the Spring Plankton Bloom of 1996 in Prince William Sound, Alaska, International Association of Biological Oceanography (IABO), Argentina, November 21-26, 2001
- 233) Yamaji, K., T. Ohara, H. Akimoto, CH₄ emission from livestock in Asia, Symposium on Atmospheric Composition Change - Toward the Integration of Observation and Modeling -, 2001
- 234) Yamane, S., S. Yoden (Kyoto Univ.), Finite-time evolution of small perturbations superposed on a chaotic solution: experiment with an idealized barotropic model., 8th Scientific Assembly of IAMAS, 2001
- 235) Yamane, S., M. Honda, H. Nakamura, W. Ohfuchi, Observed and simulated seesaw between Aleutian and Icelandic lows and its interdecadal modulation., AGU fall meeting, 2001
- 236) Yamazaki, T., H. Yabuki, Simulation of energy and water fluxes using a one-dimensional model in eastern Siberia, 5th International Study Conference on GEWEX in Asia and GAME, 2001
- 237) Yamazaki, T., A Multi-Layer Model of Snow Cover Adaptable to Intensely Cold Regions, International Association of Meteorology and Atmospheric Sciences, 2001
- 238) Yasunari, T., A. Yatagai, Hydro-climatic memory effect of Taiga-permafrost Ecosystem in East Siberia, 4th International Scientific Conference on the Global Energy and Water Cycle, 2001
- 239) Yasunari, T., Asymmetries of seasonal cycle and their implication to the interannual variability in various monsoon systems, IAMS, Innsbruck, 2001
- 240) Yasunari, T., The Prospect of Sustainable Agriculture in Monsoon Asia - A View from Water Cycle and Rice Production in Thailand -, The first Conference of the Science Council of Asia, 2001
- 241) Yasunari, T., How The Global Warming Changes The Climate From The View of the Sea of Japan, Toyama Environmental Foundation, 2001
- 242) Yasunari, T., Role of large-scale vegetation and land use on water cycle and climate in monsoon Asia, IGBP, Amsterdam, 2001
- 243) Yoshikane, T., F. Kimura, S. Emori, Numerical Study on the Baiu Front Genesis by Heating Contrast between Land and Ocean, The 5th International Study Conference on GEWEX in Asia and GAME, 2001
- 244) Yoshimura, Ju., How Does Greenhouse Warming Affect Tropical Cyclone Activity?, First International Workshop on Climate Change and Water-related Disasters, 2002
- 245) Zhang, H., G.-Y. Shi (LASG, Institute of Atmospheric Physics), Numerical Explanation for Accurate Radiative Cooling Rates Resulting from the Correlated k Distribution Hypothesis, 2001 IAMAS Meeting
- 246) 石澤みさ, 大気中二酸化炭素の酸素同位体比の経年変動に関する数値シミュレーション, 第7回大気化学討論会, 2001
- 247) 石澤みさ, 大気中二酸化炭素の酸素同位体比の経年変動, 日本気象学会春季学会, 2001
- 248) 遠藤貴洋, 三寺史夫, 謝尚平(ハワイ大学), 北太平洋亜寒帯域での中冷・中暖構造の形成過程に関する数値実験, 日本海洋学会春季大会, 2002

- 249)大原利眞,秋元肇,山地一代,黒川純一(富士通FIP),D. Streets(アルゴンヌ国立研究所),アジア域における大気微量物質エミッション・インベントリの構築(第一報),第42回大気環境学会年会,2001
- 250)大原利眞,秋元肇,山地一代,黒川純一(富士通FIP),D. Streets(アルゴンヌ国立研究所),アジア域における大気微量物質エミッション・インベントリの構築(第一報),第42回大気環境学会年会,2001
- 251)大淵済,水平-鉛直解像度の組み合わせに対するAGCMダイナミカル・コアの対流圏大循環の感度,日本気象学会秋季大会,2001
- 252)大淵済,水惑星でSSTの緯度傾度と全球平均を変えたら大循環はどうなるの?,地球流体電脳倶楽部 夏の学校風 地球流体セミナー,2001
- 253)金谷有剛,松本淳,横内陽子,豊田賢二郎,秋元肇,大気中OH/HO₂ラジカル・NO_xに対するヨウ素化学反応のインパクト:利尻島での観測事実とモデル計算,日本地球化学学会年会,2001
- 254)金谷有剛,OH, HO₂ラジカル観測から見えてくる大気化学の未解明過程,研究会「大気化学と分子科学の接点」,2002
- 255)金谷有剛,横内陽子,谷本浩志(国立環境研),中村憲司,松本淳,加藤俊吾(東大先端研),古谷浩志(科技団),井上武治郎,橋本茂,駒崎雄一,田中茂(慶應理工),豊田賢二郎,秋元肇,利尻観測から得られた大気中ヨウ素類反応の証拠と総合検証,第12回大気化学シンポジウム,2001
- 256)金谷有剛,レーザー誘起蛍光法を用いた海洋境界層でのOH/HO₂ラジカル測定,第42回大気環境学会年会 環境計測技術分科会,2001
- 257)金谷有剛,中村憲司(東大理),谷本浩志(環境研),松本淳,加藤俊吾(科技団),豊田賢二郎,秋元肇,2000年6月利尻で観測された日中のHO_xラジカル濃度をモデル計算が過大評価する理由,第七回大気化学討論会,2001
- 258)金谷有剛,夏季離島集中観測でのHO_xラジカルの測定と光化学オゾン生成,東アジアにおけるオゾン・酸性物質汚染シンポジウム,2001
- 259)金谷有剛,梶井克純,秋元肇,Metcon製スペクトロラジオメータの性能評価と大気化学種の光分解速度の測定,日本気象学会春季大会,2001
- 260)金谷有剛,中村憲司,谷本浩志,松本淳,加藤俊吾,古谷浩志,秋元肇,2000年利尻集中観測におけるOH/HO₂ラジカルの挙動:実測とモデル計算の比較,第11回大気化学シンポジウム,2001
- 261)久芳奈遠美,中村晃三,雲微物理モデルを組込んだ雲シミュレーション(その2),日本気象学会秋季大会,2001
- 262)久芳奈遠美,雲凝結核が層雲の光学的性質に及ぼす影響,第2回大気放射セミナー,2001
- 263)斉藤和之,Linkage between autumn Eurasian snow cover and Northern Hemisphere wintertime climate variability,日本気象学会春季大会,2001
- 264)佐々木英治,佐久間弘文,升本順夫,高解像度大循環モデルによる東部熱帯太平洋の中規模渦-地球シミュレータ用海洋モデルの性能検討-,日本海洋学会春季大会,2001
- 265)佐々木英治,佐久間弘文,Smagorinskyモデルでの格子アスペクト比に対する離岸感度-パロトロピック簡易モデルによる検討-,第日本海洋学会春季大会,2002
- 266)笹井義一,石田明生,山中康裕(地球フロンティア研究システム/北海道大学),トレーサーを用いた海洋循環に関する研究-高解像度海洋物質循環モデル開発に向けて-,日本海洋学会秋季大会,2001
- 267)徐健青,東アジアの気候変化について(1971~1995年),GAME-Tibet研究報告会,2001
- 268)徐健青,萩野谷成徳(気象研),気温が上昇すると,大気中の水分はどう変わるか?,日本気象学会秋季大会,2001
- 269)徐健青,ポテンシャル蒸発量からみた東アジアにおける近年の気候変化,気候コロキウム,2001
- 270)杉浦望実,淡路敏之(FRSGC/京都大学),馬場金司,石川洋一(京大),増田周平,堀内一敏(地球科学技

- 術機構), 蔣勤, 沈一揚, J. D. Annan, 随伴形の海洋循環問題への適用, 日本海洋学会春季大会, 2002
- 271) 鈴木力英, 野牧知之(リモートセンシング技術センター), 安成哲三(FRSGC / 筑波大学), 植生指数から見たアジア北部における植生の季節サイクルの東西差と気候, 日本地理学会春季大会, 2002
- 272) 鈴木力英, IOP2000航空機観測によるヤクーツク付近の地表面の分析, GAME-Siberiaワークショップ, 2001
- 273) 鈴木力英, 田中直実, 野牧知之, 安成哲三, NDVIから見たシベリアの広域植生の特徴, GAME-Siberiaワークショップ, 2001
- 274) 鈴木力英, 吉川賢, T. C. Maximov, スパスカヤ・パッドのカラマツ林におけるフェノロジーの写真website, GAME-Siberiaワークショップ, 2001
- 275) 鈴木力英, 野牧知之(RESTEC), 安成哲三, シベリアにおける植生指数(NDVI)の季節性・地域性と気温・降水量との関係, 生研フォーラム「宇宙からの地球環境モニタリング」, 2001
- 276) 鈴木力英, 檜山哲哉, 大畑哲夫, 小池俊雄, シベリアのヤクーツク周辺で行われた航空機による地表面の分光反射観測とビデオ観測, 日本地理学会, 2001
- 277) 尹聖永, 田中幸夫, 肖鋒(東工大), 矢部孝(東工大), 緯度-経度座標系と用いたCIP法による浅水波計算, 日本気象学会, 2001
- 278) 高田久美子, 積雪のアルベドとサブグリッド被覆率が大気に及ぼす影響, 日本気象学会春季大会, 2001
- 279) 滝川雅之, CCSR/NIES AGCMを用いた成層圏硫黄循環の見積もり, *ATMOS-CI Workshop 2001*
- 280) 滝川雅之, 秋元肇, 須藤健吾, 高橋正明, ナッジング対流圏全球光化学モデルの開発 - 化学天気予報に向けて -, 大気化学シンポジウム, 2001
- 281) 田所和明, 千葉早苗, 才野敏郎, 親潮域における低次生態系と気候変動の関係, 日本海洋学会春季大会シンポジウム, 2002
- 282) 千葉早苗, T. Saino, ケイソウ組成からみる日本海低次生態系の数十年スケール変動 -Early summer hypothesis during 80s -, 日本海洋学会春季大会, 2001
- 283) 津川元彦, 富田浩文, 佐藤正樹(地球フロンティア研究システム / 埼玉工業大学), 高解像度大循環モデルの力学フレームワークの開発(3)--- 正二十面体測地線格子と立方体格子の比較 ---, 日本気象学会春季大会, 2001
- 284) 富田智彦, 北太平洋SSTの10年規模変動に対する表層, 亜表層変動の寄与, 日本気象学会春季大会, 2001
- 285) 富田智彦, 中緯度北太平洋におけるSSTの10年規模変動 - 亜表層変動の役割 -, 日本海洋学会春季大会, 2001
- 286) 富田智彦, 梅雨前線の南北分布の経年変動特性, 日本気象学会秋季大会, 2001
- 287) 中村晃三, 斉藤和雄(気象庁), 吉崎正憲(気象研究所), FASTEX IOP16で観測された低気圧の雲の数値実験: その2. GCSS WG3 低気圧の雲のモデル比較実験に関連して(NHMの結果の特徴), 気象学会秋季大会, 2001
- 288) 中村晃三, 斉藤和雄(気象庁), 吉崎正憲(気象研), FASTEX IOP 16で観測された低気圧の雲の数値実験 低気圧の雲のモデル比較実験(GCSS WG3)に関連して, 第3回非静力学モデルに関するワークショップ, 2001
- 289) 福富慶樹, 安成哲三, 夏季モンスーン暖水域上での西風強化イベントと海面付近の変動について, 日本気象学会春季大会, 2001
- 290) 藤吉康志, 尾関竜彦(北海道大学大学院地球環境科学研究科M2), 海洋地球観測船「みらい」の夏の北極海航海で観測された層雲の構造, 日本気象学会春期大会, 2001
- 291) 藤吉康志(FRSGC / 北海道大学), k. Kawashima(北海道大学低温研究科), 中村晃三(FRSGC / 東京大学海洋研究科), 山岬正紀, 梅雨前線帯に伴うクラウドクラスターの水収支とその数値シミュレーション, 3rd GAME-HUBEX Workshop on Meso-scale Systems in Meiyu/Baiu Front And Its Hydrological Cycle, 2001
- 292) 藤吉康志(FRSGC / 北海道大学), 尾関竜彦(北海道大学), 夏の北極海上の下層雲の構造, 第24回極域気

水圏シンポジウム ,2001

- 293)藤吉康志(FRSGC / 北海道大学),尾関竜彦(北海道大学),夏の北極海上の下層雲の構造 ,日本気象学会
秋季大会 ,2001
- 294)藤吉康志(FRSGC / 北海道大学),尾関竜彦(北海道大学),夏の北極海上の層雲 ,日本気象学会北海道支
部会 ,2001
- 295)藤田大輔(東北大学),石澤みさ ,S. Maksyutov, 中澤高清 ,佐伯田鶴 ,大気中二酸化炭素変動のシミュレ
ーション ,第7回大気化学討論会 ,2001
- 296)藤田大輔(東北大学),中澤高清 ,佐伯田鶴 ,S. Maksyutov, 石澤みさ ,全球三次元大気輸送モデルを用いた
二酸化炭素濃度変動の数値シミュレーション ,日本気象学会春季学会 ,2001
- 297)本田明治 ,中村尚 ,下部成層圏循環におけるアリューシャン低気圧 - アイスランド低気圧シーソーのふるまい ,
日本気象学会秋季大会 ,2001
- 298)本田 明治 ,中村尚 ,アリューシャン低気圧 - アイスランド低気圧シーソーと下部成層圏循環との関係 ,日本気
象学会春季大会 ,2001
- 299)本田明治 ,中村尚 ,冬季北半球循環場に卓越する変動の季節依存性及び天候への影響 ,月例会「 長期予報
と大気大循環」 ,2001
- 300)松野太郎 ,気候モデリング・気候変動予測と地球シミュレータ ,第51回理論応用力学講演会 ,2002
- 301)真鍋淑郎 ,地球温暖化予測と宇宙からの観測 ,NASDAセミナー ,2001
- 302)真鍋淑郎 ,温暖化と水循環 ,地球環境研究会 ,2001
- 303)真鍋淑郎 ,気候の数値モデルによる温暖化の予測 ,電力館科学セミナー ,2001
- 304)見延庄士郎 ,20世紀における北太平洋20年変動の変化 ,日本海洋学会春季大会 ,2001
- 305)宮澤泰正 ,渦解像モデルによる黒潮シミュレーション ,日本海洋学会春季大会 ,2001
- 306)本井達夫 ,気候モデルでシミュレートされた南極周極波動 ,日本海洋学会春季大会 ,2002
- 307)本井達夫 ,気候モデルでシミュレートされた南極周極波動の空間構造と時間発展 ,第24回極域気水圏シン
ポジウム ,2001
- 308)本谷研 ,高田久美子 ,沖大幹 ,全球水・熱収支シミュレーションのための捕捉率低下の風速依存性を考慮
した降水量データの作成 ,水文・水資源学会研究発表会 ,2001
- 309)山根省三 ,本田明治 ,中村尚 ,大淵済 ,再解析データと数値実験に見られる冬季北半球循環場に卓越する
変動の10年規模の変調について ,月例会「 長期予報と大気大循環」 ,2001
- 310)山根省三 ,本田明治 ,中村尚 ,再解析データと数値実験に見られるアリューシャン低気圧 - アイスランド低気
圧シーソーとその10年規模の変調について ,日本気象学会秋季大会 ,2001
- 311)山崎剛 ,本谷 研 ,高田久美子 ,積雪モデルの国際比較SnowMIPについて ,日本雪氷学会東北支部大会 ,2001
- 312)山崎剛 ,本谷研 ,高田久美子 ,積雪モデルの国際比較SnowMIP ,日本気象学会秋季大会 ,2001
- 313)山地一代 ,大原利眞 ,顔暁元 ,秋元肇 ,アジアにおける家畜起源のCH₄排出に関する研究 ,第42回大気環境
学会年会 ,2001
- 314)山中康裕(FRSGC / 北海道大学),藤井賢彦(科学技術振興事業団),生態系・物質循環の振舞いに対する
気候変動 ,日本海洋学会春季大会 ,2002
- 315)山中康裕(FRSGC / 北海道大学),海洋物理学・海洋化学・海洋生物学・古海洋学をつなぐ物質循環モデ
リング ,日本海洋学会春季大会 ,2002
- 316)山岬正紀 ,梅雨前線に伴うクラウドクラスターと環境風の鉛直シア ,日本気象学会秋季大会 ,2001
- 317)山岬正紀 ,メソスケール対流解像モデルを用いた梅雨前線に伴うクラウドクラスターの数値実験

日本気象学会春季大会, 2001

- 318) 山岬正紀, 梅雨前線に伴うクラウドクラスターと数値モデル, 豪雨・豪雪をもたらす気象擾乱に関する研究集会, 2001
- 319) 吉江直樹(北海道大学), 山中康裕, 岸道郎(FRSGC / 北海道大学), 齋藤宏明(北海道大学), 生態系モデル用いた珪藻類の珪素利用に関する考察, 日本海洋学会春季大会, 2001
- 320) 吉江直樹(北海道大学), 山中康裕, 岸道郎(FRSGC / 北海道大学), 齋藤宏明(東北水研), 春季珪藻ブルームはどのように始まり終わるのか, 日本海洋学会春季大会, 2002
- 321) 吉村純, 杉正人(気象研), 高分解能大気大循環モデルによる台風シミュレーション - 海面水温・CO₂濃度それぞれの影響 - , 日本気象学会春季大会, 2001

(8) 地球観測フロンティア研究システム

Publications

- 1) Hirota, T. (NACHR), M. Fukumoto (NIRE), R. Shirooka, K. Yamada (NACHR), Estimation of the Cumulative Sensible Heat Flux over a Bare Soil and its Daily Mean Soil Temperature without Wind Speed Data, *J. Japan Soc. Hydrol. and Water Resour.*, 14, 4, 289-297, 2001
- 2) Ichiyangi, K., K. Sugimoto (Kyoto Univ.) A. Numaguchi (Hokkaido Univ.), Spatial and temporal variations of stable isotopes in alar water around Yakutsk, Russia, *Proc. GAME-Siberia Eorkshop*, 30, 75-76, 2001
- 3) Ichiyangi, K., A. Numaguti, M. Yamanaka, Temporal variation of stable isotopes in precipitation compared between Jakarta and Jayapura, Indonesia, *GAME Publication Proc. The Fifth International Study Conference on GEWEX in Asia and GAME*, 31, 3, 628-631, 2001
- 4) Iwasaki, S., H. Okamoto (Tohoku Univ.), Analysis of backscattering by non-spherical particles with flat surfaces; mechanism of enhancement, *Applied Optics (Optical society of America)*, 40, 33, 6121-6129, 2001
- 5) Kim, Y., N. Tanaka, Temporal Variation of Fluxes of CO₂, CH₄ and N₂O in Boreal Forest, Alaska, *Proc. the Second International Workshop on Global Change: Connection to the Arctic, 2001; Bulletin of Research Center for North Eurasia and North pacific Regions, Hokkaido Univ.*, 1, 124-137, 2001
- 6) Kim, Y., N. Tanaka, Temporal and Spatial Vairation of Carbon Dioxide Flux Along a Latitudinal Alaskan Transect, *6th International Carbon Dioxdie Conference*, 6, 465-468, 2001
- 7) Kubota, H., T. Nitta (Tokyo Univ.), Diurnal variations of tropical convection observed during the TOGA-COARE, *J. Meteoro. Soc. Japan*, 79, 3, 815-830, 2001
- 8) Kushida, K. (Hokkaido Univ.), Y. KIM, Spectral Decomposition of Tundra Vegetation in Alaska for its Spatial Decomposition, *Proc. the Second International Workshop on Global Change: Connection to the Arctic, 2001; Bulletin of Research Center for North Eurasia and North Pacific, Hokkaido Univ.*, 1, 46-51, 2001
- 9) Kushida, K. (Hokkaido Univ.), Y. Kim, Modeling of componential spectral characteristics of taiga for satellite data interpretation: Comparative study on east Siberia and Alaska, *2001 International Symposium in Environmental Monitoring in East Asia*, 67-72, 2001
- 10) Mori, S., K. Kikuchi, H. Uyeda, Observational studies of Low Altitude Wind Shear (LAWS) formed in the lee of mountains, *J. Meteoro. Soc. Japan*, 79, 1, 79-97, 2001
- 11) Reddy, K. K., T. Kozu (Shimane Univ.), G. Viswanathar (ISTRAC), R. R. Rao (ISTRAC), A. R. Jain (National MST Radar Faculty), K. Nakamura (Nagoya Univ.), Application of ground-based wind profilers and disdrometer for understanding precipitating cloud systems observed during monsoon, *Fifth International Symposium on*

Hydrological Application of Weather Rader-Radar Hydrology, 177-182, 2001

- 12) Shimizu, S. (EORC/NASDA), K. Ueno (Shiga Univ. Pref.), H. Fujii (Nagoya Univ. of Technology), H. Yamada, R. Shiroyuka (Hokkaido National Agricultural Experiment Station), L. Liping (Lanzhou Institute of Plateau Atmospheric Physics, CAS, China), Mesoscale characteristics and structures of stratiform precipitation on the Tibetan Plateau, *J. Meteor. Soc. Japan*, 79, 1B, 435-461, 2001
- 13) Takeuchi, N., The altitudinal distribution of snow algae on an Alaska glacier (Gulkana Glacier in the Alaska Range), *Hydrol. Process.*, 15, 3447-3459, 2001
- 14) Takeuchi, N., S. Kohshima, K. Seko, Structure, formation, and darkening process of albedo-reducing material (cryoconite) on a Himalayan glacier: a granular algal mat growing on the glacier., *Arctic, Antarctic, and Alpine Research*, 33, 2, 115-122, 2001
- 15) Takeuchi, N., S. Kohshima, K. Goto-Azuma, R. M. Korner, Biological characteristics of dark colored material (cryoconite) on Canadian Arctic ice caps, *Memoirs of National Institute of Polar Res.*, 54, 495, 2001
- 16) Takeuchi, N., S. Kohshima, T. Shiraiwa, K. Kubota, Characteristics of cryoconite (surface dust on glaciers) and surface albedo of a Patagonian glacier, Tyndall Glacier, Southern Patagonia Icefield, *Bull. Glaciol. Res.*, 18, 65-69, 2001
- 17) Ueno, K. (Shiga Univ.), H. Fujii (Nagoya Univ. of Technology), H. Yamada, L. Liping (Lanzhou Institute of Plateau Atmospheric Physics, CAS, China), Weak and frequent monsoon precipitation over the Tibetan Plateau, *J. Meteor. Soc. Japan*, 79, 1B, 419-434, 2001
- 18) Uyeda, H. (Hokkaido Univ.), H. Yamada, J. Horikomi (Hokkaido Univ.), R. Shiroyuka (Hokkaido National Agricultural Experiment Station), S. Shimizu (EORC/NASDA), L. Liping (Lanzhou Institute of Plateau Atmospheric Physics), K. Ueno (Shiga Univ. Pref), Hideyuki, Characteristics of convective clouds observed by a Doppler radar at Naqu on Tibetan Plateau during the GAME-Tibet IOP, *J. Meteor. Soc. Japan*, 79, 1B, 463-474, 2001
- 19) 竹内望 ,ヒマラヤの氷河の雪氷生物 ,雪氷 ,63, 2, 181-189, 2001
- 20) 根田昌典 ,小林大洋 ,衛星による海面観測の時空間特性 ,月刊海洋 ,33, 9, 675-681, 2001

Talks and Presentations

- 21) Hamada, J., M. D. Yamanaka, J. Matsumoto, Spatial and temporal variations of rainy season over Indonesia and their link to ENSO, 8th Scientific Assembly of IAMAS (International Association of Meteorology and Atmospheric Sciences), 2001
- 22) Ichiyonagi, K., A. Numaguti, K. Kato, Interannual variation of stable isotopes in Antarctic precipitation in response to El Nino-Southern Oscillation, *8th Scientific Assembly of IAMAS*, 2001
- 23) Ichiyonagi, K., A. Numaguti, N. Kurita, Introduction of the Water Isotope Global Circulation Model (WIGCM) and Asian Network for Stable Isotopes in Natural Water (ANSIN) database., Application of Isotopes in Water Cycle Models (IWCM), IAEA, Vienna, Austria, 2001
- 24) Ichiyonagi, K., A. Numaguti, M. Yamanaka, Temporal variation of stable isotopes in precipitation compared between Jakarta and Jayapura, Indonesia., The 5th International Study Conference on GEWEX in Asia and GAME, Nagoya, Japan, 2001
- 25) Iwasaki, S., M. (Communications Research Laboratory), H. Okamoto (Tohoku Univ.), Cloud observations by using 532NM and 1064Nm lidar, A Workshop on Atmospheric Environmental Changes in Asia - Joint Workshop of APEX and RIHN, 2001

- 26)Iwasaki, S., H. Hanado (CRL), H. Horie (CRL), H. Kuroiwa (CRL), H. Kumagai (CRL), H. Okamoto (Tohoku University), Rain and Cloud Observation by 95 GHz Cloud Radar and 13.8 GHz Precipitation Radar, AMS 82nd Annual Meeting, 2002
- 27)Kim, Y., N. Tanaka, Effect of Forest Fire on the Fluxes of CO₂, CH₄ and N₂O in Boreal Forest, Interior Alaska, Japanese Oceanographic Society: Sympisoum Arctic Biogeochemistry, 2001
- 28)Kim, Y., N. Tanaka, Effect of Forest Fire on the Fluxes of Trace Gases in Boreal Forest, Central Alaska, Global Change Open Science Conference: Chanlleges a Changing Earth, 2001
- 29)Kim, Y., N. Tanaka (Hikkaido Univ./FORSGC), Temporal Variation of Soil Respiration Rate in Boreal Forest Soils, Central Alaska, 52nd Arctic Science Conference, 2001
- 30)Kim, Y., N. Tanaka (Hokkaido Univ./FORSGC), Temporal and spatial variation of carbon dioxide flux along a latitunial Alaskan transect, 6th International Carbon Dioxide Conference, 2001
- 31)Kobayashi, T., Y. Takatsuki, Y. Ichikawa, T. Suga, K. Mizuno, N. Shikama, K. Takeuchi, Japan ARGO Delayed-mode Data Base in JAMSTEC, North Pacific Marine Science Organization 10th Annual Meeting, 2001
- 32)Kubota, H., A study for the mechanism of diurnal variation of tropical convection -Low-level clouds observed over the tropical western Pacific-, AGU Spring Meeting, 2001
- 33)Kushida, K. (Hokkaido Univ.), Y. Kim, Interpretation of remotely sensed data in Alaskan tundra-taiga zone based on componential spectral characteristics, AGU Fall Meeting, 2001
- 34)Kushida, K. (Hokkaido Univ.), Y. Kim, Modeling spectral reflectance from tundra in Alaska from satellite data interpretation, 24th International Symposium on Polar Biology, 2001
- 35)Mori, S., M. D. Yamanaka, Seasonal and Diurnal Variations of Convective Activity Observed by Boundary Layer Radar over West Sumatra, Indonesia, International Workshoop on GAME-Tropics in Thailand, 2001
- 36)Mori, S., Sodar : Boundary Layer Observation in West Sumatra, BPPT One Day Seminar in Jakarta, Indonesia, 2001
- 37)Mori, S., M. D. Ymanaka, Seasonal and Diurnal Variations of Convective Activity Observed by Boundary Layer Radar over West Sumatra, Indonesia, 8th Scientific Assembly of IAMAS, 2001
- 38)Mori, S., J. Hamada, M. D. Yamanaka, Precipitation Characteristics over Indonesian Maritime Continent Observed by TRMM Satellite and Boundary Layer Radars, The fifth international study conference on GEWEX in Asia and GAME, Nagoya, Japan, 2001
- 39)Mori, S., J. Hamada, M. D. Yamanaka, Precipitation Characteristics over Indonesian Maritime Continent Observed by TRMM Satellite and Boundary Layer Radars, 4th International Scientific Conference on the Global Energy and Water Cycle, 2001
- 40)Mori, S., J.-I., Hamada, M. D. Yamanaka, Regional and Temporal Variations of rainfall characteristics around Sumatra Island, Indonesian Maritime Continent, The Third International Symposium on Asian Monsoon System, 2001
- 41)Reddy, K. K., T. Kozu (Shimane Univ.), G.Viswanathan, R.Ranga Rao (ISTRAC,Inida), A.R.Jain (NMRF, India), K. Nakamura (Nagoya Univ.), Application of Ground based wind profilers and disdrometer for understanding precipitating cloud systems observed during monsoon, Fifth International Symposium on Hydrological Applications of Weather Radar - Radar Hydrology, 2001
- 42)Reddy, K. K., T. Kozu (Shimane Univ.), K. Nakamura, A. Higuchi (Nagoya Univ.), Y. Ohno (Commu. Res. Lab), A. R. Jain, P. B. Rao (NMRF), G. Viswanthan (ISTRAC), D.Naryana Rao (Sri Venkateswara Univ., India), Planetary Boundary Layer observations using Lower Atmospheric Wind Profiler, The International Radar Symposium India, 2001

- 43) Sugimoto, A. (Tokyo Univ.), A. Numaguti, N. Kurita, K. Ichiyangi et al., Regional-scale observation on radiation, precipitation, isotopic composition and albedo and lake water, and surface soil moisture, Activity report of GAME-Siberia 2000, 2001
- 44) Sugimoto, A. (Kyoto Univ.), D. Naito (Kyoto Univ.), A. Kagawa (FFPRI), K. Ichiyangi, N. Kurita, Importance of Permafrost for Water Cycle and Vegetation in East Siberian Taiga., AGU Fall Meeting, 2001
- 45) Tauhid, Y. I., M. D. Yamanaka, Y. Fukushima, Evapotranspiration in tropical monsoon Basin, -Simplified model application to Indonesian area, 8th Scientific Assembly of IAMAS, 2001
- 46) Yinsheng, Z., T. Ohata, M. Kadota, Water budget in surface soil layer in region of central Tibet plateau, 5th international GAME conference, 2001
- 47) Yongwon, K., K. Keiji (Hokkaido Univ.), Spatial and Temporal Variations of CO₂ Flux along a Latitudinal Alaskan Transect, Arctic Environmental Research Meeting, 2002
- 48) Yongwon, K., Effect of Forest Fire on Greenhouse Gases Emission, 2001 FRSGC Annual Symposium, 2002
- 49) 一柳錦平, 沼口敦(FORSGC / 北海道大学), 杉本敦子(京都大学), シベリア・ヤクーツク周辺におけるアラスカの同位体組成, 第112回日本林学会大会, 2001
- 50) 一柳錦平, 杉本敦子, 沼口敦, Spatial and temporal variations of stable isotopes in albedo water around Yakutsk, Russia, Siberia Workshop, 2001
- 51) 一柳錦平, 杉本敦子(京都大学), 沼口敦(FORSGC / 北海道大学), 東シベリアにおけるアラスカ湖水の季節変化について, 日本水文学会学術大会, 2001
- 52) 一柳錦平, インドネシアにおける降水の安定同位体比の変動, 日本気象学会秋季大会, 2001
- 53) 岩坂直人, 竹内謙介, 須賀利雄, 小林大洋, 岡英太郎, 松浦浩, 宮崎基, 市川泰子, 遠藤昌宏, 水野恵介, 安藤健太郎, 高槻靖, 石田明生, 伊澤堅, プロファイリングフロートによる黒潮続流南方の観測(), 日本海洋学会春季大会, 2001
- 54) 岩崎杉紀, 岡本創, 安井元昭, 二波長のライダーによる雲とエアロゾルの同時地上観測, 日本気象学会春季大会, 2001
- 55) 岩崎杉紀, 花土弘(通信総研), 岡本創(東北大), 堀江宏明(通信総研), 黒岩博司(通信総研), 熊谷博(通信総研), 95GHz雲レーダと13.8GHz降雨レーダによる同時降雨観測, 日本気象学会秋期大会, 2001
- 56) 牛山朋来, 城岡竜一, 陳敬陽, 中田隆, 山田広幸, 久保田尚之, 上田博, 竹内謙介, 米山邦夫, 勝俣昌己, 西太平洋で行われたPALAU2000におけるAWS観測, 日本気象学会春季大会, 2001
- 57) 牛山朋来, 勝俣昌己, 「みらい」MR00-K04航海で観測されたITCZ降水システムの数値実験, 日本気象学会秋季大会, 2001
- 58) 岡英太郎, 岩坂直人, 須賀利雄, 石田明生, 水野恵介, 竹内謙介, プロファイリングフロートによる黒潮続流南方の観測(), 日本海洋学会春季大会, 2001
- 59) 久保田尚之, 米山邦夫, 勝俣昌己, 城岡竜一, 陳敬陽, 中田隆, 竹内謙介, 西風バースト状況下で観測された積雲対流活動, 日本気象学会春季大会, 2001
- 60) 小林大洋, 市川泰子, 高槻靖, 須賀利雄, 岩坂直人, 安藤健太郎, 水野恵介, 竹内謙介, HydroBaseを用いたARGOデータの品質管理について, 日本海洋学会春季大会, 2001
- 61) 小林大洋, 中島宏幸, 市川泰子, 高槻靖, 須賀利雄, 水野恵介, 四電信行, 竹内謙介, インド洋版ARGOデータ品質管理用データベース(), 日本海洋学会秋季大会, 2001
- 62) 城岡竜一, 久保田尚之, 陳敬陽, 中田隆, 岩崎杉紀, 上田博, 竹内謙介, パラオ周辺域における長期気象観測計画(PALAU2001)について, 日本気象学会秋季大会, 2001

- 63)城岡竜一,牛山朋来,陳敬陽,中田隆,山田広幸,久保田尚之,上田博,竹内謙介,米山邦夫,勝俣昌己,
西部熱帯太平洋域長期気候観測計画(PALAU)について,日本気象学会春季大会,2001
- 64)鈴木和良,積雪域における森林での水・エネルギー収支,研究集会「雪氷圏と気候」,2001
- 65)鈴木和良,窪田順平,大畑哲夫,南東シベリア・モゴット試験流域における陸面状態の分布と水・熱循環,
GAME-Siberia 国内ワークショップ,2001
- 66)高槻靖,市川泰子,小林大洋,須賀利雄,水野恵介,竹内謙介,ARGOデータの管理について,日本海洋学
会春季大会,2001
- 67)中田隆,城岡竜一,牛山朋来,陳敬陽,久保田尚之,竹内謙介,中澤哲夫(気象研究所),2機のAerosonde
を用いたグアムの南西海上における対流圏下層の観測,日本気象学会,2001
- 68)中田隆,城岡竜一,牛山朋来,陳敬陽,久保田尚之,竹内謙介,中澤哲夫(気象研究所),2機のAerosonde
を用いたグアムの南西海上における対流圏下層の観測 その2,日本気象学会,2001
- 69)宮崎基,高槻靖,井上亜沙子,安藤健太郎,伊澤堅志,水野恵介,竹内謙介,プロファイリングフロート用
CTDセンサーの精度評価(),日本海洋学会春季大会,2001
- 70)山田広幸,2001年長江下流域における梅雨期集中観測で捉えた降水システムの特徴(速報),気象学会秋
季大会,2001

(9)むつ研究所

Publications

- 1)Harada, N., T. Kondo (MWJ), K. Fukuma (Kumamoto Univ.), M. Uchida, T. Nakamura (Nagoya Univ.), M. Iwai
(Kouchi Univ.), M. Murayama (Kouchi Univ.), T. Sugawara (MWJ), and M. Kusakabe (MWJ), Is amino acid
chronology applicable to the estimation of the geological age of siliceous sediments?, *Earth Planet. Sci. Lett.*,
198,257-266, 2002
- 2)本多牧生,セジメントトラップ実験と炭素14による西部北太平洋における炭素循環の研究,北海道大学学位
論文,北海道大学博士論文,pp.193, 2001

Talks and Presentations

- 3)Ahagon, N., K. Kimoto, N. Harada, M. Uchida and M. Kusakabe, Variation of the northwest Pacific Subarctic
Front during the last 400ky: evidence in the Emperor Seamount area, 7th International Conference on
Paleoceanography (Sapporo), 2001
- 4)Ahagon, N., K. Kimoto, N. Harada, M. Uchida, Geochemical Evidence for Variations of Northwest Pacific
Subarctic Front during the Last 400-KY, Ocean Sciences Meeting 2002 (poster session), 2002
- 5)Hayashi, K., R. Francois, S. Honjo, B. Susan (WHOI), The effect of boundary scavenging and circulation on the
distribution of ^{230}Th and ^{231}Pa in the North west Pacific, AGU Ocean sciences meeting (poster session), 2002
- 6)Kimoto, K., The hydrography of the deepwater in the western north Pacific during the late Quaternary based on
the Cd/Ca of benthic foraminifera, 7th International Conference on Paleoceanography (poster session), 2001
- 7)Kimoto, K., N. Ahagon, N. Harada, M. Uchida, M. Yamane (ORI, Tokyo Univ.), Deepwater circulation changes
in the North western Pacific during the last 300 kyrs: Results from the metal/Ca ratio in benthic foraminifera,
AGU Ocean Science Meeting (Poster session), 2002
- 8)Uchida, M., N. Harada, N. Ahagon, K. Kimoto, Y. Shibata, M. Yoneda, Molecular level radiocarbon ages from
surface sediments in the western North Pacific, Ocean Science Meeting (poster session), 2002

- 9) Uchida, M., Y. Shibata, K. Kawamura, Y. Kumamoto, N. Harada, Compound-specific radiocarbon ages from surface sediments in the southern Okhotsk Sea., Geological Society of America Annual Meeting, 2001
- 10) Uchida, M., Y. Shibata, K. Kawamura, Y. Kumamoto, M. Yoneda, K. Ohkushi, H. Mukai, M. Morita, Application to marine samples of compound-specific radiocarbon analysis using preparative capillary gas chromatography, International workshop on marine pollution by persistent organic pollutants (POPs) (poster session), 2001
- 11) Uchida, M., Y. Shibata, K. Kawamura, M. Yoneda, Y. Kumamoto, M. Morita, Gas chromatographic isolation technique for compound-specific radiocarbon analysis., International conference of environmental change using isotope technique (poster session), 2001
- 12) Uchida, M., Y. Shibata, K. Kawamura, Y. Kumamoto, N. Harada, M. Yoneda, H. Mukai, H. Hoshi, M. Morita, Compound-specific radiocarbon ages from bathyal sediments in the southern Okhotsk Sea., the 7th international conference of paleoceanography (poster session), 2001
- 13) Yamasaki, M. (Tohoku Univ.), M. Oda (Tohoku Univ.), Y. Tanaka (Kumamoto Univ.), X. Xu, Seasonal variation in the flux of planktic foraminifera: Sediment trap results from the Okinawa trough and the Ryukyu trench, 7th International Conference on Paleoceanography (poster session), 2001
- 14) 内田昌男, 柴田康行(国立環境研究所), 河村公隆(北大), 熊本雄一郎, 米田穰, 田中敦, 森田昌敏(国立環境研究所), 分取キャピラリーガスクロマトグラフシステムによる分子レベル放射性炭素分析の海洋試料への応用, 第13回AMSシンポジウムー我が国におけるAMS研究(ポスターセッション), 2001
- 15) 内田昌男, 柴田康行(国立環境研究所), 河村公隆(北大), 熊本雄一郎, 大串健一・米田穰(筑波大学), 原田尚美, 北西部北太平洋表層堆積物中有機分子レベル放射性炭素分析 - アルケノン, 脂肪酸, 炭化水素, 日本地球化学会年会(ポスターセッション), 2001
- 16) 内田昌男, 柴田康行(国立環境研究所), 河村公隆(北大), 熊本雄一郎, 米田穰(国立環境研究所), 大串健一, 原田尚美, 日下部正志, 森田昌敏(国立環境研究所), 堆積物中バイオマーカーの分子レベル放射性炭素年代を用いた古海洋研究, 古海洋学会シンポジウム, 2001
- 17) 加藤綾(MWJ), 原田尚美, 日下部正志(MWJ), 田中裕一郎(産総研), 北西部北太平洋におけるアルケノン合成藻類の季節分布, 海洋学会春期大会, 2002
- 18) 西村征洋(高知大学理学部), 鈴木裕美(高知大学理学部), 野崎里恵(高知大学理学部), 安田尚登(高知大学海洋コア研究センター), 阿波根直一, 木元克典, 平朝彦(東京大海洋研), ODP Leg190コアを用いた室戸沖, 過去30万年間の古環境変遷解析, 古海洋シンポジウム(於: 東京大学海洋研究所), 2002
- 19) 林一宏, Makio Honda, Roger Francois (WHOI), Brown L. Susan (WHOI), Susumu Honjo (WHOI), 北西太平洋におけるTh-230, Pa-231の分布, 日本海洋学会春季大会, 2002
- 20) 原田尚美, 中谷朋子(MWJ), 村田昌彦, 内田昌男, Shin Kyung Hoon, 成田尚史(北大), ココリスブルーム時に合成される生物起源物質の特徴, 日本海洋学会春期大会, 2001
- 21) 原田尚美, 村田昌彦, 内田昌男, Kyung-Hoon Shin, 中谷朋子(MWJ), ココリスブルーム時に合成されるアルケノンの特徴-2000年ベーリング海の観測から -, 古海洋学シンポジウム, 2002
- 22) 福間浩司(熊本大学), 原田尚美, 磁気的性質に記録された周期的続成作用, 古海洋学シンポジウム, 2002
- 23) 本多牧生, 佐光宏明, 林一宏, 伊代道, Susumu Honjo (WHOI), Steven Manganini (WHOI), Craig Taylor (WHOI), Roger Francois, John Kemp (WHOI), Jim Ryder (WHOI), 北太平洋時系列観測研究, 海洋理工学会秋季大会, 2001
- 24) 松橋基(MWJ), 近藤朋美・土田高・菅原敏勝・杉山和弘・宮本元行・日下部正志(MWJ)・曾野和彦・原田尚美・齊藤千鶴, 海底コアサンプルの保管と管理, 第108回日本地質学会, 2001

(10)研究業務部,情報業務部,安全管理室

Publications

- 1) Mikagawa, T., M. Aoki, An outline of R/V "KAIREI" and recent activity of the Multi-channel Seismic Reflection Survey system (MCS) and the ROV "KAIKO"., *J. Mar. Sci. Tech.*, 6,1,42-49, 2001
- 2) Naoi, J., H. Saito, T. Shimura, H. Momma, T. Tsuchiya, Search for Objects on the Deep-Sea Floor Using Side Scan Sonar with a Tilted Arrangement Transducer Array, *Jpn. J. Appl. Phys.*, 40,3777-3781, 2001
- 3) 齋川敏暢, 11,000m級無人探査機「かいこう」の7年の軌跡, *ロボット学会誌*, 19,6, 2001

Talks and Presentations

- 4) Kodera, T., M. Toizumi (NME), R. Ishii (NME), J. Naoi, K. Sono, Geophysical Database System in JAMSTEC, MTS/IEEE OCEANS2001
- 5) Naoi, J., JAMSTEC Data Center -Now and Future-, U.S.-Japan TYKKI Meeting, 2001
- 6) 石井利枝 (NME), 樋泉昌之 (NME), 小寺透 (NME), 直井純, 曾野和彦, 海洋科学技術センターにおけるデータ管理・提供について(続報)~地球物理観測データ~, 海洋調査技術学会, 2001
- 7) 佐藤聡 (日建設計), 平野欣郎, 春日忠造, 生亀雅士, 谷啓二 (原研), 大川慶直 (原研), 藤戸賢治 (日建設計), 村野佳大 (関電工), 桜井仁 (清水建設), 稲葉智唯 (テクネット), 地球シミュレータ施設の電気設備, 第19回電気設備学会全国大会, 2001
- 8) 土田崇 (関電工), 大川慶直 (原研), 生亀雅士, 佐藤聡 (日建設計), 村野佳大 (関電工), 岡村浩樹 (関電工), 立岡英人 (松下電工), 地球シミュレータ施設の電気設備(照明設備), 第19回電気設備学会全国大会, 2001
- 9) 土屋利雄, 安藤敬三 (防大), 布田浩二 (三菱プレシジョン), 菊池年晃 (防大), 齋藤秀亮, 音速プロファイル遷移領域の変動が固有音線の伝搬時間に与える影響, 海洋音響学会研究発表会, 2001
- 10) 渡辺正之, 門馬大和, 深海を探索技術の開発と応用について - H - 2ロケットのエンジン搜索と回収の場合 - , 海洋理工学会秋季大会, 2001

7. ワークショップ・シンポジウム

平成13年度におけるワークショップ・シンポジウム開催実績

名称	内容	出席者数	日時場所
気候変動研究の問題点とその突破口 - 真鍋淑郎博士さよなら講演会 -	気候研究分野における世界の第一人者である真鍋淑郎博士が地球フロンティア研究システムを退任し米国へ帰国するにあたり、研究の総まとめとして研究講演会を開催し、近年行った地球温暖化研究を中心に、気候研究全般についての講演を行った。また、松野太郎システム長との対談形式で、モデルによる気候研究分野のパイオニアとして世界をリードしてきた真鍋博士の研究の歴史等についてエピソードを交えながら紹介した。	381名	平成13年10月26日 東京プリンスホテル
地球フロンティア研究システム大気組成シンポジウム - 観測とモデルの統合化を目指して -	地球大気化学分野における内外の専門家を対象としたシンポジウムで、本分野における観測研究者とモデル研究者とが一堂に会して講演・ポスター発表を始めとする研究交流を行った他、今後の双方の協力体制の可能性について議論した。	延べ140名	平成13年11月19日 ～11月20日 JAMSTEC 横浜研究所
インド洋の大気海洋結合系力学国際シンポジウム	地球フロンティア研究システムと国際太平洋研究センター（IPRC）の共同主催により、近年急速に進展している「インド洋における結合系力学」に関する国際シンポジウムを開催し、ダイポールモード現象が全球気候変動に与える影響等に関する講演など9カ国50名の講演者による発表・討論が行われた。	延べ288名	平成13年12月17日 ～12月18日 東京プリンスホテル
IARC Workshop	地球フロンティア研究システムと地球観測フロンティア研究システムが共同主催。IARC、他のフロンティアの領域、国立極地研究所、JAMSTEC等の北極研究者による最新の成果発表および情報交換が行われ、また相互協力の可能性についての議論が行われた。	65名	平成14年3月18日 JAMSTEC 横浜研究所
地球フロンティア研究システム・地球観測フロンティア研究システム合同研究成果発表シンポジウム2002 「私たちの地球に何が起きているのか？」	地球フロンティア研究システムと地球観測フロンティア研究システムでは、相互の連携のもと、地球変動現象の解明とその予測の実現に向けて研究を進めており、今回のシンポジウムでは平成13年度の研究成果を発表した。両フロンティアの研究活動に対する国民の理解、協力を得、今後の研究を円滑に進めるべく、最先端の研究内容を分かりやすくまとめた発表を揃え、広く一般へ成果を報告した。	延べ505名	平成14年3月19日 ～3月20日 コクヨホール (品川)
第5回みらいシンポジウム (ブルーアースシンポジウム)	海洋地球研究船「みらい」を活用して得られた海洋の熱循環や物質循環等の研究分野における成果を発表し、合わせて討論、議論を行った。	989名	平成13年 12月20・21日 経団連会館
第18回しんかいシンポジウム (ブルーアースシンポジウム)	潜水調査船「しんかい6500」等を活用して得られた海洋地質等の深海域の研究分野における成果を発表し、合わせて討論、議論を行った。		

(注) 出席者数は講演者人数を含む。

8. 特許・実用新案

(1) 登録(日本)

1) FRP線条体の接続方法

登録番号 3231064
出願日 1991.12.3
登録日 2001.9.14
権利保有者 海洋科学技術センター
株式会社フジクラ

特許請求の範囲

【請求項1】含浸してある樹脂が未硬化状態にある2本のFRP線条体を接続するに際して、前記FRP線条体のそれぞれの端部において繊維体を露出させ、露出した前記繊維体を複数の束に等分し、それら繊維体の束を長さ方向のほぼ中央まで撚り合わせてロープ状とし、そのロープ状にした部分から先の繊維体束の部分を、それぞれ相手方の前記ロープ状にした部分の撚りの中にくぐらせるようにして編み込むことによって、前記繊維体同士を接続し、その後、その接続部を非接続部と同時に加熱して前記繊維体に含浸されている未硬化樹脂を硬化させる、FRP線条体の接続方法。

【請求項2】露出した繊維体を複数の束に等分した後、それら各繊維体束の一部の繊維を長さ方向のほぼ中央で切除するようにした、請求項1記載のFRP線条体の接続方法。

2)有機溶媒耐性微生物の分離方法

登録番号 3203272
出願日 1992.10.15
登録日 2001.6.22
権利保有者 海洋科学技術センター
北海道糖業株式会社

特許請求の範囲

【請求項1】試料を水及び有機溶媒と混合し、振盪培養を行った後、培養混合物を静置し、水相と有機溶媒相に分離し、有機溶媒相の適量を培地に加えて培養し、生育する微生物を単離することを特徴とする有機溶媒耐性微生物の分離方法。

【請求項2】振盪培養を4～30℃で1～7日間行うことを特徴とする請求項1記載の方法。

【請求項3】培地が寒天培地であることを特徴とする請求項1又は2記載の方法。

【請求項4】水と有機溶媒の容積比が1:9～9:1であることを特徴とする請求項1～3項のいずれか1記載の方法。

【請求項5】有機溶媒相の培養を20～40℃で1～10日間行うことを特徴とする請求項1～4項のいずれか1記載の方法。

【請求項6】水が脱イオン水、蒸留水、海水又は人工海水であることを特徴とする請求項1～5項のいずれか1記載の方法。

【請求項7】有機溶媒が炭化水素であることを特徴とする請求項1～6項のいずれか1記載の方法。

【請求項8】炭化水素が芳香族炭化水素であることを特徴とする請求項1～7項のいずれか1記載の方法。

3)海洋生物生産用の海洋深層水、及び表層水の水温制御システム

登録番号 3282152
出願日 1993.10.1
登録日 2002.3.1
権利保有者 海洋科学技術センター
清水建設株式会社

特許請求の範囲

【請求項1】分流型三方弁を介して給水される海洋深層水、及び該深層水の水温よりも高温の表層水を送水される熱交換器と、熱交換器出口側の表層水の水温を検出する温度検出手段からの検出値に基づいて上記三方弁の弁開度を制御し、熱交換器への深層水の送水流量を制御する温度調節手段と、熱交換器から予熱された深層水を送水される凝縮器、及び表層水の一部を分岐して送水される蒸発器を備えるヒートポンプと、上記凝縮器出口側の深層水の水温を検出する温度検出手段からの検出信号に基づいて上記ヒートポンプを起動制御する起動手段とを備えることを特徴とする海洋生物生産用の海洋深層水、及び表層水の水温制御システム。

【請求項2】上記熱交換器と上記ヒートポンプの蒸発器とから排出される冷却された表層水を、海洋生物生産用の海洋水として用いることを特徴とする「請求項1」記載の海洋生物生産用の海洋深層水、及び表層水の水温制御システム。

4)音線計算装置

登録番号 3202926
 出願日 1996.8.20
 登録日 2001.6.22
 権利保有者 海洋科学技術センター
 沖電気工業株式会社

特許請求の範囲

【請求項1】水平方向と鉛直方向とに音速分布が変化する水中の或る位置に或る方向から入射した音波の音速値と該音速値の水平及び鉛直方向の音速微係数とを用いて該音波が該入射した位置から水平方向に或る距離だけ進行したときの該音波の伝搬経路である音線経路における伝搬時間、到達深度、及び通過する方位を計算する音線計算装置において、与えられたデータ位置を第1の位置とし、該第1の位置での音速鉛直分布と予め与えられた該第1の位置での鉛直方向の音速分布の平均値である平均音速鉛直分布との差である音速変動分を求め、更に該音速変動分を次の処理(i)~(iv)に示す互いに直交する経験的直交関数群と該経験的直交関数群の重み係数である展開係数群とで表す経験的直交関数展開処理装置と、

(i)一群の音速鉛直分布を、次式(1)に示すように、音速鉛直分布と平均音速鉛直分布との差で表す。

$$dc(z_j, x_i) = c(z_j, x_i) - c_0(z_j) \dots (1)$$

但し、

dc; 音速変動分

c; 音速鉛直分布

c₀; 平均音速鉛直分布

i; 第1の位置の番号

j; 深度番号

x_i; i番目の水平距離

z_j; j番目の深度

(ii)音速変動分のデータを次式(2)のようにベクトル形式で表し、一群の変動量ベクトルを並べて行列を形成する。

【数1】

$$v\{dC\} = \begin{pmatrix} v\{dc(z_1, x_1)\} & v\{dc(z_1, x_2)\} & \dots & v\{dc(z_1, x_I)\} \\ v\{dc(z_2, x_1)\} & \dots & \dots & \dots \\ \dots & \dots & \dots & \dots \\ v\{dc(z_J, x_1)\} & \dots & \dots & v\{dc(z_J, x_I)\} \end{pmatrix} \dots (2)$$

但し、

v{dC}; 音速変動分行列ベクトル

v{dc(z_i, x_j)}; 変動量ベクトル

I; 水平方向のデータ数

J; 深度方向のデータ数

(iii)音速変動分行列ベクトルv{dC}を次式(3)のように特異値分解する。

$$v\{dC\} = U V^T \dots (3)$$

但し、

U, V; ユニタリ行列

; 対角要素にv{dC}の特異値が並ぶ対角行列

T; 行列の転置

(iv)特異値分解によって得られたユニタリ行列Uの列ベクトルが前記経験的直交関数であり、このベクトルと音速変動分ベクトルv{dC}との内積をとったものが展開係数である。

$$v\{U\} = [v\{f_1\} v\{f_2\} \dots v\{f_k\}]$$

$$v\{f_k\} = [v\{U_{k1}\} v\{U_{k2}\} \dots v\{U_{kI}\}]^T$$

$$a_k = v\{f_k^T\} \times v\{dC\}$$

$$k = 1, 2, \dots, J$$

但し、

k; 経験的直交関数の次数

f_k; k次の経験的直交関数

a_k; k次の展開係数

前記第1の位置での平均音速鉛直分布及び経験的直交関数群に関して、該平均音速鉛直分布の微係数が連続となる補間方法を用いて鉛直方向の補間係数をそれぞれ求める鉛直補間係数作成処理装置と、前記第1の位置での展開係数群に関して、該展開係数群の微係数が連続となる補間方法を用いて水平方向の補間係数をそれぞれ求める水平補間係数作成処

理装置と、前記第1の位置を基準として鉛直方向の一定深度刻みのデータ位置を第2の位置とし、前記第1の位置での鉛直補間係数の値から該第2の位置毎に平均音速鉛直分布、該平均音速鉛直分布の微係数、経験的直交関数群、及び該経験的直交関数群の微係数を求める鉛直テーブル作成処理装置と、水平方向の一定距離刻みのデータ位置を第3の位置とし、前記第1の位置での水平補間係数の値から、該第3の位置毎に展開係数群及び該展開係数群の微係数を求める水平テーブル作成処理装置と、前記第2の位置での平均音速鉛直分布と該平均音速鉛直分布の微係数、該第2の位置での経験的直交関数群と該経験的直交関数群の微係数、及び前記第3の位置での展開係数群と該展開係数群の微係数を用いて直線補間及び積和算により前記音線経路上の任意の位置における音速値と水平及び鉛直方向の音速分布の微係数とを求める音速及び音速微係数計算処理装置と、前記音波が到達した位置における音速の実測値と該実測値の水平及び鉛直方向の音速分布の微係数値とを用いて該音波が入射した位置から水平方向に或る距離だけ進行したときの伝搬時間、到達深度、及び通過する方位を求める1ステップ計算処理装置とを、備えたことを特徴とする音線計算装置。

(2)登録(米国)

1)Respiratory gas consumption monitoring device and monitoring method

登録番号 6,258,039

出願日 1999.1.14

登録日 2001.7.10

権利保有者 海洋科学技術センター
日本酸素株式会社

特許請求の概要

The present invention relates to a respiratory gas consumption monitoring method and monitoring device that is portable and has high measurement accuracy, for enabling the analysis and prediction of the respiratory behavior of subjects employing a variety of different types of breathing apparatuses in water, etc. Respiratory gas consumption monitoring device (20), for monitoring

the respiratory gas consumption of the user of a breathing apparatus (1) in which a respiratory gas (G) inside a high pressure gas container (2) is reduced in pressure at pressure regulator (4) and supplied to a breathing mask (10), is provided with:

a primary pressure sensor (21) for detecting the pressure prior to pressure reduction at pressure regulator (4);

a temperature sensor (22) for correction;

an environmental pressure sensor (23) for detecting the environmental pressure;

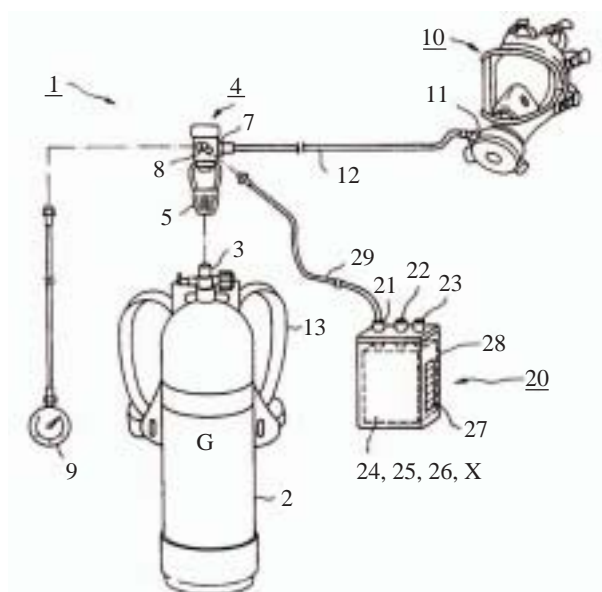
an amplifier (24) for amplifying the signals from the aforementioned sensors;

an A/D converter (25) for performing analog/digital conversion of the amplified signal;

a data logger (26) for recording and storing the analog/digital converted signals; and

a display (27) for display.

In addition, as needed, a computer (X) for calculating, analyzing, and predicting data may be housed in housing (28), and connected to breathing apparatus (1) by connecting primary pressure sensor (21) to a high pressure opening (8) of pressure regulator (4) using a high pressure hose (29).



2)Method for detecting microorganisms by fluorescent staining using hydrostatic pressure

登録番号 6,358,700

出願日 1998.11.12

登録日 2002.3.19

権利保有者 海洋科学技術センター

特許請求の概要

A method for detecting microorganisms present in a sample comprises the steps of: applying a non-lethal hydrostatic pressure to a sample containing microorganisms; and staining the microorganisms with a fluores-

cent dye. The method permits a significant increase in the uptake of a fluorescent substance by applying, to a sample, a desired non-lethal hydrostatic pressure, without causing any reduction of the survival rate of microorganisms. The method also permits the elimination of such a secondary effect that the subject microorganism undergoes proliferation during staining the same with a fluorescent dye. Thus, the present invention would contribute to the determination of the correct viable count in a wide variety of technical fields.

9. センター刊行物一覧

(1) 逐次刊行物

	発行年月日	判	ページ数
1) Blue Earth 第13巻第3号(通巻53号)	2001.06	A4	48
2) Evaluation Report of the Frontier Research System for Global Change	2001.07	A4	45
3) 地球フロンティア研究システム 中間評価報告書(翻訳版)	2001.07	A4	52
4) 地球フロンティア研究システム 中間評価報告書 概要(翻訳版)	2001.07	A4	13
5) Blue Earth 第13巻第4号(通巻54号)	2001.07	A4	48
6) Blue Earth 第13巻第5号(通巻55号)	2001.09	A4	48
7) Blue Earth 第13巻第6号(通巻56号)	2001.11	A4	49
8) JAMSTEC 深海研究第19号	2001.11	A4	164
9) 海洋科学技術センター試験研究報告 第44号	2001.11	A4	196
10) 第18回しんかいシンポジウム予稿集	2001.12	A4	196
11) 第5回みらいシンポジウム予稿集	2001.12	A4	158
12) JAMSTEC 2000 Annual Report	2001.12	A4	206
13) 海洋科学技術センター年報(平成12事業年度)	2001.12	A4	165
14) 海洋科学技術センター年報(平成12事業年度)資料編	2001.12	A4	89
15) Blue Earth 第14巻第1号(通巻57号)	2002.01	A4	49
16) 平成13年度海洋科学技術センター研究報告会JAMSTEC 2002 氷海に挑む-地球温暖化と極域観測	2002.02	A4	58
17) 海洋科学技術センター試験研究報告 第45号	2002.03	A4	82
18) JAMSTEC 深海研究第20号	2002.03	A4	129
19) Blue Earth 第14巻第2号(通巻58号)	2002.03	A4	49
20) OTC2001調査報告書	2002.03	A4	85
21) OMAE2001調査報告書	2002.03	A4	75

(2) 委託研究報告書

1) 地球科学技術ハンドブック2001年	2001	B5	380
2) 新たな深海調査研究の展望についての調査検討報告書	2001	A4	89

(3) 受託研究報告書

なし

(4) その他

- 1) 世界初の工業用微生物(B.halodurans)ゲノムの全塩基配列決定と遺伝子解析(1998-2000)
- 2) ISOPE 2000調査報告書
- 3) 浅海飽和潜水シンポジウム 論文集
- 4) TOCS Data Report 2:1995-2000
- 5) 海洋科学技術センター 創立三十周年記念誌

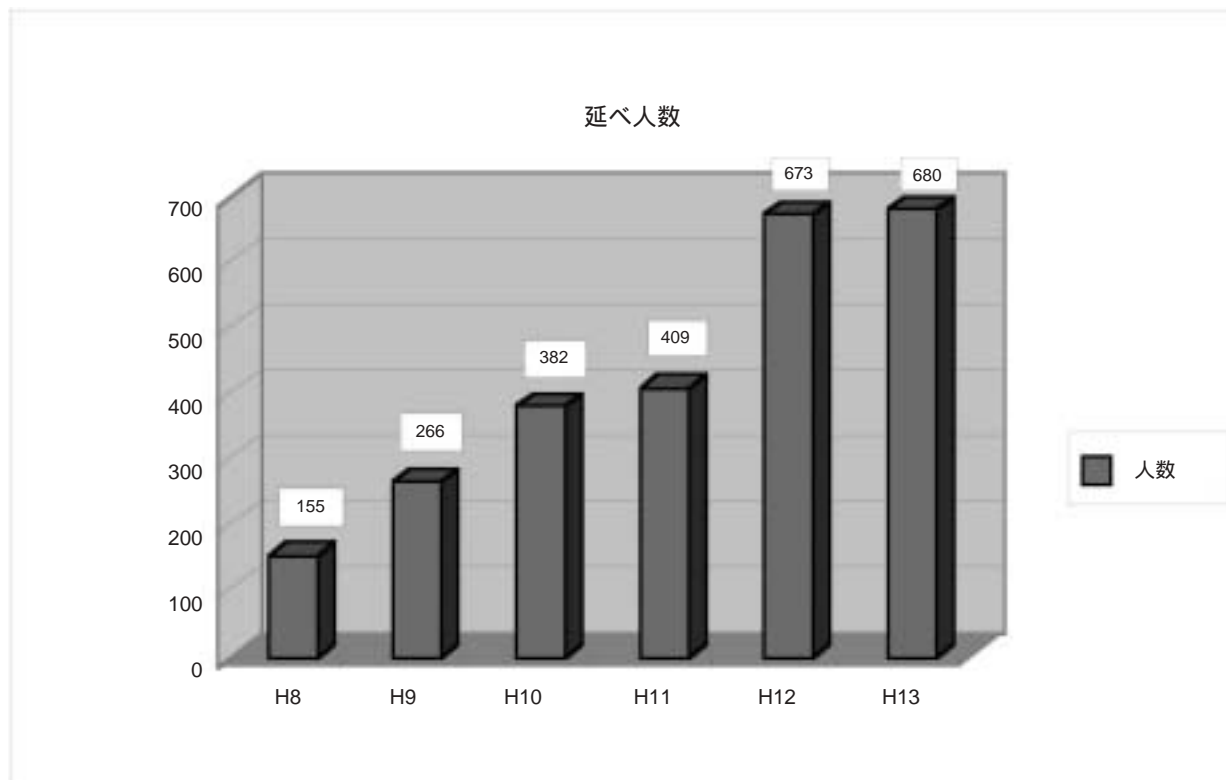
- 6)海から地球と生命へ 創立30周年記念誌
- 7)Toward Life and the Whole Earth-Ocean Science's New Direction:The 30th Anniversary Commemorative issue
- 8)Symposium on the Ocean-Atmosphere Coupled Dynamics in the Indian Ocean
- 9)BLUE EARTH Special No.1 2000-2001 深海研究
- 10)BLUE EARTH Special No.2 2000-2002 海洋観測研究
- 11)海に魅せられて半世紀
- 12)R/V Mirai Cruise Report MR00-K08 April 2000
- 13)R/V Mirai MR01-K01 (Leg1-2) Cruise Report :14 February-23 March,2001
- 14)R/V Mirai MR01-K02 Cruise Report :14 May-28 May,2001
- 15)R/V Mirai MR01-K03 Cruise Report :June-July,2001
- 16)R/V Mirai MR01-K04 (Leg2) Cruise Report :28 August-15 September,2001
- 17)R/V Mirai MR01-K05 (Leg1-2) Cruise Report :20 September-5 November,2001
- 18)R/V Mirai MR01-K05 (Leg3-4) Cruise Report :7 November-19 December,2001
- 19)Blue Earth VOLUME13 NUMBER3,2001
- 20)Blue Earth VOLUME13 NUMBER4,2001
- 21)Blue Earth VOLUME13 NUMBER5,2001
- 22)Blue Earth VOLUME13 NUMBER6,2001

センター刊行物

刊行物名	内 容	平成13年度発行
海洋科学技術センター試験研究報告	研究成果を収録した学術論文誌	第44,45号
JAMSTEC深海研究	深海調査研究成果を収録した学術論文誌	第19,20号
Blue Earth	海洋・地球科学の啓蒙誌	第53,54,55,56,57,58号
海洋科学技術センター年報	事業報告	平成12事業年度
JAMSTEC 2000 Annual Report	事業報告(英文年報)	2000年版

10. 外国出張等

(1) 外国出張延べ人数の推移(平成8年度～平成13年度)



(2) 財 日本財団補助事業による出張

期間	用務先	所属・氏名	用務
H13.4.29-5.9	ヒューストン、 フロリダ(アメリカ)、 バンクーバー(カナダ)	海洋技術研究部 野口 雅史	OTC2001に出席し、最新の海洋開発及び海底資源掘削に関する技術の動向を調査する。またフロリダ州Perry社及びカナダのバンクーバISEを訪問しROVIに関する意見交換を行う。
H13.4.29-5.9	ヒューストン、 フロリダ(アメリカ)、 バンクーバー(カナダ)	深海地球ドリリング 計画推進室 矢野 裕亮	OTC2001に出席し、最新の海洋開発及び海底資源掘削に関する技術の動向を調査する。またフロリダ州Perry社及びカナダのバンクーバISEを訪問しROVIに関する意見交換を行う。
H13.5.28-6.9	ヒューストン(アメリカ)、 リオデジャネイロ (ブラジル)	深海地球ドリリング 計画推進室 許 正憲	ヒューストンで開催されるODPのTEDCOMに委員として出席し、OD21掘削船の開発現況について報告する。またMHIヒューストン事務所を訪問し、OD21掘削機器関連の打ち合わせをする。その後、リオデジャネイロで開催されるOMAE2001に参加し、海洋開発関連の最新技術動向について調査する。
H13.6.2-6.9	リオデジャネイロ (ブラジル)	海洋技術研究部 百留 忠洋	リオデジャネイロで開催されるOMAE2001に参加し、海洋開発関連の最新技術動向について調査を行う。

(3) 在外研究員・海外派遣職員

期間 (予定)	所属・氏名	派遣先機関	研究内容	区分
H12.5.25- H13.6.23	深海研究部 高橋 成実	コロンビア大学 ラumont・ドハティ地球観 測研究所(アメリカ)	マルチチャンネル反射法探査データの先端的 解析方法の習得。	在外研究員
H13.2.20- H14.2.20	海洋技術研究部 越智 寛	ニューキャッスル大学 (イギリス)	水中音響通信及び音波伝播に関する研究。	在外研究員
H13.3.31- H14.3.31	海洋観測研究部 石田 明生	ハワイ大学 (アメリカ)	太平洋・インド洋における数年から10年規模 の海洋変動のメカニズムを、海洋大循環モデ ルによる数値実験、海洋観測データにより解析。	在外研究員
H13.4.1- H14.4.1	深海研究部 平田 賢治	米国地質調査所 (アメリカ)	津波シミュレーション手法の習得。	在外研究員
H13.4.1- H14.4.14	深海研究部 富士原 敏也	ウッズホール海洋研究所 (アメリカ)	大西洋中央海嶺下における海洋地殻形成に関 する研究。	在外研究員
H14.1.19- H15.1.19	極限環境生物フロンティア (出向職員) 高見 英人	スクリプス海洋研究所 (アメリカ)	技術の習得と学会、シンポジウムへの積極的 な参加を通じたバイオインフォマティクスに 関する情報収集。	海外派遣 職員
H14.3.30- H15.3.30	海洋観測研究部 畑山 隆紀	フロリダ州立大学 海洋大気予報研究センター (アメリカ)	海洋観測データと数値モデルを4次元的に統 合するモデルの開発及びそれに必要な観測デ ータ処理のための基礎を習得。	在外研究員

(4) 海外の研究者・技術者の当センターへの招聘

期間	所属・氏名	用務
H13.6.20-7.31	スタンフォード大学 John Townend	スタンフォード大学で開発された「応力インバージョン」という手法 を日本周辺の海溝地震活動データに適用するための知識やノウハウ の伝授。
H13.7.9-7.14	アラスカ大学 Daqing Yang	セミナー、環北極水循環研究に関する討論により、アラスカ大学にお ける水循環研究成果の情報を得、地球観測フロンティアにおける研究 活動の方向性を検討。
H13.10.29-10.30	米国国立科学財団 Philip R. Taylor	極限環境フロンティア評価委員会出席。
H13.10.29-10.30	ケント大学 Alan Bull	極限環境フロンティア評価委員会出席。
H14.1.25-1.31	ハーバード大学 Adam Dziewonski	地球内部構造論に関する研究打ち合わせおよびセミナー。
H14.2.17-2.23	インドネシア技術評価応用庁 Agus Kristijono	気象観測研究に関する打合せ。
H14.2.17-2.23	チュラロンコン大学 Somchai Nakapadungrat	気象観測研究に関する打合せ。

期間	所属・氏名	用務
H14.2.18-2.20	キール大学海洋地球科学研究所 Emanuel Soeding	第3回古生物サブ・グループ会議に出席。
H14.2.19-3.22	ハーバード大学 田島 文子	地震波波形の研究に関する解析。
H14.2.24-3.23	インドネシア技術評価応用庁 Andri Purwandani	インドネシア経済水域内にてインドネシア技術評価応用庁と共同で行った熱帯赤道観測の観測データの解析。
H14.2.24-3.23	インドネシア技術評価応用庁 Agus Saleh Atmadipoera	インドネシア経済水域内にてインドネシア技術評価応用庁と共同で行った熱帯赤道観測の観測データの解析。
H14.3.4-3.6	インドネシア技術評価応用庁 Ridwan Djamaluddin	インドネシア技術評価応用庁との協議における、今後の協力の在り方、特に海洋観測研究、深海研究等についての意見交換。
H14.3.4-3.6	インドネシア技術評価応用庁 Awal Subandar	インドネシア技術評価応用庁との協議における、今後の協力の在り方、特に海洋観測研究、深海研究等についての意見交換。
H14.3.7-3.9	韓国海洋研究所 Hyeon-Ju Kim	中間成果発表会における講演。
H14.3.13-3.15	サウザンプトン海洋研究所 Edward Cooper	INMARTECH2002の準備会議。
H14.3.13-3.15	オランダ国立海洋研究所 Marieke Rietveld	INMARTECH2002の準備会議。
H14.3.13-3.15	ウッズホール海洋研究所 Barrie Walden	INMARTECH2002の準備会議。

(5) 海外の研究者、技術者の当センターへの受入

日本学術振興会外国人特別研究員制度等*による受入

受入期間	氏名	受入研究部	研究内容
H11.5.6-H13.5.3	イギリス Mitra Sohirad NATALE	極限環境生物フロンティア	物理刺激によって制御された遺伝学的改変細胞組織に関する研究。
H12.11.15-H14.11.14	ドイツ Susanne ZIELINSKI	海洋生態・環境研究部	深海化学合成生態系に生息する生物の代謝特性の解明研究。
H14.02.07-H14.02.28	ニュージーランド Lutz GROSZ	固体地球統合フロンティア	プレート挙動の数値シミュレーションのための有限要素法開発。
H14.03.28-H14.06.30	中国 Guang ZHOU	地球フロンティア	3次元海洋データ同化スキームの研究。

*平成12年度までは、科学技術庁フェローシップ制度として実施。

韓国人若手研究者短期研修(WINTER INSTITUTE)による受入

受入期間	氏名	受入研究部	研究内容
H14.1.15-H14.2.21	大韓民国 Sang-Oun JUNG	極限環境生物フロンティア	深海高圧環境における微生物学的多様性の研究。
H14.1.15-H14.2.21	大韓民国 Ming-Soeng KIM	海洋技術研究部	小型AUV (MR-X1) の製作と性能実験。

11. 施設・設備等の整備状況

(1) 主要機器の整備状況

平成13年度において整備した主要な機器は表1のとおりである。

(2) 共用施設・設備の利用状況

当センターでは、海洋科学技術に関する各種の研究発表を行うのに必要な種々の大型実験研究施設・設備を有しており、これを各研究部で使用する他、国・企業及び学会等外部の研究機関で海洋科学技術に関する研究開発を行う者の利用にも提供している(表2、表3)。

平成13年度の施設・設備の利用実績は表4のとおりである。

表1 平成13年度に整備した主要機器類

機器の名称	取得年月	使用目的	性能・仕様
電界放射型走査電子顕微鏡 JSM-6700F	H14.3.29	調査で得られた試料表面の超微細(サブミクロンオーダー)構造観察及び組成分析に使用する。	<ul style="list-style-type: none">・分解能：1.0nm (15kV) 2.2nm (1kV)・倍率：×25～650,000・加速電圧：0.5kV～30kV・電子銃：冷陰極電界放射型電子銃・ホウ素～ウランの組成分析

表2 共用施設・設備一覧表

施設名	構成装置	仕様	使用目的
潜水訓練プール	潜水訓練用プール 潜水訓練用オーブンタンク	プール：ほぼ正方形 一辺の長さ21m 深さ3m (一部1.5m) オーブンタンク：直径3m 深さ3m	潜水技術者の養成訓練、 潜水機器の開発、性能検査
波動水槽	水槽本体・造波装置・計測台車・ 消波装置・クレーン	長さ40m 幅4m 深さ2.3m 最大波高0.2m 波長0.5～10.0m 計測台車0.2～2.0m/S 速度変動率 ±3% F.S.以内	海洋構造物、船舶消波装置、 オイルフェンス等の試験
超音波水槽	水槽本体・送受波器位置検出制御装置・ 超音波送受波器自動校正装置・無響装 置・クレーン	長さ9m 幅9m 深さ9m、1.5m 測定モード：パルス及び連続周波数 範囲：5KHz～500Hz 周波数レスポンス±1dB パルス波：10 μs以上	水中との送受波器の感度と 指向性の確認
潜水シミュレータ	耐圧チェンバ・ガス系統・環境コント ロール系統・中央制御盤	ウェットチェンバー：内径3.6m 高さ6.2m ドライチェンバー：内径2.3m 長さ6.3m サブチェンバー：内径2.5m	混合ガス短時間潜水訓練、 高圧環境下の医学的研究等
高圧実験水槽	水槽本体・加圧装置・モニタ装置・計 測装置・作業装置	有効寸法：内径1.4m 長さ：3m 最大加圧：静圧加圧1,560kg/cm ² 加圧媒体：真水	深海用機器、材料等の開発研 究実験
中型高圧実験水槽	水槽本体・加圧装置・モニタ装置・計 測装置・作業装置	有効寸法：内径0.6m 長さ：1.6m 最大加圧：静圧加圧1,580kg/cm ² 加圧媒体：真水	深海用機器、材料等の開発研 究実験
小型高圧実験水槽	水槽本体・加圧装置・モニタ装置・計 測装置・作業装置	有効寸法：内径0.45m 長さ：0.7m 最大加圧：静圧加圧400kg/cm ² 加圧媒体：真水	深海用機器、材料等の開発研 究実験
救急再圧訓練装置		長さ4.3m 幅1.8m 高さ1.9m 最大定員：2名	潜水技術者の養成訓練、 高気圧障害発生時救急再圧等
講義室		収容人数：15～30名程度	海洋科学技術に関する講義等 を行う

表3 施設・設備使用料1日当りの基準(平成13年度)

(単位:円)

施設・設備名	使用料A	使用料B	備 考
潜水訓練プール施設	15,900	1,500	燃料費は使用者が別途に業者と契約
講義室	1,000	100	
救急再圧訓練装置	11,200	1,000	
大型高圧環境模擬実験装置	479,500	43,600	(潜水シミュレータ)
波動水槽	56,400	5,100	
超音波水槽	99,900	9,100	
高圧実験水槽	469,100	42,700	
中型高圧実験水槽	34,000	3,100	
小型高圧実験水槽	15,600	1,400	
可搬型発電機	3,300	300	
走査型電子顕微鏡	53,900	4,900	
透過型電子顕微鏡	37,500	3,400	
X線マイクロアナライザー	118,500	10,800	
観測ウインチ	15,500	1,400	
岸壁	300	30	1m単位使用料

使用料A：一般的な使用の場合の使用料

使用料B：センターの設置目的の達成に貢献することが認められた場合の使用料（免除は除く）

注）使用料は消費税5%を含む額である。

表4 平成13年度施設の使用実績

施設名	外 部 使 用			内 部 使 用	
	件数	日数	金額(円)	件数	日数
潜水訓練プール	3	4	60,420	34	162
救急再圧訓練装置	1	1	21,133	29	150
潜水シミュレータ	0	0	0	3	23
波動水槽	1	8	369,990	8	148
超音波水槽	5	10	688,968	10	13
高圧実験水槽	3	4	1,674,779	7	7
中型高圧実験水槽	8	10	571,285	32	43
小型高圧実験水槽	12	12	293,931	12	12
ディープ・トウ	1	26	4,310,424	0	0
観測ウインチ	1	26	806,000	0	0
岸壁	0	0	0	66	254
合 計	35	101	8,796,930	201	812

12. 安全対策に係る委員会等 (安全管理室)

センターにおける安全対策に関し、研究安全委員会、労働安全衛生委員会、組換えDNA実験安全委員会、化学物質環境安全委員会、放射線安全委員会、潜水実験安全性検討委員会を統括し安全対策を達成するために、センターに安全会議が設置されています。

安全会議では、安全に関する各委員会における安全対策の報告及び計画に関する事項、重大な事故・トラブルに関する研究安全委員会における検討結果の報告に関する事項、その他会議において必要と認められた事項について審議検討を行います。

平成13事業年度における安全会議及び研究安全委員会の実施状況は以下の通りです。

(1)安全会議の実施状況

- 1)第5回安全会議 平成14年2月26日
安全に関する委員会の平成13年度報告及び平成14年度活動計画について等全10件

(2)研究安全委員会の実施状況

- 1)第4回研究安全委員会 平成13年4月6日
海域の安全性評価等全7件
- 2)臨時第1回研究安全委員会 平成13年4月16日
第4回研究安全委員会の懸案事項「主席研究者が職員でない場合の乗船中の責務について」
- 3)第5回研究安全委員会 平成13年5月9日
深海巡航探査機「うらしま」の試験の安全性について(海域試験、陸上試験の安全性、海域の安全性評価を含む。)等全4件
- 4)第6回研究安全委員会 平成13年5月28日
平成13年度 中層ADCPパイ回収作業実施要領書(案)〔西部熱帯太平洋域、米国大気海洋庁カイモアナ号〕等全9件

- 5)第7回研究安全委員会 平成13年6月27日
平成13年度「多年氷海域国際共同観測研究(ポーフート海)実施要領(案)〔海域の安全性を含む。〕等全15件
- 6)第8回研究安全委員会 平成13年7月18日
「福島県～茨城県沖の海底電磁気調査研究」OBEMによる調査実施要領書(案)等全8件
- 7)第9回研究安全委員会 平成13年8月8日 「みらい」MR01-K05航海海賊対策および海域の安全性評価(実施要領書を含む)等全10件
- 8)第10回研究安全委員会 平成13年9月5日
「基礎生産力観測研究(KY01-09)における洋上プラットフォーム観測設置作業の安全性について(海域の安全性含む)等全7件
- 9)第11回研究安全委員会 平成13年9月27日
海域の安全性評価等全7件
- 10)第12回研究安全委員会 平成13年10月25日
「海洋音響トモグラフィー回収に伴う機器トラブル」について等全11件
- 11)第13回研究安全委員会 平成13年11月20日
福島沖「海底電磁気計の耐圧容器浸水原因の報告」について等全7件
- 12)第14回研究安全委員会 平成13年12月
報告事項(5件:海域の安全性)持ち回りにて決済
- 13)第1回研究安全委員会 平成14年1月21日
平成13年度「中海調査」実施に係わる安全対策について(案) 及び平成13年度「上甕島湖沼群調査」実施状況報告等全3件
- 14)第2回研究安全委員会 平成14年2月18日
海洋音響トモグラフィーシステムトラブル対策ワーキンググループの研究安全委員会への中間報告等全10件
- 15)臨時第1回研究安全委員会 平成14年3月4日
海域の安全性評価全1件
- 16)第3回研究安全委員会 平成14年3月25日
海域の安全性評価等全6件

13. 来訪者

表 1 横須賀本部

平成13年度見学者実績		
	見学者	人数
4月	横浜栄楽クラブ	13
	十二日会	16
	東海大学海洋学部地球環境工学科4年生	106
	3件	135
5月	海上自衛隊潜水医学実験隊	15
	住友将友会	34
	湘南病院デイケア	29
	横浜税関横須賀税関支署	3
	4件	81
6月	(社)静岡県高圧ガス保安協会	25
	横須賀市立工業高等学校都市工学科1年生	41
	(社)日本技術士会金属部会	33
	浜寺防火管理者研究会	9
	(社)近畿化学協会(キンカ東京サロンメンバー)	12
	横浜西かもめの会	26
	理化学研究所横浜研究所	6
	東京大学工学部システム創成学科3年生	56
	東京工業高等専門学校国際交流実行委員会	10
	東京女学館小学校5年生	84
	横須賀市役所他	4
	東京商船大学商船システム工学課程3年生	46
	横浜市立犬山小学校5年生	41
	横須賀市会議員渡辺かずとし後援会	39
	(社)日本原子力産業会議	12
	15件	444
7月	横須賀市立夏島小学校3年生	10
	かながわエコライフ活動グループ	12
	ポリプラスチック株式会社安全協力会	34
	世田谷防火管理協議会	47
	横浜技術士懇話会	21
	朝日カルチャーセンターやさしい科学の教室	96
		6件
8月	横浜市立富岡東中学校3年生	7
	海上保安庁水路部初任研修生	11
	三井石油開発株式会社	4
	横須賀市立追浜中学校2年生他	6
	横浜市立学校教職員互助会	37
	放射線医学総合研究所	2
	淡路地区漁協青壮年部連合会	21
	東京大学海洋研究所他	9
	夏休み!JAMSTEC 見学会	4
	三菱みなとみらい技術館親子教室	48
	東京バイオテクノロジー専門学校来年度入学予定者	23
	11件	172
9月	韓国海洋研究所(KORDI)	3
	立正大学地球環境科学部環境システム学科2年生	23
	横浜市立六角橋中学校特殊学級	11
	(社)渋谷法人会	86
	神奈川県化粧品工業協会・神奈川県製薬業協会	31
	東京経済大学経営学部新正ゼミ	7
	神奈川県工業教育研究会電気部会	24

	見学者	人数
	多摩災害防止協会 東京都立大島南高等学校1年生 東京大学国際・産学共同研究センター (社)日本原子力産業会議先端技術ワークショップ 横浜国立大学工学部建設学科 相模原工業事業場防犯協会 長野県更埴市議会議員(三政会)	32 17 7 18 27 23 4
	14件	313
10月	細山郷土資料館 鎌倉なぎさ会 海上自衛隊第1術科学校気象海洋科 逗子市明るい選挙推進協議会 日本水産学会 東京大学生産技術研究所2部会 横浜中火災予防協会 英国王立防衛大学 海上自衛隊幹部学校留学生 国立清水海上技術短期大学校専修科 QCサークル事業所見学交流会 海中ロボット研究3大学ワークショップ 日本金属学会関東支部 横須賀税関支署 国際科学技術ジャーナリスト会議 横須賀糧友会 横須賀市立大矢部小学校5年生 横須賀市消費生活センター 世田谷上馬東町会 早稲田大学エクステンションセンター	28 26 12 17 7 23 42 16 7 83 58 4 26 4 20 10 102 21 45 20
	20件	571
11月	横須賀市立鴨居小学校5年生 超深度コアードリリング技術研究会 西中原中学PTA社会見学会 横須賀偕行会 横須賀市北消防署韓国研修生 鎌倉市立鎌倉第2小学校5年生 鶴岡工業高等専門学校制御情報工学科4年生 相模湾生物ネットワーク 北海道小樽水産高等学校海洋漁業科 新世紀三田会 はすの実会 横須賀逸見公民館 防災科学技術研究所・国際地震観測室 青葉安全運転管理者会 鎌倉市立七里ガ浜小学校5年生	74 30 33 21 4 64 38 8 14 37 47 28 7 23 44
	15件	472
12月	関東・東海地区水産高等学校長会 鎌倉ユネスコ協会JICA招聘事業 藤沢市立小糸小学校5年生 伊東市立川奈小学校5年生 UJNR海底調査専門部会メンバー 長野県木曽郡教頭会 世田谷区立三浦健康学園 (社)海洋産業研究会 日本SF大会実行委員 江ノ島探検クラブ	8 24 70 23 14 29 16 23 6 23
	10件	236

	見学者	人数
1月	玉川学園高等部	33
	神奈川県工業教育研究会 機械部会 生産技術分科会	8
	新明学園 旭丘高等学校	3
	防衛大学校応用科学群地球海洋学科	16
	東京電機大学理工学部生命工学科1, 2年生	70
	(財)東京都中小企業振興公社	6
	(社)日本セカンドライフ協会	14
	海上自衛隊 艦船補給処武器部	22
	8件	172
2月	消費生活推進委員会釜利谷地区	32
	(社)かながわデザイン機構	15
	横須賀市消防局	5
	横浜・八景島シーパラダイス	4
	4件	56
3月	海上保安庁水路部海外技術研修生	9
	神奈川県工業技術研修センター	53
	(社)実践倫理宏正会	4
	横須賀市経済部観光課	8
	理化学研究所	5
	全国児童「ハガキに書こう海洋の夢絵画コンテスト」受賞者	12
	6件	91
合計	116件	2,963

表2 国際国際海洋環境情報センター

		平成13年度見学者実績	
		見学者名	人数
11月	27日	第11管区海上保安本部	4
	28日	北中城村婦人会	12
		名護商業高校	9
		その他（個人／端末利用）	88
	合計		113
12月	4日	久辺中学校	14
		沖縄総合事務局	2
		沖縄総合事務局	17
	6日	辺野古商工社交業組合	15
	7日	富士通（株）	25
	11日	北国中学校	6
		久志中学校	18
	14日	与那原町教育委員会	9
		城友の会	13
	15日	西原町婦人連合会	67
	17日	北山高校	8
	18日	沖縄総合事務局	4
		宮崎商工労政科	12
	19日	衆議院内閣調査室	7
		東村議会	11
	20日	名護商業高校	17
		東海大学 海洋学部	6
		名護商業高校	18
	21日	名護商業高校	18
	27日	雇用・能力開発機構	8
	その他（個人／端末利用）	152	
合計		429	
1月	9日	橋本沖縄担当大使御夫妻	2
	16日	参議院 沖縄・北方問題特別派遣委員会	20
	17日	沖縄総合事務局 営繕課	2
	19日	久辺小学校 5年生	7
		（株）エー・アール・ジー	10
		その他（個人／端末利用）	141
	合計		182
2月	4日	北部広域市町村圏・奄美北部広域圏事務組合	25
		インド大使館 tandon参事官御夫妻	3
	5日	沖縄金融公庫	2
	6日	西原町役場	15
	7日	辺土名高校 教員	4
	12日	沖縄総合通信事務所	3
		琉球大学国立高専準備室	2
	13日	辺土名高校 1年生 環境科	32

平成13年度見学者実績			
		見学者名	人数
2月	14日	糸満市教育委員会	9
	15日	文科省研究振興局 坂田大臣官房審議官 他	2
	20日	須田登 特別会計審査官	2
	21日	日本国際協力センター	7
		AAS	4
	22日	三菱総合研究所	4
		経済産業省 沖縄振興企画官	2
	26日	那覇防衛施設局 総務部 広報室	7
		会計検査院 第三局国土交通検査第一課	7
	27日	名護税務署	3
	28日	県立教育センター 産業教育課	17
		その他（個人／端末利用）	123
	合計		273
3月	1日	NTT西日本	4
	4日	上越市立水族博物館／江ノ島水族館	3
	6日	東江でいご学級	20
	7日	文部科学省官房総務課	2
	9日	知念高校PTA西原支部	32
	12日	新しい経営者像の会	17
	13日	球陽高校	43
	14日	球陽高校	82
		通信・放送機構 TAO	4
	16日	北部広域圏事務組合	6
	20日	北部地域農業推進会議	6
		名護教育研究所	3
	28日	名護市羽地支所	3
	29日	沖縄県企画開発部	2
		その他（個人／端末利用）	175
	合計		402
		13年度 来館者数合計	1399

海洋科学技術センター

本部	☎237-0061	神奈川県横須賀市夏島町2-15	電話(0468)66-3811(代表)
横浜研究所	☎236-0001	神奈川県横浜市金沢区昭和町3173-25	電話(045)778-5316(代表)
むつ研究所	☎035-0022	青森県むつ市大字関根字北関根690	電話(0175)25-3811(代表)
国際海洋環境 情報センター	☎905-2172	沖縄県名護市豊原224-3	電話(0980)50-0111(代表)
東京連絡所	☎105-0003	東京都港区西新橋1-2-9	日比谷セントラルビル10階 電話(03)5157-3900
ワシントン 駐在員事務所		JAMSTEC Washington Office 1133 21st Street, NW, Suite 400 Washington D.C. 20036, USA	Phone +1-202-872-0000
シアトル 駐在員事務所		JAMSTEC Seattle Office 810 Third Avenue Suite 632 Seattle, WA 98104, USA	Phone +1-206-957-0543
